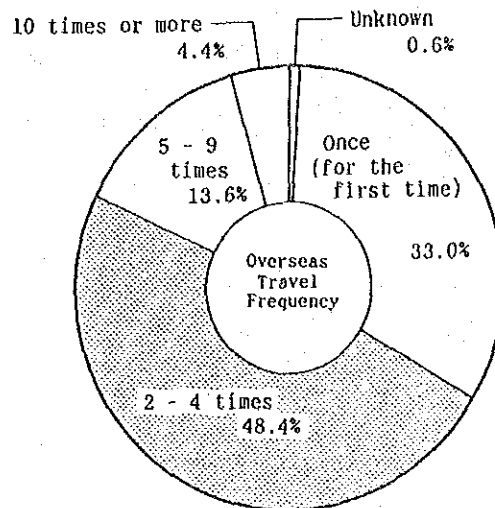


2) 海外旅行ノ欧州旅行回数

・ 欧州旅行「初めて」の旅行者が多く、日本人ギリシャ観光客のヨーロッパへの旅行回数は、「初めて」が76.7%で（図6.2.3）、欧州観光旅行者（除くギリシャ旅行者）での66.0%に比べ多い。

更に、日本人ギリシャ観光客の約1/3は、「海外旅行初めて」の人でもある。

Figure 6.2.3
Overseas Travel Frequency
of Tourists to Greece



Source: Questionnaire of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA (October 1988)

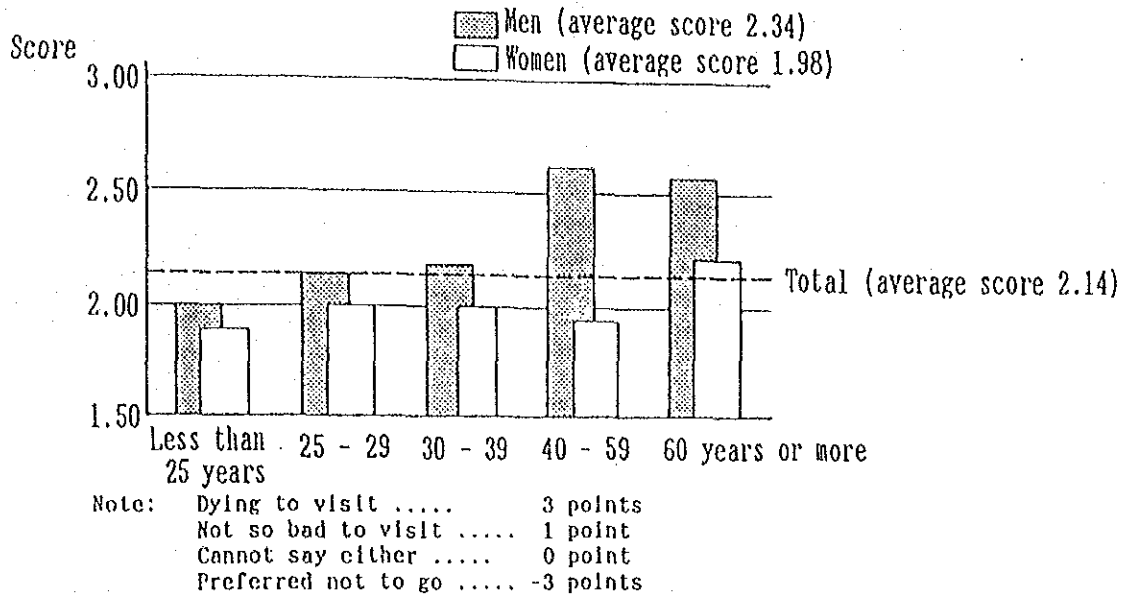
6.2.2 市場特性

1) 主たる対象マーケット

・ 今後ともギリシャは日本人新婚旅行者や女子大生の目的地たり得るであろう。しかし、今後より多くの日本人観光客をギリシャに誘致しようとするのであれば、新たな階層に対しても働きかけなければならない。

図6.2.4は、中高年令層の人々がギリシャ旅行に、大いに興味を持っているという状況を示している。既に海外旅行者の大宗を占めている若いOL層も、当然のことながら、ギリシャ旅行への期待される大きなマーケットである。

Figure 6.2.4
Inclination for Greek Tour by Sex



2) 季節性

・日本人観光客を誘致する季節は、対象マーケット層により異なるであろう。(表6.2.2参照)

6月や7月には若いOL層に期待できる。同様に、9月には、中高年の夫婦層が期待されよう。それは、この季節には、ギリシャを訪れる日本人観光客が比較的少なく、ギリシャ観光の持つさまざまな魅力を十分味わえとともに、彼らがイメージとして持っている「青いエーゲ海」をも堪能することが可能だからである。

Table 6.2.2
Criteria for Greek Tour Development
by Customer Type

		Weather condition	Easy of taking vacation	Acceptability of tour price	Social restrictions	Overall judgement
Long wedded couples	Spring	⊙	○	○	×	
	Summer	△	⊙	○	○	2
	Autumn	⊙	○	○	○	1
	Winter	×	○	○	△	
Honeymooners	Spring	⊙	⊙	○	⊙	1
	Summer	△	○	○	×	
	Autumn	○	⊙	○	⊙	2
	Winter	○	○	○	○	
Students	Spring	○	⊙	⊙	⊙	1
	Summer	⊙	⊙	×	○	
	Autumn	○	×	△	△	
	Winter	○	○	⊙	⊙	2
Female office workers	Spring	○	○	○	○	
	Summer	⊙	⊙	○	○	1
	Autumn	○	△	○	○	
	Winter	○	○	⊙	○	2

Note:

	Weather condition	Ease of taking vacation	Acceptability of tour price	Social restrictions
⊙	Very favorable	Very easy	Very easy to buy	No restrictions at all
○	Favorable	Easy	Easy to buy	No restrictions
△	Not very favorable	Not very easy	Not very easy to buy	Need to consider some restrictions
×	Not favorable at all	Not easy at all	Not easy to buy at all	Need to consider various restrictions

6.2.3 ギリシャ旅行の選択理由

すべてのギリシャ旅行経験者が、ギリシャを訪問したくて、行ったのではないという事実に注目する必要がある。パッケージ・ツアーのコースの中にたまたま組み込まれていたため、ギリシャを訪れたという人も少なくない。(図6.2.5)

・ギリシャを目的地として検討しなかった基本的な理由は、ギリシャに関しての認識の不足や情報の普及が十分でないことによる。(図6.2.6参照)

これから、日本人旅行者にとってギリシャはヨーロッパの国々の中であまり知られてない国であるということが判る。事実、本調査の結果でも、ギリシャ観光のプロモーション認知度は、非常に低いといわざるを得ない。(図6.2.7参照)

Figure 6.2.5
Reasons for Selecting Greek Tourist Course
(Total)

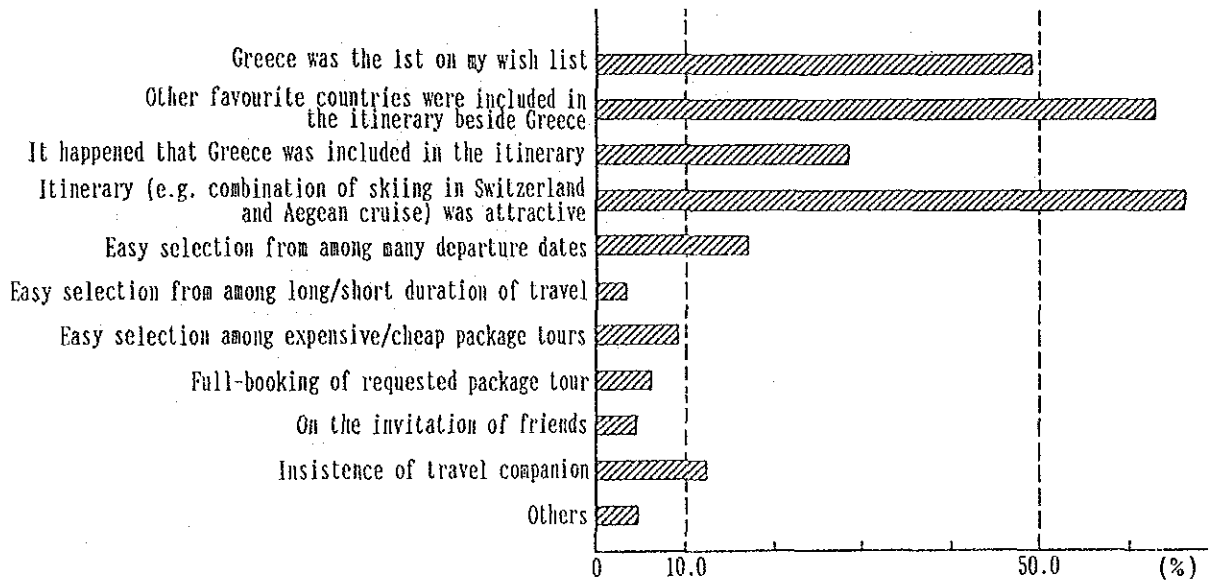


Figure 6.2.6
Reasons for Not Having Studied Greek Tour
(Total)

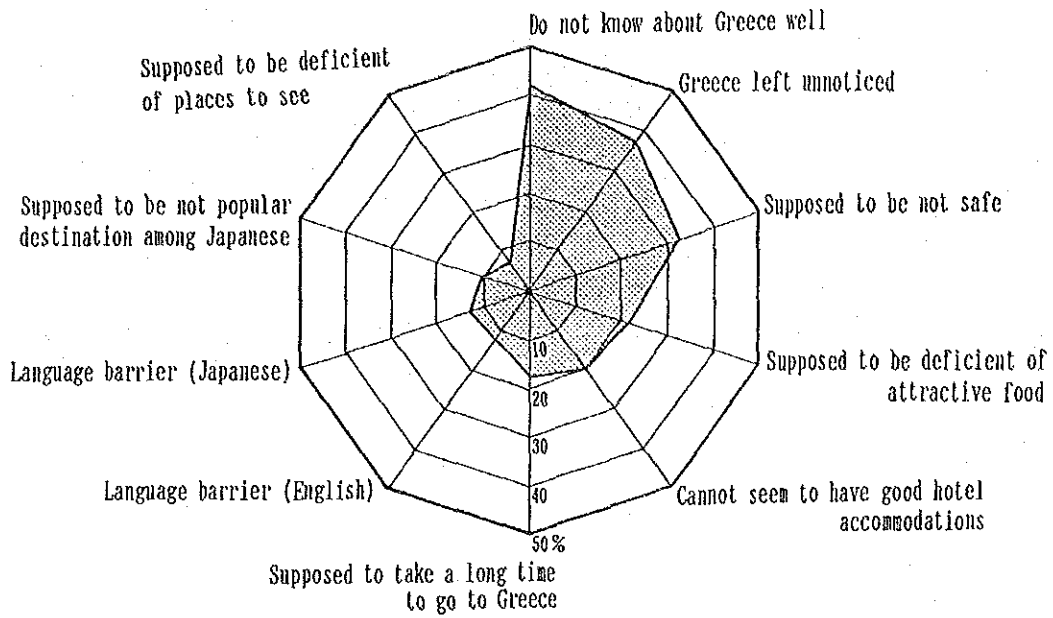
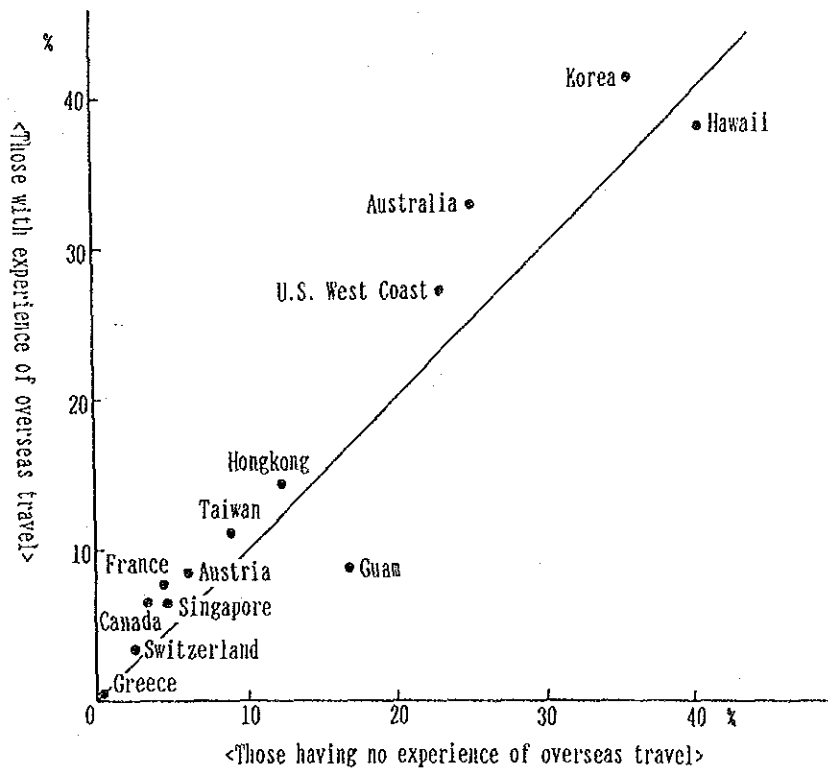


Figure 6.2.7
Comparison of Promotion Awareness Levels

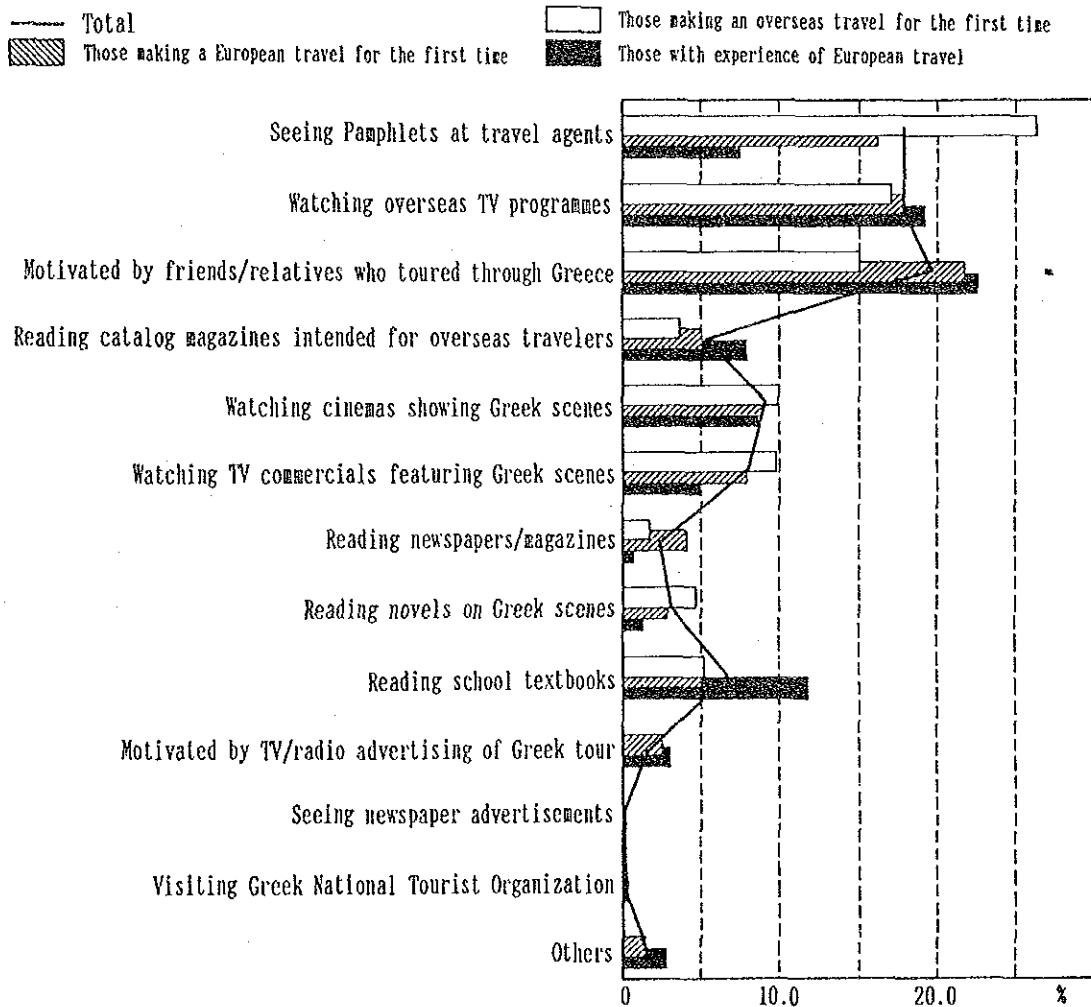


6.2.4 ギリシャ旅行に関する情報

・ギリシャ旅行のきっかけとなった情報媒体としては、海外旅行が初めての人々にとっては「旅行会社のパンフレット」であり、既に海外旅行を経験していた人々には、「口コミ」が重要な役割を占めている。

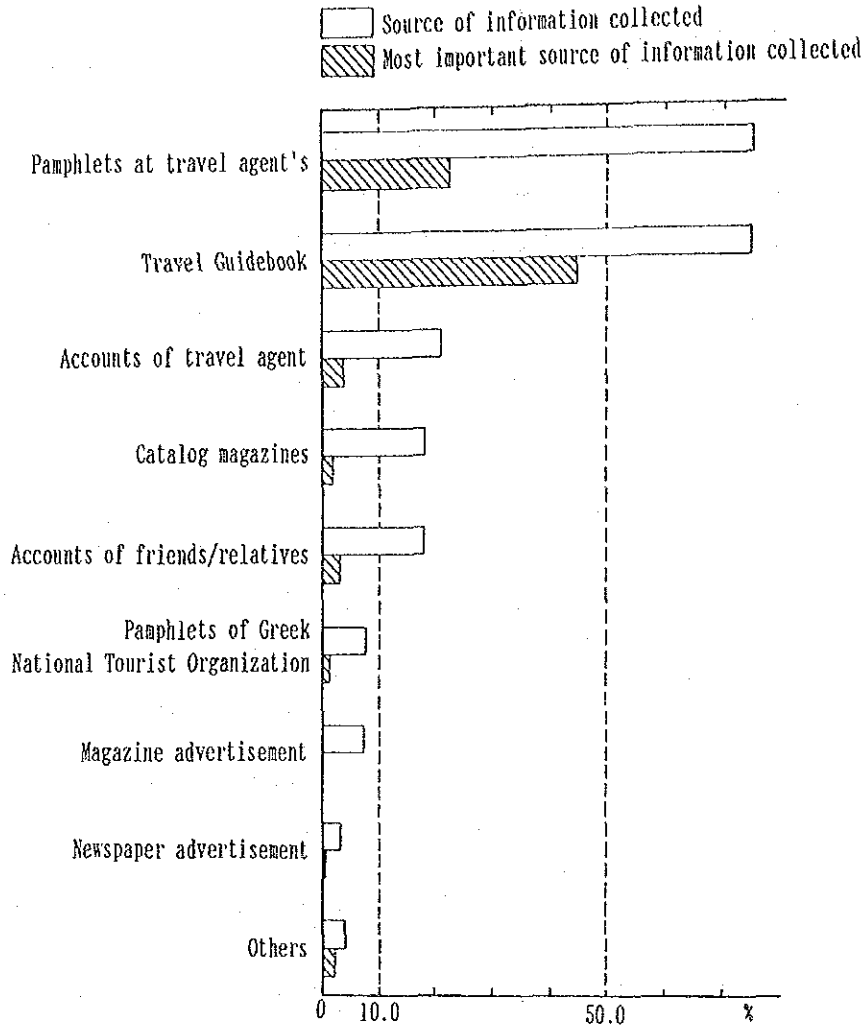
日本人ギリシャ観光客の1/3は海外旅行が初めての人々であるので、旅行会社のパンフレットは大変重要な情報源と認識されねばならない。図6.2.9に示されるように、多くの日本人旅行者は、「旅行会社のパンフレット」と「ガイド・ブック」とを、旅行の計画を立てる際の基本的な情報ソースとしていることが判かる。

Figure 6.2.8
Strongest Motivation of Greek Tour
by Pattern of Overseas Travel



Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

Figure 6.2.9
Source of Information Collected



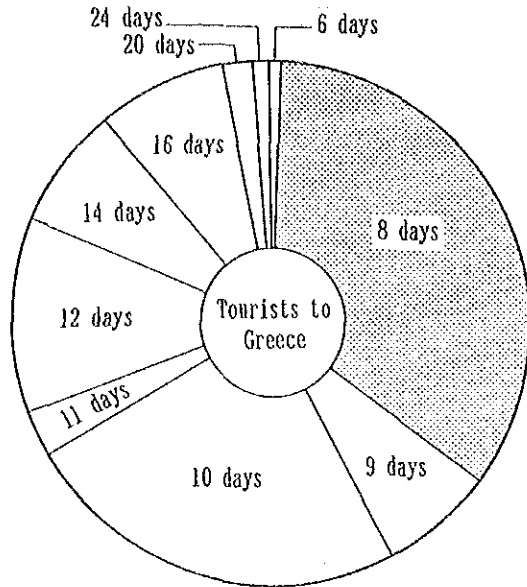
Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

6. 2. 5 旅行形態

1) ヨーロッパ周遊旅行

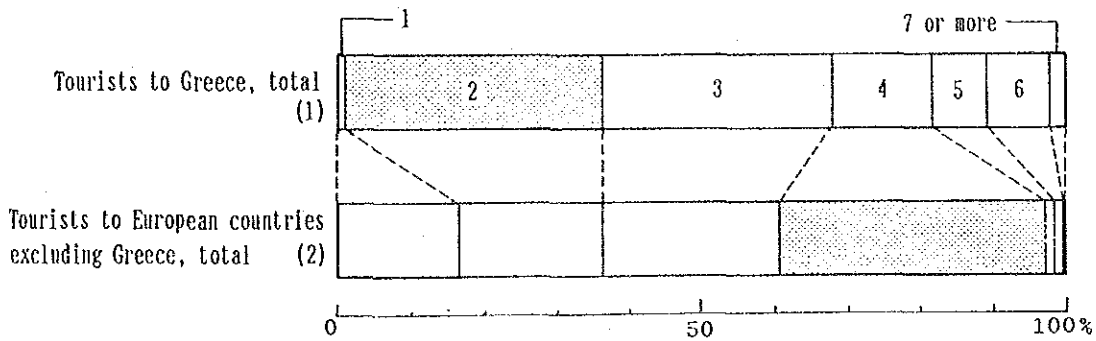
・日本人旅行者は、ギリシャを「モノ・ディステイネーション（単一の目的国）」としてよりも、ヨーロッパ周遊旅行の内の複数の目的国の一つとして訪問している。彼らの平均的なヨーロッパ旅行の日程は10.5日間（図6.2.10参照）で、平均訪問国数は3.3カ国である。（図6.2.11参照）

Figure 6.2.10
Number of Days of Travel (Total)



Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

Figure 6.2.11
Number of Countries Visited (Total)

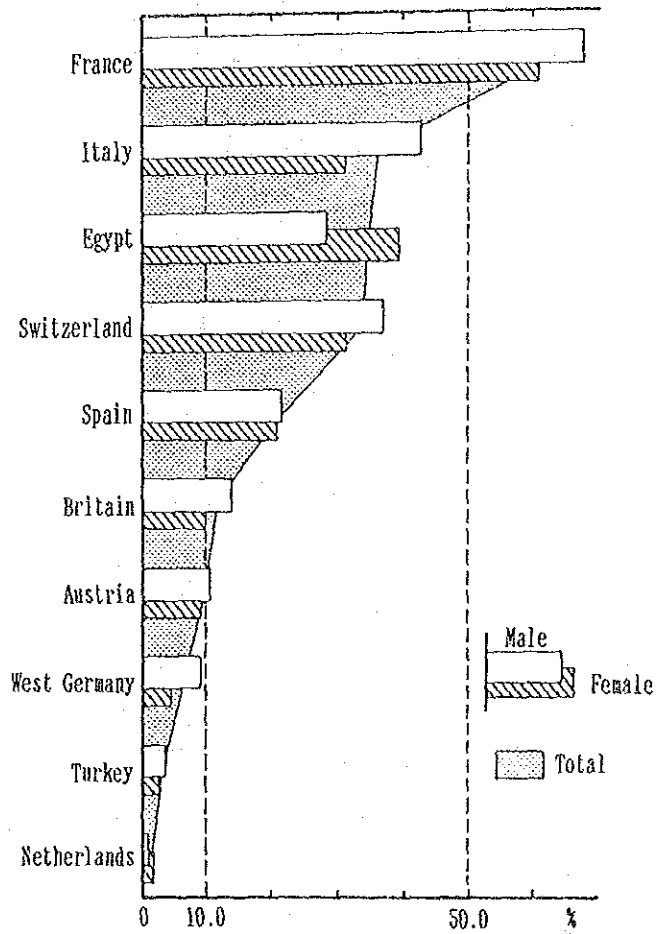


Sources: 1. Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA (October 1988)
2. Questionnaire Survey of Japanese Tourists to Other European Countries, JICA (October 1988)

2) ギリシャ以外の訪問国

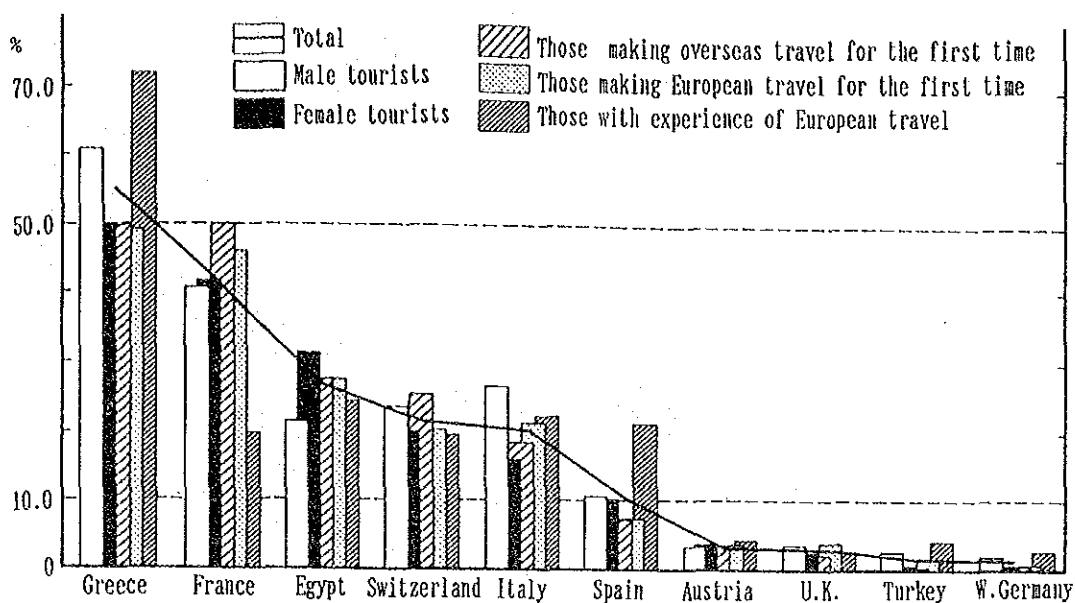
・図6.2.12に示されるように、ギリシャ旅行者が訪れた他の国の中ではフランスがトップを占めている。更に、ヨーロッパ諸国の中で、「最も行ってみたい国」としてフランスを挙げる日本人旅行者は非常に多い。

Figure 6.2.12
Countries Visited (by Sex)



Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

Figure 6.2.13
Most Favourite Destination

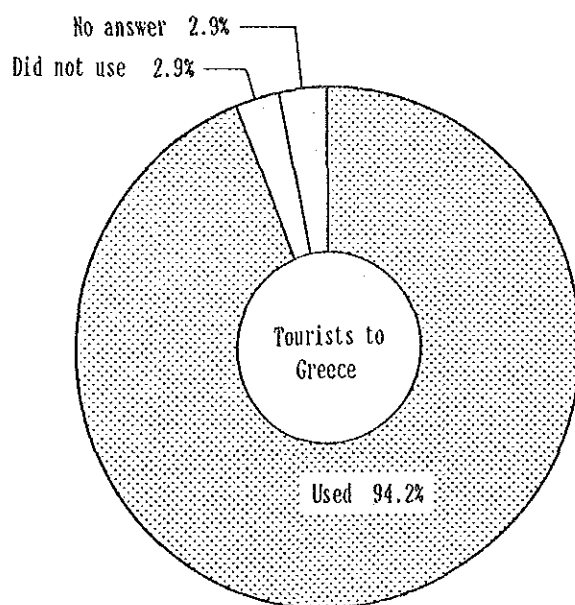


Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA (October 1988)

3) パッケージ・ツアーの利用

・ギリシャの日本人旅行者の大部分は観光目的であり、パッケージ・ツアーの利用率も94%と非常に大きくなっている。(図6.2.14) 従って、旅行者のギリシャ国内に於ける行動パターンは、制約された同一のものとならざるを得ない。

Figure 6.2.14
Usership of Package Tour



Source: "Questionnaire Survey of Japanese Tourists on a Cruise Ship of the Saronic Gulf", JICA (October 1988)

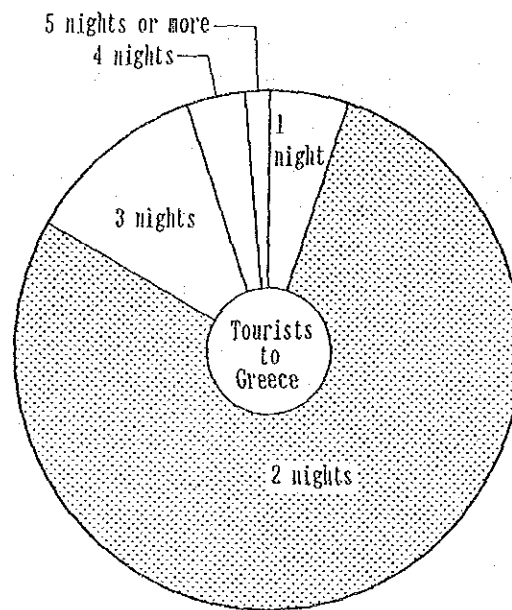
4) ギリシャ国内での旅程

・典型的な日本人ツアー客の日程は次のとおり：

通常、日本人旅行者は他のヨーロッパ諸国の都市から午後の早い時間にアテネに到着する。そして、約3時間程の市内観光をした後アテネ市内に宿泊（第1夜）。翌日は、朝早くからサロニカ湾での1日クルーズを楽しみ、ピレウスへ行って、ミクロリマーノのレストランでシーフードを味わい又市内のホテルに戻る（第2夜）。そして、第3日目の朝に次の目的地へとギリシャを後にする。

図6.2.15に示されるように、従って、ギリシャでの平均宿泊日数は2.17泊である。

Figure 6.2.15
Length of Stay in Greece (Total)

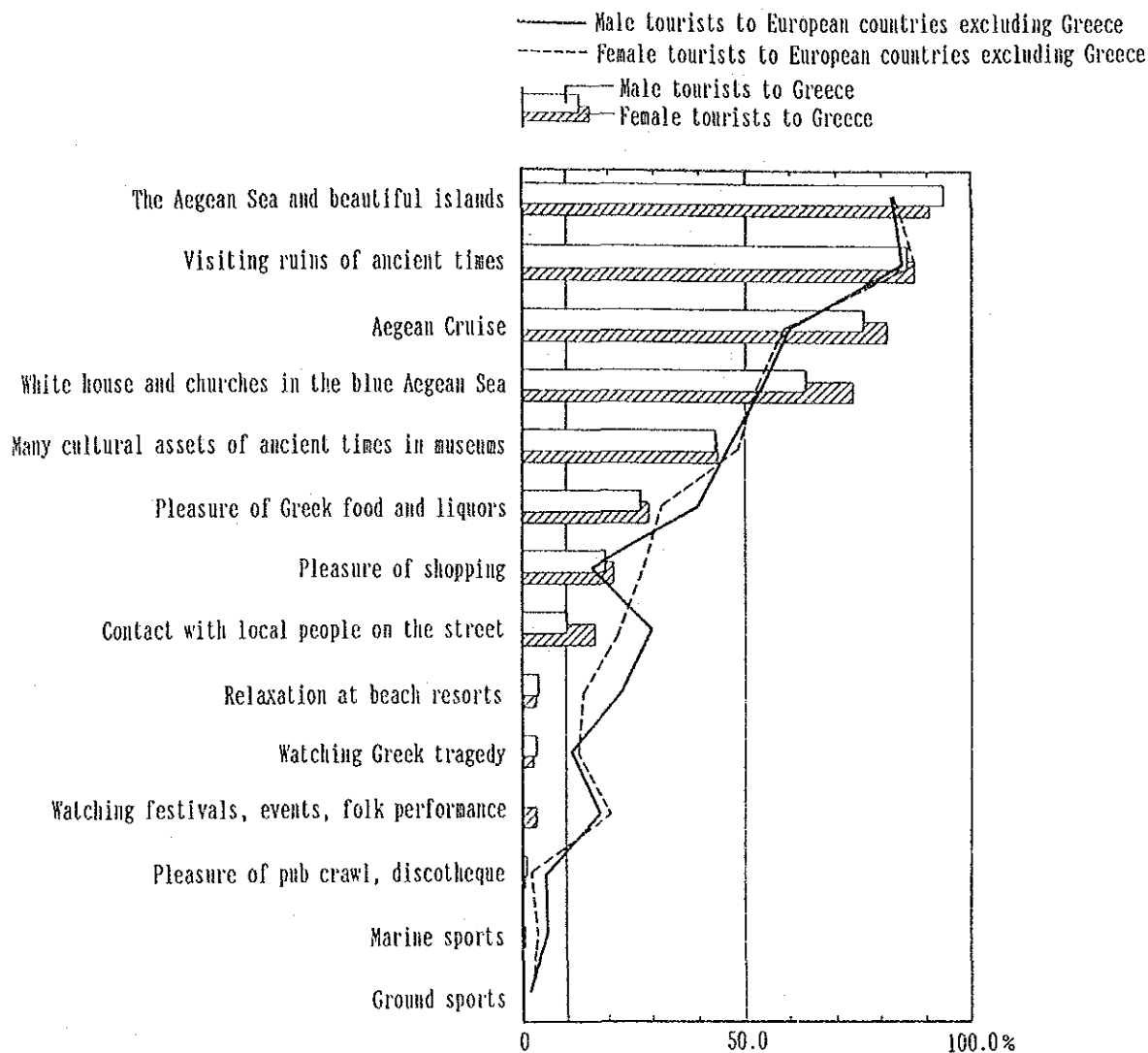


Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

5) ギリシャでの期待

・日本人観光旅行者がギリシャに期待することは、図6.2.16に示されるように、「エーゲ海と美しい島々」を觀賞することと、「古代の遺跡めぐり」に代表される。アクロポリスに代表される古代ギリシャの遺跡は、ギリシャの豊富な各種観光資源の中でも最も重要なものであったが、近年では、日本人の間では、「エーゲ海」が「古代遺跡」に代って、最も期待される対象となっている。それは、日本人の間に構築された「青い空、青い海、白い家」というイメージによる。

Figure 6.2.16
Expectations of Tourist Activities in Greece
(by Sex)

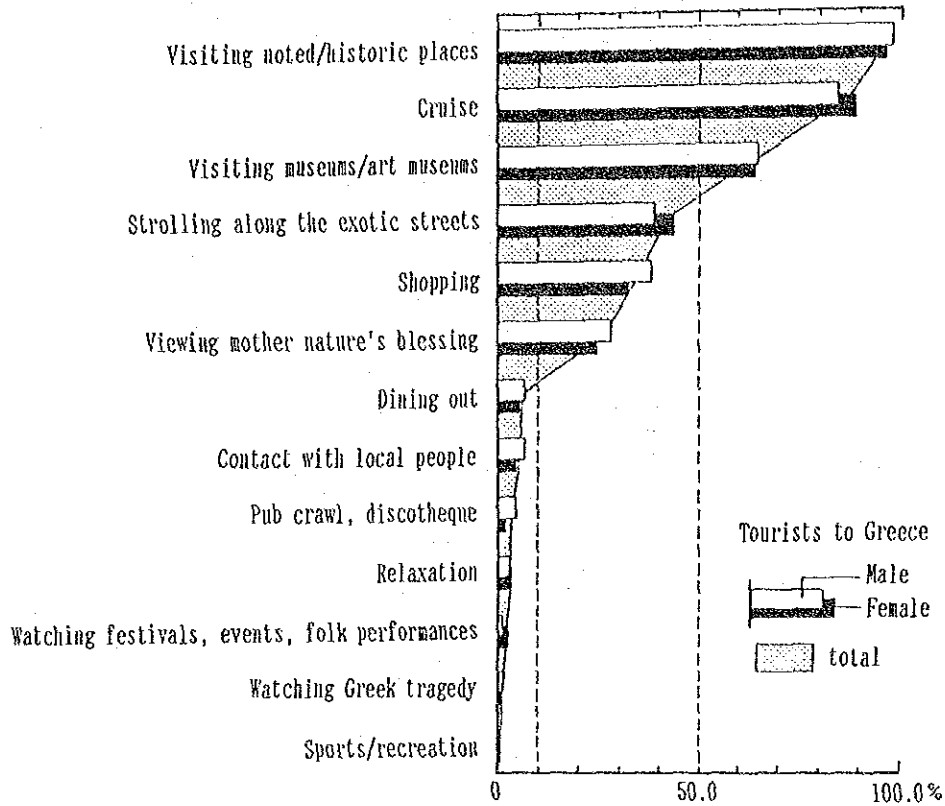


Sources: 1. Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece.
2. Questionnaire Survey of Japanese Tourists to Other European Countries.
3. National Omnibus Survey, JICA (October 1988)

このようなギリシャでの期待に応えるべく、多くのツアー・コースが市内観光（遺跡）とサロニカ湾一日クルーズ（エーゲ海）とを組み合わせている。（図6.2.17参照）。

一方、ショッピング（買物）も海外旅行者にとっては、魅力のあるものである。しかし、ギリシャにおいては、その制約された旅程のため時間的にも、買物を楽しむゆとりが十分無いのが実状である。

Figure 6.2.17
Main Tourist Activities in Greece
(by Sex)



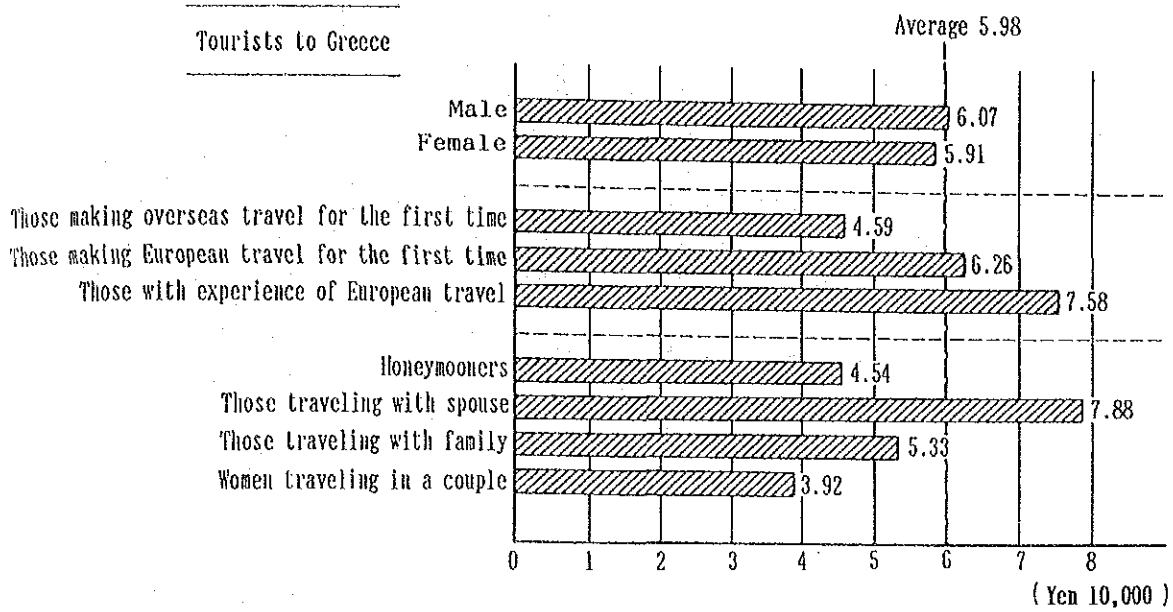
Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA (October 1988)

6) ギリシャでの土産物購入額

・ギリシャ観光旅行者のギリシャでの土産代は、図6.2.18に示すように平均で約6万円(67,000ドラクマ)となっている。これは、欧州訪問1カ国平均(ギリシャを含む)の8万8千円と比べると、かなり低い数値となっている。

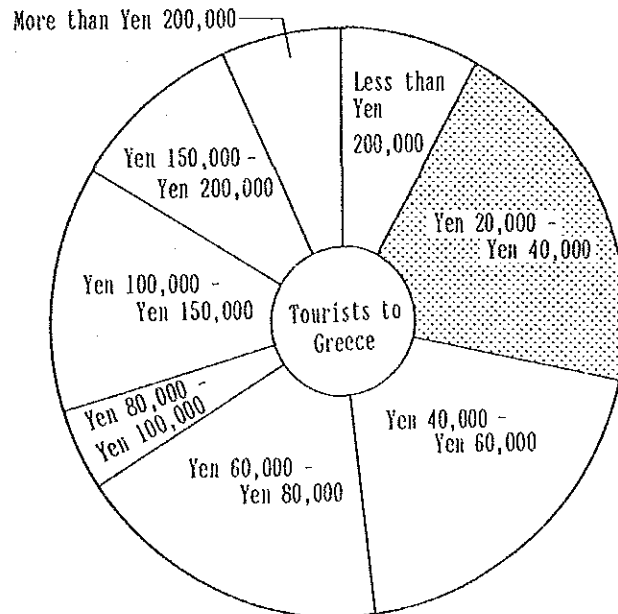
ギリシャ旅行がフランス(パリ)と組み合わされている場合には、パリで高級ブランド品を購入する観光客が多く、ギリシャでの買物が手控えられる場合が多い。

Figure 6.2.18
Average Amount Spent for Souvenirs in Greece



Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

Figure 6.2.19
Amount Spent for Souvenirs per Country
(Total)



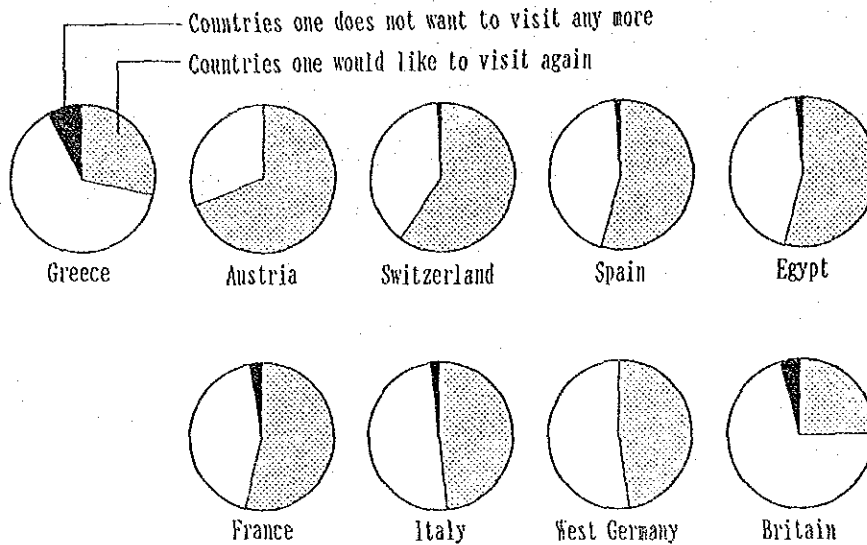
Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

6.2.6 ギリシャ旅行の評価

1) ギリシャ再訪意向

・「また行ってみたい国」を調べてみると、ギリシャは主要欧州9カ国中8番目であり、再訪意向は低い(図6.2.20)。

Figure 6.2.20
Countries One Would Like to Visit Again/
Would Not Like to Visit Any More



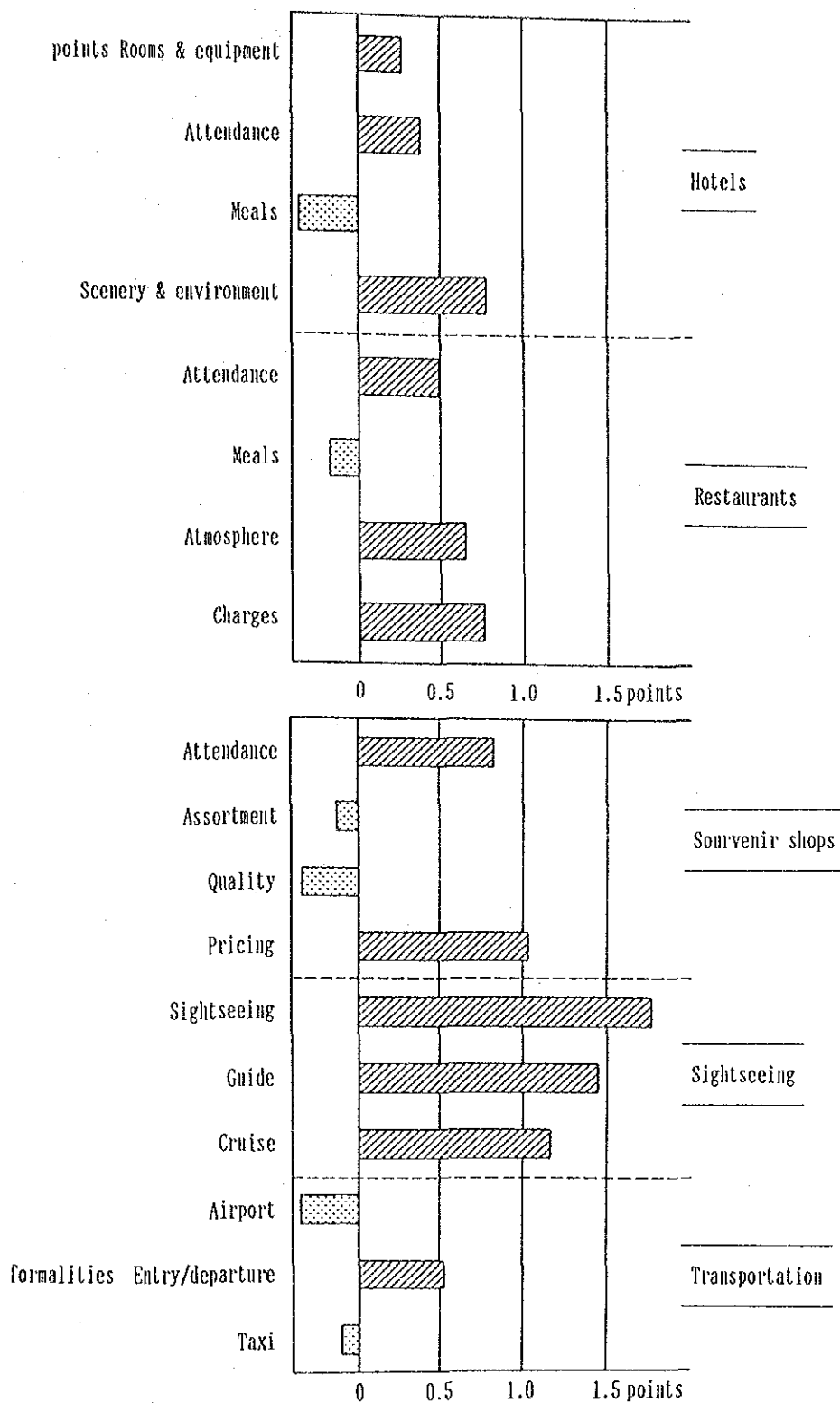
Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

2) 各種観光施設に対する評価

・一般的にあって、日本人観光客は、ギリシャの観光地には高い評価を与えている一方、食事に対する評価は低い。(図6.2.21参照) 食事に対しては、ホテルであれレストランであれ料金は別として、食事の内容について悪い評価がされている。グループ・インタビューの結果でも特に一日クルーズの船上での昼食は、すこぶる評判が悪い。その理由としては、次のようなものが考えられる。

- a) 肉料理は火が通り過ぎていて固い。
- b) 料理の盛り付けやサービスの仕方が洗練されていない。

Figure 6.2.21
Evaluation of Tourist Facilities



Note: Evaluation was made by giving 3 points to "excellent," 0 point to "good to fair," and -3 points to "poor."

Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA(October 1988)

日本人観光客の中には、オリーブ・オイルが口に合わないという人が居るが、以前チーズ類が日本人の嗜好に適合しなかったにもかかわらず最近では好まれるようになった如く、日本人の食物に対する好みも変化し、オリーブも好まれるようになるかもしれない。

土産物については、その値段については妥当であるとしているものの、「品揃え」や「品質」についての評価は低い。

「空港施設」への評価は、どの客層においても低い。旅程の関係から、日本人観光客の多くが、あこがれたヨーロッパの最初の空港としてアテネのエリニコン空港に降り立つ。そのため、一層期待していたイメージとのギャップを感じることになり、雰囲気や施設が貧弱に映ることになる。特に、オリンピック航空専用ターミナルである西ターミナルの施設は国際電話サービス等にいくつかの面で整備が必要である。

・観光地の評価は全般に良好である。しかし、1日クルーズは、期待が大きいだけに、評価が厳しい。それは以下のような理由によると思われる。

a) エーゲ海というと「青い空と青い海」をイメージするが、日本人観光客の多くが訪れる秋から冬のシーズンでは、終日曇りの日も多く、鉛色の海となることも少なくない。天候のため仕方ないことではあるが、このイメージ・ギャップが悪印象を与えるのは当然である。

b) 時々、船内が混雑のために、希望するデッキに席を確保できない場合もある。

c) 船上でのランチが貧弱であり、帰路の船上でのアトラクションも必ずしも面白いものとはいえない。

3) 観光資源

・日本人観光客によるヨーロッパ各国の観光資源に対する比較評価は、表6.2..3のようにまとめられる。

・これによると、ギリシャは、「その美しい海」や「クルーズの魅力」、「各所・旧跡」といった項目で評価されている。

しかし、以下の点では、他のヨーロッパ諸国に比べ十分に高い評価を受けてはいない。

— スイスで評価されているような「牧歌的な田園風景」。

— フランスが最も高く、イタリアやスペインでも評価されている「音楽・美術・芸術等の文化」

— 「エキゾチックな街と人々」、これはスペインやフランスで評価されている。

— 「地元の人々との交流」

— 「行事、民族芸能などの見物」、スペインで評価高い。

— スイスで評価されている「のんびり保養・休養」

— フランス、イタリア、スペイン、英国では期待されている「買物の魅力」

Table 6.2.3
Assessment of the Tourist Resources in Europe

	Natural resources		Cultural resources						Recreational resources				
	Fulness of nature such as beautiful mountains/seas	Pastoral countryside scenery	Visiting ports/historic places	Exotic amusements	Refined culture, such as fine arts and performing arts	Pleasure of genuine ethnic delicacies	Contact with local people	Watching festivals, events and folk performances	Grand-scale sports/recreation	Culture	Shopping	Pleasure of relaxation	Pleasure of pub crawl/discotheque
1. Greece	45.3	0.7	41.0	39.6	5.8	3.7	1.6	0.7	0.1	45.0	2.9	4.0	0.7
2. France	3.5	1.1	33.8	18.4	39.9	16.2	2.7	0.4	0.5	0.3	34.5	0.1	1.3
3. Switzerland	64.9	27.8	6.7	9.9	2.5	5.3	2.0	0.5	6.7	0	3.3	11.6	0.3
4. Austria	6.9	0.1	24.7	10.6	28.3	2.6	0.6	0.9	0	0	0.4	0.6	2.3
5. West Germany	11.8	12.7	48.5	50.4	10.6	9.5	2.1	1.8	0	0.4	6.1	1.7	0.7
6. Britain	0.1	1.0	25.1	18.4	9.6	5.8	1.1	1.3	0	0	14.3	0.4	0.1
7. Italy	9.5	0.1	70.3	49.2	39.0	14.8	4.4	1.7	0.2	1.9	21.0	1.7	2.5
8. Spain	5.3	1.9	83.1	69.5	55.1	26.6	19.4	14.4	0	0	20.4	0.5	4.3

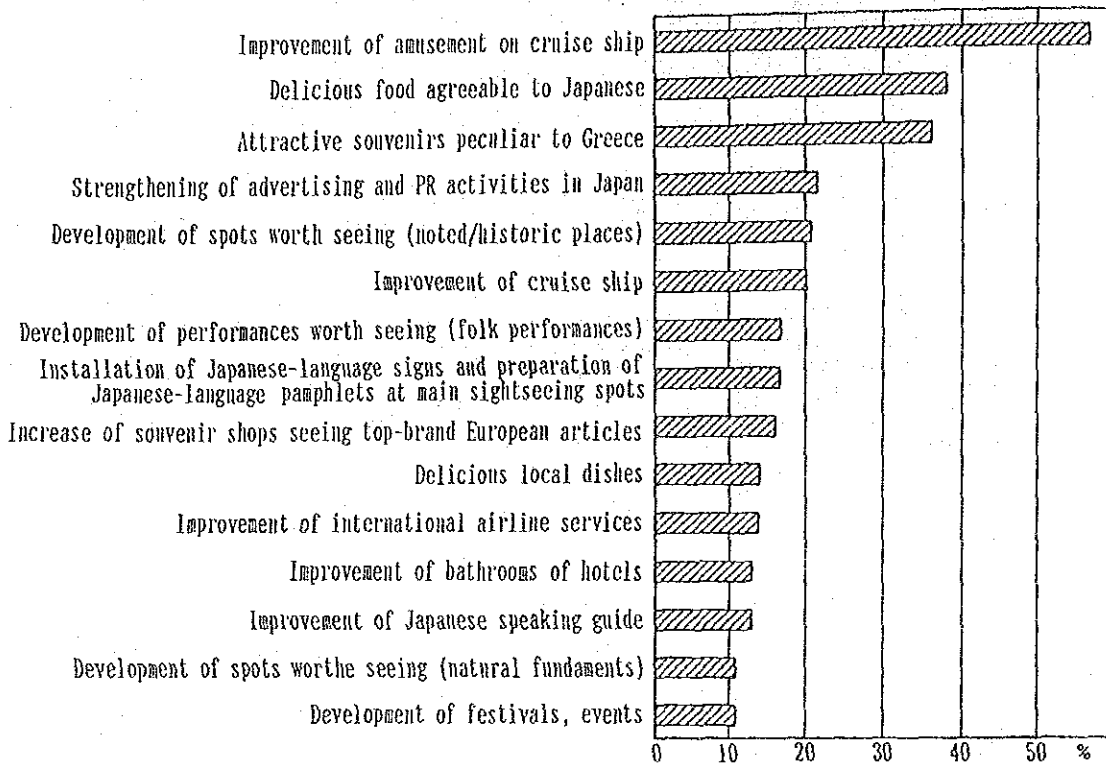
Note: Scores indicate the percentages of those who entertain expectations for individual elements of resources. In the case of Greece, for example, 45.3 out of each 100 tourists evince expectations for the "fulness of nature such as beautiful mountains/seas" element of natural resources.

Sources: 1. Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA (October 1988)
2. Questionnaire Survey of Japanese Tourists to Other European Countries, JICA (October 1988)

4) 観光改善点

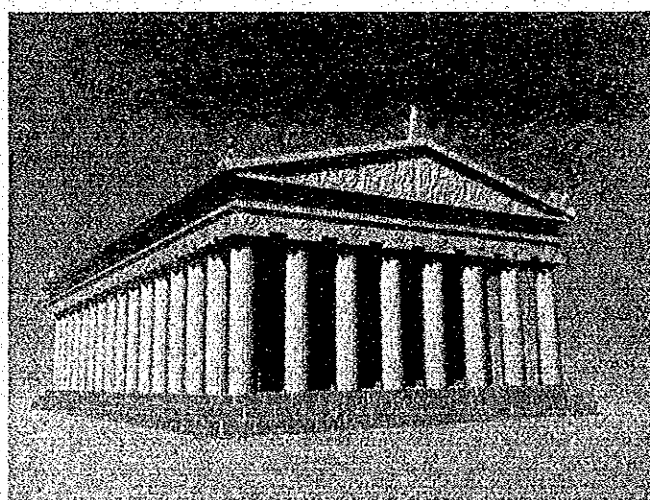
・ギリシャ観光をより魅力的にするための改善点をアンケート調査の結果からまとめると、図6.2.22のように、「クルーズの楽しみ方の向上」がトップにランクされ、次いで「日本人の口に合う料理」、「ギリシャ特産の土産品」となっている。

Figure 6.2.22
Improvements Required for Greek Tour
(Total)



Source: Questionnaire Survey of Japanese Tourists Who Have Been to Greece, JICA (October 1988)

第7章 ギリシャ観光の現状分析



第7章 ギリシャ観光の現状分析

7.1 観光資源と観光施設の現状

7.1.1 観光資源

ギリシャは、国土全体に豊かな自然と文化的な観光資源が存在する国である。自然観光資源としては、島嶼、海洋、海浜、山岳、洞窟、温泉などがあり、文化的観光資源には、各時代の様々な遺跡がみられる。また、国際観光および国内観光に対応したそれぞれの観光施設、サービスも全般的に良く整っている。

1) 自然観光資源

a) 島嶼と海洋

ギリシャを訪れる一般観光客にとって、大小の様々な性格を持った島々の存在は、ギリシャ観光の最大の魅力である。多くの島々は、単にその自然の景観が美しいだけでなく、それぞれに異なった独自の歴史的遺産や伝統文化も受け継いでいる。青い空を背景に白く輝やく家々の点在する小さな島々の姿は、クルーズ船でここを訪れる人々の詩情をかきたてることであろう。

大きな島の中では、Crete (面積8,340km²、人口50万2千人) Rhodes (面積1,800km²、人口9万人)、Corfu (面積641km²、人口3万4千人)の3島が観光地として有名であるが、この他にも Cyclades 諸島の Mykonos, Delos, Santorini 島、アテネ周辺の Aigyna, Polos, Hydra など魅力のある小さな島も多い。

b) 海水浴場および海洋・レジャー

ギリシャの本土、各島の長い海岸線には、数えきれないほどの海水浴場が分布しており、自然のままの海浜から様々なレジャー施設を備えたものまで変化に富んでいる。公共の海水浴場やBクラス以上のホテルの経営する海水浴場は、レストラン、更衣室、栈橋、運動場、テニスコートなどの施設や水上スキー、ウインドサーフィン、スキューバダイビング、ヨットなどのトレーニングセンターなどが完備している。

現在、公共の海水浴場は16ヶ所あり、その内14ヶ所は Greek National Tourism Organization (GNTO) の直営、残りの2ヶ所は、地方政府の経営である。

今のところ海洋リゾートや海洋スポーツを目的としてギリシャを訪れる日本人観光客は少ないが、これらを旅行スケジュールに取り込んでいけば、ギリシャ観光は日本人にとってさらに魅力的なものになると考えられる。

c) スキー

ギリシャに於ける標高1,800m以上の山岳の大部分では、12月から3月までスキーを楽しむことができる。

中でも Olympos 山、Parnassos 山、Pindos 山は、5月までスキーが可能である。しかし、雪質、スキー場の規模、施設のレベル等は、ヨーロッパの代表的なスキー・リゾート地域であるアルプスには及ばない。

d) 洞窟

ギリシャには、約7,500の鍾乳洞があり、この内、3,400は Crete 島に集中している。これらの鍾乳洞の中には、地下に長大な河の走っているものや古代人の住居として使われたものもある。9ヶ所の洞窟については、観光用にリフト、手摺、案内版などの施設が完備している。これらの洞窟は、交通が不便な所にあるため洞窟マニア等の特殊な観光客以外の一般外人観光客にとっては、主要な観光資源になるとは考えられない。

e) 温泉

ギリシャの温泉は、主にギリシャ本土の海岸地域に分布している。外国人観光客が利用する大規模な温泉は、約20ヶ所であり、内9ヶ所は GNTO によって直接運営されている。

温泉の利用客は、1970年の72,900人から1985年には、134,900人と15年間で約2倍に増加している。温泉はギリシャでは医療目的で利用されており、日本のようなレジャー、レクリエーション利用ではない。

f) その他のスポーツ

ギリシャでは上記以外にもあらゆるスポーツ、レクリエーション活動を楽しむことが可能である。

国内には、4ヶ所のゴルフコースがあり、Glyfada Golf Clubは、アテネから16kmの地点に、Corfu Golf Clubは、Kerkyraから14kmの地点、Afandou Golf ClubはRhodes市から19kmの地点に、Porto Carras Golf Courseは、Chalkidiceにそれぞれ位置している。アテネ郊外のGlyfada Golf Clubを除き、これらのゴルフ場は主にリゾート客に利用されている。ゴルフ場は、真夏と真冬の期間以外は通年プレイが可能である。ギリシャでは、世界的に有名なゴルフコースはまだ開発されていない。

2) 文化的観光資源

a) 観光資源としてのギリシャ文化

ギリシャの文化遺産は、主にヨーロッパ文明の揺籃期にあたるミノア、ミケーネの古代ギリシャ、ヘレニズム期のものであり、ヨーロッパ文明の最盛期である中世や近世のものは少ない。したがって、ギリシャの歴史に馴染みの薄い一般観光客にとっては、古代のギリシャと現代のギリシャは、かけ離れたものに映ることになる。

b) 遺跡

ギリシャには、全土に古代ギリシャの歴史的遺跡が存在している。その主要なものは、Acropolis(Athens), Delphi(Central Greece), Knossos(Crete), Mycenae, Epidaurus, Olympia(Peloponnese) などである。

またビザンチン時代（紀元4世紀～15世紀）およびその後の時代の遺跡としては Nauplion Mystra(Peloponnese), Rhodes, Corfu などがある。文化省(Ministry of Culture) で管理している主要な遺跡は、表7.1.1に示す通りである。

有料で公開している遺跡を訪れた観光客は、1984年で720万人、1985年には780万人で、観光収入はそれぞれ6億7,800万ドラクマ、10億8,600万ドラクマに達している。

このような古代の文化遺跡の存在は、ギリシャ観光の大きな特徴であり、遺跡を訪れる観光客は、地元ギリシャ人を含め1985年には780万人に及んでいる。外国人観光客の総数が約800万人であることと、ギリシャの総人口が約1,000万人であることから判断すると、外国人観光客の大部分が遺跡を訪れてると考えられよう。

日本人は、学校で古代ギリシャの歴史を学んでおり、日本の海外旅行の説明書にも歴史的遺跡についての解説があるので、日本人観光客の遺跡観光への関心は高いものと思われる。しかし、日本人観光客に充分理解されるような、案内板や標示などによる解説も満足ではなく、中心となるべきアテネ市内においても不十分であるなど問題点がある。

c) 博物館

ギリシャの博物館は、だいたい次の3種類に分類される。

i) 考古学博物館

古代ギリシャの遺跡からの出土品を展示しており、88の博物館がある。

ii) ビザンチン博物館

ビザンチン時代（4世紀～15世紀）の芸術品を展示している。

iii) その他の歴史/民俗博物館

以上の博物館を訪れた観光客は、1984年で320万人、1985年には350万人であり、入場料収入は、それぞれ3億1,300万ドラクマ、4億2,900万ドラクマとなっている。主要な博物館は National Archaeological Museum (Athens) Delphi Museum (Central Greece), Herakleion Museum(Crete) Ancient Olympia Museum(Peloponnes), Palace of the Knights(Rhodes) である。

考古学博物館の出土品は、学問的な分類に従って展示されているが、展示のしかたは、一般的な観光客にとって感銘が薄く、何らかの工夫が必要であろう。Athensにある Byzantine Museum や Benaki Museum に代表されるビザンチン時代の芸術品の展示は、イコン(宗教画)、民芸品、宝飾品などで、考古学の展示品に比べれば、一般観光客になじみ易いものである。展示品の規模は平均的なものであるが、観光客には魅力的なものとなる。

Table 7.1.1
Major Archaeological Sites in Greece

Town/Regions	Site/Facility	Closed on	Fees (Drs)	Open Hour	
				Weekday	Sunday
Athens	Acropolis Archaeological Site	-	600	7:30-19:15	8:00-18:30
	Ancient Agora	-	400	9:00-14:00	10:00-14:00
	Dionysus Theatre	-	200	9:00-14:45	9:00-13:45
	Keramikos Archaeological Site	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
	Roman Forum	-	200	9:00-15:00	9:00-14:00
	Temple of Olympian Zeus	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
Attica	Elefsina Archaeological Site	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
	Sounion	-	300	9:00-Sunset	10:00-Sunset
	Vravrona Archaeological Site	-	200	9:00-15:00	9:30-14:30
Corinth	Archaeological Site	-	400	8:00-19:00	8:00-18:00
Crete	Aghia Trias Archaeological Site	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
	Knossos Archaeological Site	-	500	8:00-19:00	8:00-18:00
	Phaestos	-	300	8:00-19:00	8:00-18:00
	Tylissos	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
	Gortys	-	200	8:00-19:00	8:00-18:00
	Mallia	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
	Heraklion Harbour Fortress	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
Delos	Archaeological Site	-	500	8:45-15:00	9:30-14:30
Delphi	Archaeological Site	-	400	8:00-19:00	8:00-18:00
Aigina	Temple of Ahaia	-	300	8:00-19:00	8:00-18:00
Epidauros	Archaeological Site	-	500	8:00-19:00	8:00-18:00
Philippi	Archaeological Site	-	200	9:00-17:00	10:00-17:00
Kos	Castle	Tue.	200	8:45-15:00	9:30-14:30
	Restored Ancient Dwelling	Tue.	200	8:45-15:00	9:30-14:30
Lesbos	Castle of Mytilene	Mon. Tue.	200	15:00-18:00 (Wed. Thu.)	9:00-18:00 (Sat. Sun.)
Melos	Catacombs	Wed. Sun.	200	9:00-14:30	-
Mycenae	Archaeological Site	-	500	8:00-19:00	8:00-18:00
Mystra	Archaeological Site	-	400	8:00-19:00	8:00-18:00
Nauplion	Palamidi Fortress	-	200	8:00-19:00	8:00-18:00
Olympia	Archaeological Site	-	400	8:00-19:00	8:00-18:00
Pella	Archaeological Site	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
Pilos	Nestor's Palace	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
Rhodes	Camiros	-	200	8:45-17:00	9:30-17:00
	Acropolis of Talyssos	-	200	8:45-17:00	9:30-17:00
	Acropolis of Lindos	-	400	8:45-17:00	9:30-17:00
Samos	Hera Temple	-	200	8:00-14:00	8:00-13:00
Samothraki	Archaeological Site	-	200	8:45-15:00	9:30-14:30
Santorini	Akrotirion Thiras	-	500	8:00-19:00	8:00-18:00
Tiryns	Archaeological Site	-	300	8:00-19:00	8:00-18:00
Vergina	Archaeological Site	-	300	8:45-15:00	9:30-14:30

Source: GNTO

d) 催し物 (イベント)

ギリシャでは、様々なフェスティバルや芸術祭、スポーツ大会など観光的な催し物も多い。催し物の大部分は、夏期に集中しているが、他の季節に行われるものもある。

フェスティバル

大きなフェスティバルはそのほとんどがGNTOが組織しているもので、次のものがある。

(i) Athens Festival

このフェスティバルは、30年前に始められたもので、現在では、国際的に有名になっている。フェスティバルの運営はGNTOによって行われ、毎年6月から9月の間に開催されている。内容は国際的な芸術家による演劇、オペラ、バレエ、モダンダンス、音楽などである。

(ii) Epidaurus Festival

これは、Athens から154kmの所にある Epidaurus の古代劇場で、毎年7月から9月初旬にかけて催されるもので、古代ギリシャ劇の専門フェスティバルである。このフェスティバルと遺跡見物を組み合わせたツアーが多い。

(iii) Sound and Light

4月から10月の間、Acropolis に向う Pnyx の丘で行なわれる、歴史を題材とした音と光のショーで、英語、フランス語、ドイツ語の解説がつく、ショーは夜9時~10時の間に行われる。

(iv) Lycabettos Festival

Athens にある野外劇場で、6月半ばから8月の終わりまで、GNTOの運営により、様々な催し物が行なわれている。

(v) Dora Straton Theatre in Athens

6月から9月の間に、ギリシャのフォークダンスが演じられている。開演時間は、通常夜10時25分、水曜と日曜は8時15分である。

(vi) Wine Festival

このフェスティバルは毎夏ディオニソス誕生の地で行なわれるもので、ギリシャワインが無料で振舞われ、歌と踊りの催しがある。開催地は毎年変わる。

(vii) "Veakio" Municipal Amphitheatre of Piraeus

6月から9月の間様々な芸能が催される。

スポーツイベント

国際ヨットレース、スパルタスロン (Athens~Sparta 間250kmの長距離マラソン)、国際アテネマラソン、アクロポリスラリー(自動車レース)、水上スポーツ大会など様々なスポーツ大会が国内各地で行われている。そのほとんどは6月から9月に開催される。

7.1.2 観光施設および観光産業

観光産業とは、観光消費に関わる直接的および間接的な物の生産、サービスのすべての活動であると考えられる。ここでは、限られた資料からではあるが、ギリシャの観光産業を様々な面から検討してみる。

1) 宿泊施設

a) 宿泊施設の種類と収容能力

ギリシャでは様々なタイプの宿泊施設が観光客の利用に供されている。

表7.1.2に示すように、ホテル以外にも貸部屋がきわめて多く、夏期の観光客のピーク需要をまかなえるように配慮されている。このような公認の宿泊施設は、GNTTOの基準により3若しくは6種類のランクが与えられている。表7.1.3に示すように、ホテルは、高級(AA)、A、B、C、D、Eの6つのランクに分れており、他の宿泊施設3ないし4クラスに分けられている。ホテルのクラス分けは、現在見直し中で、近々新しい基準によるクラス分類になる予定である。

Table 7.1.2
Capacity of Accommodation Establishments, 1988

Type	Capacity
Licensed Hotel Accommodation	395,812 beds
Licensed Room to Rent	219,318 beds
Licensed Campings	75,410 persons
Yachts	12,000 beds
Cruise-ships	12,000 beds

Source: 1988 Annual Report, GNTTO

b) ホテル

収容能力

ギリシャには、1985年で全国で5,200のホテルがあり、35万ベットの収容能力は、1965年に比べると8万ベット増加している。

ホテルと収容能力の地域分布は、表7.1.4および表7.1.5に示す通りである。

ホテルベット数は、Aegean Islands, Crete, Central Greeceなどの特定地域に集中しており、これらの地域で全体の60%を占めている。高級ホテル(AAおよびAクラス)もAegean IslandsやIonian Islands, 特にCrete, Rhodes, CorfuおよびAthensやThessaloniki, などの大都市に集中している。

1981年から1985年までのホテルベット数の増加は、Crete, Aegean Islands, Ionian Islands, Thessaly地域で著しい。

Table 7.1.3
Capacity of Licensed Accommodation Establishments, 1988

	Category	Number of Establishments	Number of Rooms	Number of Beds
HOTELS	Deluxe	42	10389	19513
	A class	240	40748	76098
	B class	660	46632	87341
	C class	1858	59372	111044
	D class	970	16034	30760
	E class	734	8479	16847
BUNGALOWS	Deluxe	3	297	591
	A class	7	814	1532
	B class	25	1606	3094
	C class	13	382	739
MOTELS	Deluxe	2	277	541
	A class	6	532	1024
	B class	22	872	1651
	C class	1	30	58
APARTMENT HOTELS	A class	93	2276	4454
	B class	129	2037	4086
	C class	475	7760	13839
	D class	35	442	802
GUEST HOUSES	A class	53	567	1181
	B class	537	8079	15557
	C class	-	-	-
INNS		46	291	607
TOTAL		6129	210191	391358

Source: G.N.T.O./Establishments Supervision Dept.

ホテル客室稼働率

ホテルの客室稼働率は、地域およびホテルの種類によりかなり異っている。

表7.1.6にみられるように Corfu, Crete, Rhodes, Aegean Islands のようなリゾート地域のホテルの稼働率は概して高く、特にこれらの地域のBクラス以上の比較的高級なホテルは80%以上の高い稼働率となっている。(オフシーズンには閉塞されるものが多い)

したがって上記の地域では、夏期には常に宿泊施設の容量は不足している。

Table 7.1.4
Hotel Capacity, by Geographic Region

Region	No. of Hotel Units			No. of Hotel Beds			Ave. Hotel Size: No. of Beds/Unit		1985/1981 Ratio	
	1981	1985	(%)	1981	1985	(%)	1981	1985	Hotel Units	Hotel Beds
Greater Athens	581	608	11.7	52,020	59,787	17.2	90	98	1.05	1.15
Rest of Central and Euboea	756	806	15.5	41,645	39,807	11.4	55	49	1.07	0.96
Peloponnese	561	608	11.7	34,466	37,328	10.7	61	61	1.08	1.08
Ionian Islands	245	365	7.0	23,380	30,266	8.7	95	83	1.49	1.29
Epirus	104	114	2.2	4,906	5,801	1.7	47	51	1.10	1.18
Thessaly	188	314	6.0	10,277	14,215	4.1	55	45	1.67	1.38
Macedonia	482	506	9.7	31,919	33,782	9.7	66	67	1.05	1.06
Thrace	60	66	1.3	2,662	3,318	0.9	44	50	1.10	1.25
Aegean Islands	722	1,117	21.5	53,296	75,450	21.7	74	75	1.55	1.42
Crete	406	697	13.4	32,449	48,417	13.9	80	77	1.72	1.49
Total	4,105	5,201	100.0	286,020	348,171	100.0	70	67	1.27	1.22

Source: Tourism Statistic 1984/85

Table 7.1.5
Distribution of Hotel Capacity by Category and Region

Region	Hotel Units						Beds					
	AA	A	B	C	D,E	Total	AA	A	B	C	D,E	Total
Greater Athens	20	75	175	286	162	718	9,015	11,032	18,531	21,125	6,118	65,821
Rest of Central and Euboea	-	18	188	339	203	748	-	2,430	12,547	14,689	5,457	35,123
Peloponnese	2	31	103	224	216	576	210	6,784	10,485	12,041	4,921	34,441
Ionian Islands	5	40	88	204	90	427	2,052	9,600	10,629	9,249	2,622	34,152
Epirus	-	1	26	52	39	118	-	43	2,258	2,848	1,192	6,341
Thessaly	1	21	58	132	134	346	424	1,404	3,428	6,077	3,893	15,226
Macedonia	2	17	90	173	231	513	1,542	5,956	11,249	9,719	7,002	35,468
Thrace	-	1	16	23	19	59	-	99	1,492	1,368	564	3,523
Aegean Islands	5	97	293	494	405	1,294	3,091	26,982	19,227	25,149	10,084	84,533
Crete	8	62	215	380	175	840	3,252	17,527	13,455	17,105	4,263	55,602
Total	43	363	1,252	2,307	1,674	5,639	19,586	81,857	103,301	119,370	46,116	370,230

Source: Greece Hotel Guide 1988

Table 7.1.6
Hotel Occupancy by Category and Tourist Area

Tourist Areas	A A		A		B		C		D & E		Total	
	Foreigners	Total	Foreigners	Total	Foreigners	Total	Foreigners	Total	Foreigners	Total	Foreigners	Total
Total	53.9	59.0	70.5	77.1	42.4	58.2	27.4	45.6	11.1	28.3	39.1	50.1
Athens	48.6	51.5	57.2	62.9	49.1	61.9	26.9	41.9	10.2	29.0	8.1	25.2
Athens - North Suburbs	6.1	18.3	21.0	38.7	2.5	16.0	6.1	24.1	1.2	20.3	38.1	43.5
Coasts of Attica	33.9	41.2	63.6	66.7	38.3	42.9	25.5	32.4	7.4	17.3	21.5	37.3
Kamena Vourla- Malessina	-	-	21.7	41.2	41.7	54.3	1.3	22.5	0.7	11.1	36.6	47.8
Eratini - Delfi	-	-	48.1	60.5	36.3	50.2	30.4	37.0	17.8	23.6	44.5	53.6
Eretria - Aliveri	-	-	-	-	48.1	56.6	38.0	44.0	0.1	21.5	21.3	39.3
Kilini - Gargaliani	-	-	47.7	55.6	-	-	6.8	30.6	3.4	27.4	12.9	39.1
Pylos - Messini	-	-	-	-	19.1	53.9	11.0	38.4	8.3	21.6	22.7	40.2
Corinth - Patras	-	-	40.6	49.9	27.3	43.3	14.1	38.3	6.1	25.1	41.9	51.6
Ermionis Area	-	-	52.8	59.8	39.5	50.0	13.4	29.3	1.8	19.5	27.6	41.1
Methana - Poros - Galatas	-	-	30.8	45.6	43.2	54.3	13.5	27.8	9.1	28.1	19.0	31.6
Makrighalos - Platamon	-	-	-	-	21.7	30.0	18.3	32.8	16.2	32.1	18.5	50.3
Salonica - Agia Trias	20.2	36.1	21.5	49.6	23.9	56.0	14.4	51.3	11.2	42.0	49.2	62.7
Moudania - Ierissos	30.3	51.0	65.5	75.5	43.6	58.8	28.5	44.8	7.4	19.4	17.6	42.6
Kavala - Thassos	-	-	28.4	34.3	19.0	47.0	14.0	47.9	11.4	28.8	5.9	31.6
Pilio	-	-	-	-	11.9	52.6	2.5	22.0	3.6	19.4	50.4	60.6
Sporades	66.9	77.1	74.8	80.7	60.0	69.6	30.8	44.2	22.6	30.7	67.4	74.6
Corfu	63.6	70.5	76.8	80.8	70.7	78.1	57.9	68.1	27.9	35.1	26.1	44.3
Ionian Islands	-	-	53.5	62.7	29.0	49.1	21.7	40.3	3.2	20.7	16.3	32.7
Epirus coasts	-	-	-	-	27.2	43.1	6.8	25.4	7.4	22.6	72.6	79.4
North Crete	82.0	84.0	84.0	89.3	79.3	85.6	60.1	72.0	24.7	33.9	53.5	60.9
South Crete	-	-	90.6	92.7	75.1	84.6	18.6	38.6	9.2	14.0	80.6	88.7
Rest of Crete	95.0	99.3	106.2	108.4	85.7	86.4	61.4	64.2	19.2	21.3	78.8	84.8
Rhodes	71.9	76.2	85.8	90.0	66.0	80.3	80.1	85.6	45.2	49.7	74.3	77.9
Kos	-	-	81.7	85.3	69.5	72.7	73.2	76.6	30.9	39.8	18.4	26.7
Rest of Dodecanese	-	-	75.9	85.6	25.0	36.1	21.7	28.7	7.5	17.0	31.8	42.7
Cyclades	-	-	58.3	63.5	40.4	52.8	28.3	40.4	25.5	34.4	29.5	42.1
Aegean Islands	70.4	80.9	-	-	25.2	41.7	36.8	45.0	10.8	24.8	12.4	37.3
Rest of Greece	30.4	45.7	36.2	52.4	20.4	49.5	9.2	35.3	4.9	26.2	40.6	54.5

Source: GNTO

表7.1.7にみられるようにホテルの客室稼働率は一般に、夏期は非常に高く、反対に冬は低い。実際に、11月から3月の冬期には、閉鎖あるいは、部分営業を行っているホテルが多い。

Table 7.1.7
Hotel Occupancy Rates by Month, 1987 (Selected Areas)

Month	Athens	Rhodes	Crete	Myconos	Santorini
January	26.7	21.8	18.8	25.2	5.3
February	26.3	23.5	22.1	20.5	6.8
March	39.6	33.5	31.7	28.5	7.7
April	44.0	64.8	61.4	17.1	16.4
May	42.7	98.2	90.3	44.5	30.8
June	40.7	102.7	87.5	54.4	29.7
July	50.0	112.4	100.0	70.2	49.4
August	63.5	114.7	107.5	79.7	62.4
September	53.3	106.1	95.6	55.4	44.4
October	42.1	75.5	73.7	24.6	25.9
November	32.3	15.5	23.7	34.7	9.7
December	27.5	17.3	19.4	21.8	4.3

Source: National Statistical Service at Greece

経営状況

ギリシャのホテル業は、観光客の季節変動の影響が極めて大きく、夏期のリゾート地域に立地するホテルの大部分は、年間7カ月の営業である。このことは、ギリシャの高金利（1988年で年利18.5%）と共に最もホテル経営を圧迫する要因となっている。表7.1.8にみられるように、Athensの大規模ホテルでもかなり苦しい経営状況におかれている。

Table 7.1.8
Financial Conditions of Selected Major Hotels

	Greece ^{1/}			Japan ^{2/}	
	1985	1986	1987	1985	1986
Net Sales	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Cost of Goods	82.2	94.1	80.8		
Gross Margin	17.8	5.9	19.2	81.8	83.2
General & Administration Cost	10.5	10.8	9.7		
Depreciation	4.8	4.6	6.3	5.8	6.1
Operating Margin & Losses	2.5	-9.5	3.1	12.4	10.7
Non Operation Income & Expenses	0.0	-1.0	0.4	0.2	0.8
Profit before Interest & Income Tax	2.5	-10.6	3.5	12.6	11.5
Interest	3.7	25.6	19.1	1.9	1.4
Profit before Income Tax	-1.1	-36.2	-15.6	10.7	10.1

Source: GNTD

^{1/} Average of G.B, Olympic and Intercontinental

^{2/} Average of five representative urban hotels

GNTOのホテル

ギリシャ政府の観光振興政策の一環として、GNTOは、主として国内観光客向けの Xenia ホテル (26ヶ所) を経営している。また、外国人観光客向けにも Nauplion の Xenia Palace のような高級ホテルも所有している。さらにGNTOは、民間所有の歴史的建物をホテルに改造し、民間に経営させる“Traditional Hotels”の開発も行っており、このようなホテルは、一部の外国人リゾート客に好評を博している。

c) その他の宿泊施設

キャンプ場

ギリシャには全国でオートキャンプ場も含め約250ヶ所のキャンプ場が設けられており、表7.1.9に示すように、キャンプ場の数および収容力は年々少しずつ増加している。

キャンプ場は主に海岸地域に設置されている。

Table 7.1.9
No. of Camping Sites and Units

	No. of Sites (a)	Capacity: No. of units(b)	Average size (b)/(a)
1981	206	18,422	89.4
1982	211	18,660	88.4
1983	235	20,715	88.1
1984	233	21,641	92.9
1985	240	22,131	92.2

Source: Tourism Statistics, 1982/83 and 1984/85

貸室 (レンタルルーム)

貸室の実態については明かではないが、主に観光シーズン中に、島嶼地域で行われていると思われる。貸室は、リゾート客に個性的で家庭的な宿舎を提供できると共に、住民の直接的な収入源ともなるため、観光振興政策の有力な手段のひとつとして、今後全体的な実態を把握しておく必要がある。

d) 外国人の宿泊施設選好

外国人観光客がどのようなタイプの宿泊施設を選好するかは、観光客の国籍によって異っている。表7.1.10によれば、その選好特性は次のようにまとめられる。

— 国籍を問わず大部分の観光客は、ホテルに宿泊するが、ヨーロッパ人の観光客の方が、他の国の観光客より、その他の宿泊施設を利用する機会が多い。ただし、ヨーロッパ以外の国の宿泊客は、観光以外の目的が多いことも影響している。

Table 7.1.10
Utilization of Accommodations, by Category and by Nationality of Tourist

Nationality	Main Hotel Unit					Supplementary Units						Grand Total
	Hotels					Bungalows and Motels	Guest Rooms	Boarding Houses	Furnished Suites	Camping	Summer Resorts	
	AA	A	B	C	D+E							
Total	7.6	25.4	23.5	22.9	5.9	2.9	2.1	0.5	2.6	5.1	1.5	100
Greek	2.7	8.7	25.3	36.6	14.3	1.7	2.8	1.2	0.7	5.9	0.2	100
Greek (Foreign Nationals)	3.7	29.9	15.2	30.3	12.9	0.7	1.7	0.7	1.6	3.1	0.3	100
British	8.1	37.1	23.4	16.3	2.9	3.8	1.7	0.2	3.6	2.7	0.3	100
Austrian	5.0	33.7	22.0	17.0	2.9	5.8	1.6	0.1	0.9	8.9	2.0	100
Belgian-Luxemburger	13.6	31.5	23.4	11.4	2.7	4.8	1.1	0.3	0.7	3.8	6.8	100
French	6.0	27.2	27.8	14.1	3.0	5.3	1.1	0.4	0.7	6.2	8.1	100
German (F.R.)	7.3	38.8	20.6	14.1	2.6	4.3	1.0	0.1	2.2	7.0	1.8	100
Yugoslavian	2.2	4.6	21.1	20.8	14.0	0.5	0.7	0.2	0.7	35.1	0.1	100
Danish	4.4	31.8	27.8	23.1	1.5	0.5	3.3	0.2	5.0	2.3	0.1	100
Swiss	8.1	45.5	15.3	16.3	1.7	7.1	1.3	0.1	0.8	2.1	1.6	100
Italian	10.8	21.4	23.6	14.2	3.2	3.3	1.0	0.2	1.1	12.9	8.3	100
Spanish	9.4	22.8	29.9	24.5	2.7	1.1	1.6	0.2	0.2	6.0	1.3	100
Cyprian	8.3	12.9	31.1	38.6	4.8	0.5	1.1	0.3	1.2	1.0	0.2	100
Norwegian	3.7	28.7	25.2	25.4	1.2	1.1	2.8	0.1	10.2	0.5	0.1	100
Dutch	7.6	29.5	18.5	21.8	2.3	2.8	1.2	0.2	8.2	7.3	0.4	100
Swedish	2.2	25.0	19.1	35.1	3.1	0.3	4.5	0.1	9.9	0.6	0.0	100
Finish	1.6	19.6	24.7	43.1	1.2	1.5	4.7	0.1	3.0	0.4	0.0	100
Other European	4.4	8.8	35.7	29.1	6.1	1.2	1.5	0.4	3.1	9.4	0.3	100
American (USA)	27.2	27.3	23	11.8	2.6	2.1	1.8	0.6	1.7	0.8	1.1	100
Canadian	18.8	23.6	21.2	18.1	6.7	2.1	3.2	1.3	2.1	2.8	1.2	100
Mexican	35.0	27.4	17.9	11.0	3.4	0.9	1.8	0.8	0.3	1.0	0.5	100
Other Latin-American	19.8	20.0	24.4	18.8	9.3	1.0	1.8	0.6	2.4	1.3	0.4	100
Israelite	22.5	26.8	24.7	13.0	3.3	2.2	1.2	0.5	1.8	1.0	2.9	100
Syrian-Lebanese	18.4	19.9	26.8	17.6	6.5	1.0	0.9	0.2	6.9	1.0	0.9	100
Turkish	11.0	29.5	25.3	18.8	7.8	1.4	1.3	0.2	3.4	0.7	0.7	100
Other Asian	30.7	17.7	19.0	16.6	3.2	0.7	1.7	0.4	9.2	0.6	0.3	100
South American	16.0	14.4	39.6	12.4	6.5	2.6	3.6	0.6	0.9	2.3	1.1	100
Egyptian-Sudanese	13.5	24.1	21.9	25.1	9.0	0.6	1.5	0.3	3.0	0.5	0.4	100
Other African	18.0	10.4	19.5	17.8	9.5	0.4	13.4	0.5	8.1	1.1	1.4	100
Australian-New Zealand	9.4	16.7	24.6	21.2	6.5	1.7	4.2	1.7	0.9	12.6	0.6	100
Japanese	38.6	27.5	26.8	3.7	1.4	0.6	0.7	0.2	0.2	0.2	0.1	100

Source: GNTD

- ヨーロッパ人の観光客は、比較的安いホテルを選択するが、アメリカやアジアの観光客はより高いクラスのホテルを選ぶ傾向にある。これは、遠距離の旅であるため、全旅行費用の中でホテル代の占める割合が比較的小さいことが理由となっている。
- 日本人観光客は、大部分（93%）が、Bクラス以上のホテルを選択する。

2) コンベンション施設

ギリシャの大都市およびリゾート地域では、会議施設は良く整備されており各種の会議、集会等の需要に充分に応じられる体制にある。現在ギリシャには9カ所のコンベンションセンターがあり、その内5カ所は、アテネに、その他は、Crete, Thessaloniki, Delphi, Tinos に1カ所づつある。また、これらの地域のAクラス以上のホテルもほとんどは会議場をもっている。

国際会議等のコンベンション活動の誘致は、他国と同様に、ギリシャも積極的に推奨しており、新設のホテルは、比較的規模の大きい会議施設が整備されるようになってきた。また、以下のようなコンベンションセンターの整備計画もある。

Athens Convention Centre

- 総床面積 77,000㎡
- 大会議場、各種会議施設、および会議場、音楽ホールと兼用の3,500席の大規模オペラハウス
- フィルム・ライブラリーおよび集会、セレモニー等にも利用可能な野外劇場、レストラン、喫茶室
- 15,000㎡の展示場および店舗等を備えた複合施設

Kos Convention Centre :

- Kos 市から4 kmの位置にあり、1991年9月完成予定
- 小会議室、事務所、飲食施設等を備えた、2,000人収容可能な会議施設

ギリシャのコンベンション誘致も、諸外国のコンベンション施設整備の進展とはげしい誘致競争により、きびしい状態におかれている。ギリシャも、今後は、エーゲ海クルーズ観光、歴史観光などアフター・コンベンションの観光活動とも組合せた、個性的なコンベンション・プログラムなどを武器に、積極的なコンベンション誘致活動を進めていく必要がある。

3) カジノ

現在、ギリシャには、Parnes (Athens), Rhodes, Corfu, Porto, Carras の4カ所のカジノと、クルーズ船上のカジノがある。この内、Parnes と Corfu のカジノはGNTOの直営であり、更に数カ所の新しいカジノを開設する計画がある。

7.2 交通輸送体系

7.2.1 国際航空

1) 日欧間国際航空

a) 現状

現在のところ、日本とヨーロッパ各地を結ぶ国際航空路線には、大別して、南回り、北極経由、ノン・ストップ、モスクワ経由の4種類がある。表7.2.1及び表7.2.2で明らかな通り、日本発ヨーロッパ向けの便数は週間96便、その供給座席数は週間28,160席となっている。1987年と1988年の供給量を比較すると、以下のような変化が顕著である。

—ノン・ストップ便の増加が著しい一方で、南回り便が急速に減少している。即ち、前者が約80%増加したのに比して、後者は60%の減少を示している。これは明らかにノン・ストップ便へのシフト傾向を物語るものである。

—北極経由及びモスクワ経由便は僅かに増加したのみである。

—その結果、日欧間の供給座席数は総体で約15%増加している。

この算定によれば、定期便の年間総供給座席数は約146万席となる。但し、通常需要の高い夏場には運航便数は増加するので、実際の供給座席数はもう少し多くなる筈である。法務省（入国管理事務所）及び国際観光振興会（JNTO）の統計によれば、1987年にヨーロッパを訪問した日本人旅行者数と日本を訪れたヨーロッパ人旅行者数は、各々71万人と38万人とされているので、これを合計した109万人が1987年時点における実需要と一応考えることができる。

しかし、その一方で、日本の旅行業界では日欧間の潜在需要を年間180~200万人（内80%は日本人）と見ており、更に増加しつつあるとしている。事実、供給座席が増加してもすぐに埋まってしまうのが昨今の現状である。

中でも、ノン・ストップ便は就航当初より好調であるが、その理由は以下の通りと考えられる。

—便設定時間帯（日本発が昼頃、ヨーロッパ到着が午後から夕方）がビジネスマンには好都合であること。

—飛行時間が短く、通常12~13時間で目的地に到達できること。

これらノン・ストップ便のロード・ファクター（座席占有率）は極めて高いレベルを維持しており、平均で80~90%となっている。1989年以降世界の主要航空会社は新世代機と呼ばれるボーイング747-400型の導入を予定しているが、この新機材は従来よりも長い航続距離を持つため、北極経由のノン・ストップ運行も可能となる。何れにせよ、今後、日欧間の航空輸送に関しては、ノン・ストップ便が中心となることは疑う余地がないであろう。

Table 7.2.1
Air Transport Capacity between Japan and Europe

Route	1987 ^{1/}		1988 ^{2/}		1988/ 1987
	No. of Seats/week	%	No. of Seats/week	%	
Via South	3,200	13.0	1,190	4.2	0.37
Polar	12,020	48.9	12,820	45.5	1.07
Non-stop	5,300	21.6	9,500	33.8	1.79
Via Moscow	4,060	16.5	4,650	16.5	1.15

- ^{1/} Number of seats in 1987 is based on data from Weekly Travel Journal.
- ^{2/} Number of seats in 1988 is a calculated figure based on assumed seating capacity of various aircrafts, and the total number of seats differs slightly from the number of seats actually supplied.

Table 7.2.2
Flight Departures from Japan to Europe

Destination/Route	No. of Departures /week	No. of Seats		
		per week	per year	
Destination by City	LONDON:	25	8,240	428,480
	PARIS:	21	6,240	324,480
	FRANKFURT:	15	4,790	249,080
	ROME:	8	2,030	105,560
	AMSTERDAM:	7	2,040	106,080
	COPENHAGEN:	6	1,430	74,360
	MADRID:	4	1,040	54,080
	BRUSSELS:	3	600	31,200
	ATHENS:	2	500	26,000
	HELSINKI:	2	500	26,000
	ZURICH:	2	500	26,000
	GENEVA:	1	250	13,000
Total	96	28,160	1,464,320	
Route	Polar	43	12,820	666,640
	Non-Stop	28	9,500	494,000
	Via Moscow	20	4,650	241,800
	South	5	1,190	61,880

ノン・ストップ便隆勢の一方で、南回り路線はここ数年の間に大きく衰退した。かつて南回り路線を運航していたKLM、ルフトハンザ、スイス航空、イベリアの各社は何れも同路線から撤退し、北極経由或いはノン・ストップ便に切り換えた結果、現在南回り線をヨーロッパに運航しているのは、アリタリアと日本航空の2社のみとなってしまった。このように各社が南回り路線から撤退していった背景には次のような要因があったと思われる。

- 一時として多くの途中寄港を伴う長い旅行時間
- 航空会社にとっての高い運航コスト
- 沿線諸国の政情不安に伴う紛争やテロ行為
- これらの結果発生する石油、プラント関連需要の低迷及び一般旅行需要の減衰

ここで各路線に特有の一般的な特徴を記述してみよう。

(北極経由便)

北極経由便は夜に日本を出発し、ヨーロッパには翌朝早く到着する。飛行時間は通常16～18時間程度である。夜行便のため、ホテル代は一泊分節約できるし、早朝の到着は着後直ちに観光活動開始を可能にする。このため北極経由便は団体観光客用に利用されることが多い。

また、北極経由便は超多忙なビジネスマンにも好んで利用される。この便で旅行すれば、東京で通常通り仕事をした後出発し、ヨーロッパ到着後またすぐに仕事に取り掛かることが可能だからである。

サベナ・ベルギー航空は1988年11月から東京を午前中に出発し、ベルギーに同日夕刻に到着するという新しいパターンの北極経由便を運航している。

(ノン・ストップ便)

ノン・ストップ便は日本を昼頃出発し、ヨーロッパに同日の午後遅くか夕刻早くに到着する。この便では途中寄港はなく、飛行時間は12～13時間と現在のところ最短である。飛行時間が短いことと、到着後すぐに休養を取れることから、旅行者の疲労は最小限で済み、ホテル代が多少かさむことをいとわないビジネスマンや団体観光客には大変好評である。

(モスクワ経由便)

モスクワ経由便は、日本を昼頃出発し、ヨーロッパには同日の午後遅くか夕刻早くに到着する。飛行時間は13～15時間位である。モスクワに短時間の寄港があることを除けば、条件はノン・ストップ便の場合と殆んど変わらない。

現在のところ、日本からヨーロッパにノン・ストップ便を運航させる場合、飛行機の性能上最短距離となるソ連上空を飛ばなければならないが、そのためには航空会社はソ連との航空協定の関連で一定便数をモスクワ経由とする必要がある。

新世代機と呼ばれるボーイング747-400型が就航すれば、航続距離が伸びるので、もはやソ連上空を飛ばなくとも、北極回りでノン・ストップ便を運航することが可能になる。

ノン・ストップ便の就航以前には、モスクワ経由路線が日欧間を結ぶ最短のものであった。

(南回り便)

南回り便は日本を午後または夕刻に出発し、ヨーロッパに翌朝早く到着する。最終目的地までの所要時間は通常20時間以上である。

この路線はかつて中近東で石油、プラント・ビジネスが全盛の時代には大変賑わっていた。但し、航空会社にとっての収益性はその当時から決して高くはなかった。近年の政治不安やテロ行為も加わって、この路線の需要は徐々に衰退してきた。

b) 今後の見通し

最近の日英航空交渉(1988年8月開催)の中で両国間の輸送供給量を更に増加する合意がなされ、1989年の最大供給量の枠は週間34便まで拡大された。

その結果、1989年7月より全日空が週3～5便規模でロンドンに乗り入れ、見返りとしてバージン・アトランティック航空が1989年5月から週4便を日本に乗り入れることとなった。

また、モスクワ経由東京-ウィーン線が1989年夏に開設される。現在のところ便数は夏が週2便、冬が週1便を予定している。この路線はオーストリア航空、アエロフロートと日本側一社による「トロイカ方式」共同運航となる予定である。

更にトルコ航空も1989年夏以降、日本-トルコ間の路線を開設する意向を表明している。その他にも日本乗り入れを予定している航空会社が何社かあるが、詳細は不明である。

2) 日希間国際航空

a) 現状と今後の見通し

この節では、日本からの観光客の流れの関連で、南回り路線の状況をもう少し見てゆくこととする。簡略化のため、日本とギリシャを結ぶルートをとつに大別する。即ち、一つは北回り(北極経由、ノン・ストップ又はモスクワ経由)便を利用してヨーロッパのどこかの都市に入り、その後、ギリシャ行きの便に乗り継ぐ方法であり、もう一つは南回り(「シルク・ロード」)便を利用し、直行で、或いは途中乗り換えてギリシャに入る方法である。

(JAL南回り便)

東京-アテネ路線は日希両国の航空協定締結に伴い、1972年に開設された。これは日本とヨーロッパを結ぶ航空路線のうち最も古いものの一つである。以来この路線は日希両国の観光、文化、経済交流に大きく貢献してきた。

今日、日本航空（JAL）は日本とギリシャを乗り換えなしで結ぶ南回り航空路線を有する唯一の航空会社である。JALはこの路線にDC-10を週2便運航しており、その供給席数は年間約26,000席となっている。（Appendix 7.2A参照）アテネに至る途中、この便は運航日により4又は5ヶ国に寄港している。東京からアテネまで通しでこの便を利用する旅客にとって、合計の所要時間は24時間程度となる。この便における東京-アテネ直行旅客の比率は低目であり、座席数対比で20%強に止まっている。この路線に対する旅客需要が低迷していることは否定できないが、にも拘らず、この便が途中乗り換えの不便なしに日欧間の最も安い（正規運賃で）航空路を提供していることもまた事実である。更にこの路線が日希関係の歴史において、重要な役割を果たしてきたことも改めて申すまでもない。

（乗り換えを伴うその他南回り便）

一方、日希間には乗り換えを伴うJAL以外の便がいくつかある。この場合、シンガポールとバンコクは乗り換え地点として重要である。この何れかを中間点として日本とギリシャの間には何れもノン・ストップ便が運航しているからであるが、これらの便の旅客需要は常に高目である。（これらの便の詳細は、Appendix 7.2B参照のこと）

これらの便の年間供給座席数は約25万席であるが、アテネ-シンガポール間、アテネ-バンコク間にはこれらの都市を中継点としてギリシャ-オーストラリア間を往来するギリシャ系移民等の大きな固定需要が存在するため、日本人団体観光客の入り込む余地が殆どない。

ギリシャの国営航空会社であるオリンピック航空（OA）は従来シンガポール経由でギリシャ-オーストラリア間をB-747週2便で運航してきたが、1988年11月以降これに加えてバンコク経由の便を週1便運航させることとなった。

（南回り路線便に関する問題）

OAのバンコク経由便就航に伴い、ギリシャ政府は最近JALに対して、日希間航空協定の合意に基づいてバンコク-アテネ間のJALの旅客運送権を停止する旨の通告をしてきた。これは今後JALがバンコク-アテネ間のみで旅行が完結する旅客の運送を引き受けられないことを意味する。この措置によっても、東京-アテネ間の旅客の運送に関してJALが影響を受けることはないが、この運送権停止が有効した場合、バンコク-アテネ間の旅客運送ができなくなることによりJALが蒙る収入の損失が大きいのは明白である。その場合、結果的にJALが当該便の運航を中止する可能性も否定できない。

過去においてギリシャ政府はJALに対してB-747を東京-アテネ間ノン・ストップで運航して欲しい旨の要請を行ったといわれるが、現在の日希間旅客需要レベルは必ずしも充分とは言い難く、また、ビジネス旅客需要も余り見込まれない等の要因により、この要請は実現に至っていない。

ギリシャ向け観光振興に関して常に挙げられる問題は供給座席数の不足と直行便の不足である。この問題が事実だとするなら、既存の輸送力に制限を加え、果ては既に限られている輸送力減少というリスクを脅かすよりは輸送力の温存、確保のための努力を払うべきである。ギリシャ観光の促進という観点に立った場合、運送の制限はマイナスの効果しかもたらさないということを十分に認識すべきであろう。

この意味からも、オリンピック航空の早期日本乗り入れ実現が望まれる。O Aの日本乗り入れにより供給力が増加するのみならず、日本人における一層のギリシャ関連プロモーションのための窓口ができるからである。しかしながら、関係者に対する聴き取り調査を行った限り、近い将来の乗り入れが実現する可能性は薄い。背景には次のような阻害要因が上げられる。

- i) 現在日本には約300名のギリシャ人が居住しているといわれるが、これだけではO Aの運行を確保するだけの需要に結びつかない。
- ii) 表7.2.3で明らかな通り、O Aは慢性的な機材不足に悩んでおり、そのため長距離の運航が可能な大型機材は需要の高い路線に優先的に投入されてしまう。

Table 7.2.3
Olympic Airways' Passenger Fleet
as of October, 1986

A/C MFR & TYPE	NBR OF A/C	Capacity
BOEING 747-200 SERIES	4	432-447
AIRBUS A300	8	262
BOEING 707-300 SERIES	5	155-183
BOEING 727-200 SERIES	6	146
BOEING 737-200 SERIES	11	101-123
S/TOTAL	34	
(OLYMPIC AVIATION FLEET)		
SHORTS SD3	6	30
DORNIER	7	19
SHORTS SC7	2	18
PIPER	3	3-5
CESSNA	3	1
AEROSPATIALE (HELICOPTER)	2	5
S/TOTAL	23	
G/TOTAL	57	

iii) オリピック航空は保有機材の近代化とネットワークの拡大に意を注いでいると、いわれているが、同社の現在の財政状況 (Appendix 7.2D参照)は大量の機材 (新品、中古を問わず) 購入を可能にするような状況にはない。

実際のところ、1986年末の段階でOAは199億ドラクマ (同社資本の約78%に相当) による損失を計上し、累積損失は650億ドラクマに達している。

損失をカバーするための長期借入は年々増加しており、それに伴って金利の支払いも増大するため、財政状態は悪化する一方である。このような状況では、OAの機材購入はリース購入に頼るか、必要の都度中古機材を購入する程度に限定されざるを得ない。

iv) OAの当面の課題は欧州内のネットワークを従来運航していたB-707、B-727に代えてエアバスA-300化することであるから、B-707、B-727も老朽化しつつあり、これらも早晩新鋭機材に更新する必要がある。

明らかにOAの財政は深刻な危機に頻しており、その材料も近代化の必要に迫られている。ギリシャ観光の推進のためにオリピック航空が果たさねばならない重要な役割を考える時、財政状況の改善は急務といえよう。

b) 成功の一つの例

スペインの国営航空会社イベリア航空の成功例に触れてみたい。かつてスペインもまた日本からは「遠い」国であると考えられていた。1980年時点でスペインを訪れた日本人観光客の数は9万人以下であった。

イベリア航空は1986年の5月に日本乗り入れを開始した。当初のルートはボンベイ経由マドリッド-東京で、運航規模はB-747貨客混載便週2便であった。最初の年はソ連でチェルノブイリ事故が発生した直後でもあり、余り良い年ではなかった。しかしヨーロッパは徐々に立直りを見せ、需要も拡大していった。イベリア航空はこの便をスペインの最短路線と銘打って宣伝した。(当時所要時間約17時間) 1987年10月、イベリアは需要の伸びに対応すべくそれまでのボンベイ経由南回りからアンカレジ経由北回りに転向した。1988年11月には東京/アンカレジ/バルセロナ/マドリッドと運航する新しい便を設定し、運航規模は週3便に増大した。この新しい便は1992年のバルセロナ・オリピックに向けての基礎固めを目標としたものと思われる。

イベリアの広報宣伝活動はスペイン政府観光局の活動と並行して実施され、日本におけるスペイン向け観光を増大するのに大いに貢献した。1987年にはスペイン向け日本人観光客数の伸びは対前年比36.3% (ヨーロッパ全体の平均は21.9%) を達成し、その結果、日本人観光客は1987年に13万人を越え更に増加が見込まれている。

イベリアの1986年当初の平均ロード・ファクターは55%に過ぎなかったが、1987年には77%に増加し、1988年には84%が見込まれているが、84%という数字は航空産業界では極めて高い数字である。供給輸送力に対するイベリアの貢献度は年間3万席に満たないが、日本の観光需要に対してイベリアが与えた影響は大変大きなものである。

c) ギリシャとヨーロッパ・ゲートウェー諸国間の航空輸送

市場調査の結果によれば、日本人観光客の大半はヨーロッパ・ツアーを購入した場合、一国ではなく複数の国（時間と金銭的余裕の許す限り）を訪問することを好むことが判る。

北回り路線を利用する際に問題となるのはヨーロッパのゲートウェー諸国とギリシャとを結ぶ乗り継ぎ便のことである。各都市における乗り継ぎ時間は取り敢えず大きな問題ではない。但し、ギリシャがヨーロッパにおける唯一の目的地である場合には、中継地点での乗り継ぎ時間は重要な問題であり、その場合にはギリシャを目指す旅行者の利便のため、乗り継ぎを簡単に短時間に済ませるような万全の努力が払われねばならないのはもちろんのことである。

当面ギリシャ向け旅行者が北回り路線を利用する際に考慮されるべき問題は乗り継ぎ便の便数と収容力であろう。

主要ゲートウェー諸国とギリシャとの間の推定需要を表7.2.4に示す。

Table 7.2.4
Estimated Tourist Arrivals on Charter
and Scheduled Flights by Nationality (1988)

Country of Origin	Grand Total Arrivals	Total Arrivals by Air	Charter Arrivals	Arrivals by Scheduled Flts	Scheduled Flt Arrivals/week
United Kingdom	1,790,000	1,645,010	1,542,980	102,030	1,962
France	469,000	370,041	272,489	97,552	1,876
W. Germany	1,382,000	942,524	751,808	191,716	3,687
Italy	544,000	193,120	43,520	149,600	2,877
Netherlands	389,000	343,487	267,243	76,244	1,466
Austria	311,000	200,284	158,610	41,674	801

Notes: 1. Number of grand total arrivals is the estimated figure by GNTQ.
2. The rest of the figures are estimated on the basis of tourist arrivals in 1985.

上に挙げた諸国とギリシャの間にはかなりの数の便が運航している。(Appendix 7.2C参照)。しかし、これらの便のロード・ファクターについてはオリンピック航空のものしか入手できなかった。参考までにそれを以下に列記する。

ロンドン／アテネ間	74.1%
パリ／アテネ間	64.6%
フランクフルト／アテネ間	67.0%
アムステルダム／アテネ間	63.0%
ローマ／アテネ間	61.9%
ウィーン／アテネ間	58.7%

その他航空会社便のロード・ファクターについても、オリンピック航空とほぼ同レベルにあるものと思われる。このロード・ファクター・レベルから推測する限り、一般的に供給が需要を上回っているが、路線によってはその幅は余り大きくない。

何れにせよ、今後ギリシャ向けの円滑な旅行者の流入を確保するためには全般的なヨーロッパ内航空ネットワークの一層の改善が望ましい。

ヨーロッパ各地からギリシャに向けて多くのチャーター便が運航されており、これらチャーター便は日本人観光客にとっても適当な補助的輸送手段となりうると思われるかもしれない。確かにこれらのチャーター便はヨーロッパ在住の日本人にとっては安価で便利な交通手段であるが、日本発の観光旅行者にとっては残念ながら余り現実的な解決法とはならない。その理由はいくつか考えられるが、中でも最も大きいものは経済的側面である。これらチャーター会社はすべて独自で競合する運賃体系を有しており、通常の定期航空会社とは収入配分の方法を持たないのが通常である。このため、通常の団体旅行パッケージとチャーター便を組み合わせることは無論可能だが、その際にはチャーター料金は通常のパッケージ料金（ギリシャまでの運賃が含まれている）に上乘せされてしまうから、結果として高いものになってしまう。

ヨーロッパにおいてチャーター産業は増大の一途を辿っているが、チャーター便は既に過密状態にあるヨーロッパの各空港で特に夏の期間深刻な混雑を招来しつつある。このような状況下で定期航空会社にとって便数増加は日を追って困難になりつつある。

d) 結論

北回りにせよ、南回りにせよ、各々のメリット、デメリットがあるのは改めて言うまでもない。北回りのルートでギリシャに入ろうと思えば、飛行機の乗り換えは避けられない代り、乗り換え地点、航空便の選択の余地は大きい。南回りルートを選んだ場合には時間がかかるし、座席の供給量も限られているが、多少なりとも料金は安いし、面倒な乗り換える必要もない。

つい最近まで東京-アテネ間の団体航空運賃体系は北極経由便を利用した場合、他のヨーロッパ主要都市に比べて高く設定されていた。このことは、旅客に対してギリシャは遠い国という印象を与え、また価格競争力の点でもギリシャを不利にしていた。しかし、1987年10月にギリシャはECF（ヨーロッパ共通運賃）への参加を認められ、北極経由便を利用しての航空運賃は他のヨーロッパ都市と全く同レベルまで引き下げられた。この変更の背景では日本航空がIATAの運賃調整会議の場で果たした役割が大きかったが、結果的にギリシャに関する限り、この変更は実質的に供給座席数を増やしたのと同様の意味を持っていた。現在の海外旅行のトレンドを見る時、現実的には座席の供給量が多く、旅客にとっても便利な北回りルートが中心とならざるを得ないであろう。しかし、だからと言って南回りルートを無視してもよいということではない。南回りルートを維持し、一層の改善を図るための努力を怠るべきではない。

7.2.2 国内航空

1) 全般

a) 路線

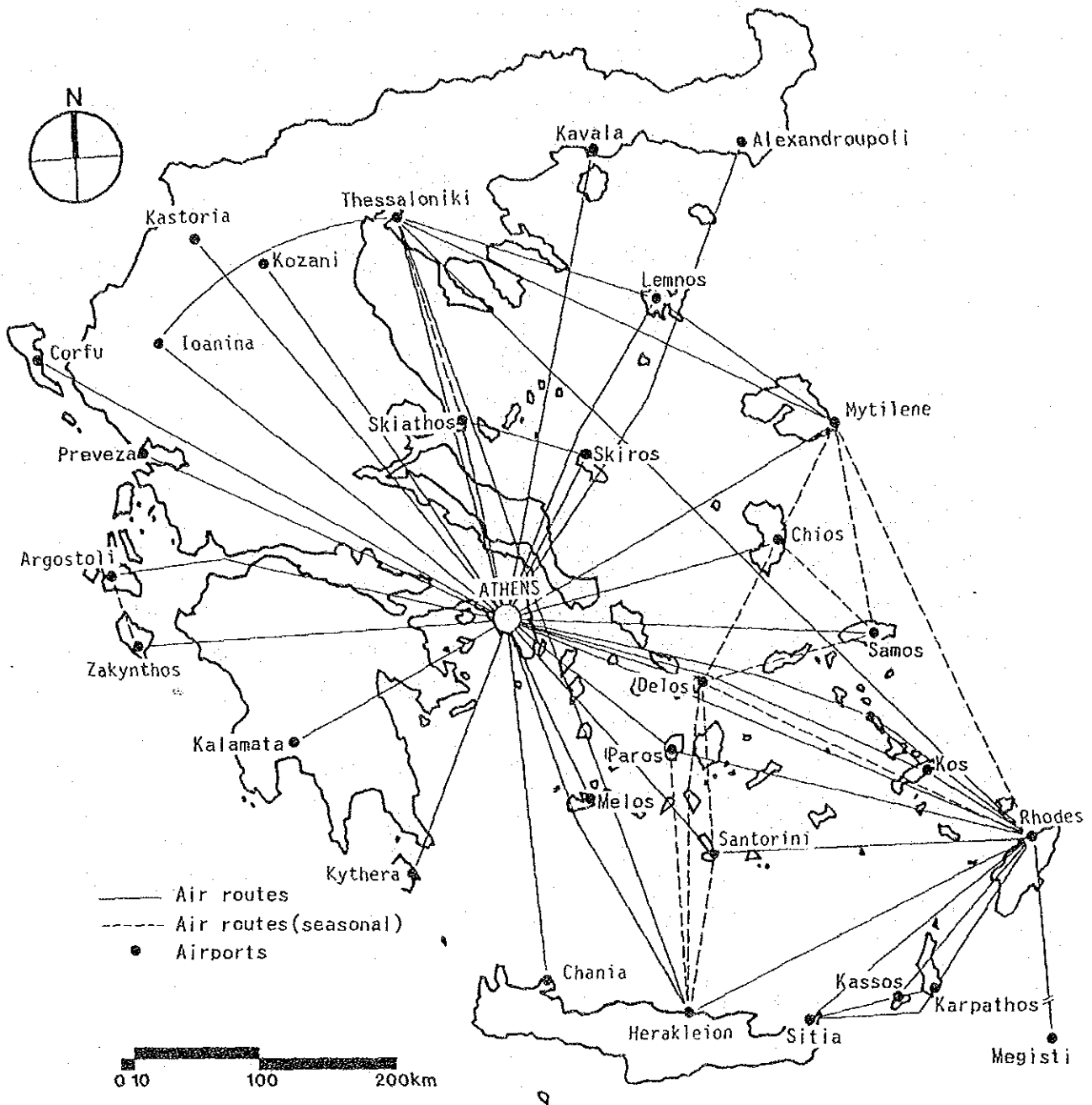
ギリシャの国内航空路線には国営のオリンピック航空とその子会社であり、(以下、2社を総称してオリンピック航空と呼ぶ)軽飛行機とヘリコプターの運航を行うオリンピック・アビエーションの2社が就航している。席数100席以上のボーイング707、727、737やエアバスA300が主要幹線ルートを飛んでおり、その他路線には席数30席以下のショーツ、ドルニエ等の機材が飛んでいる。

1987年にオリンピック航空は国内線で4,475,002名の旅客を運んだ。

オリンピック航空の国内線ネットワーク(図7.2.1参照)は1988年7月現在次の33地点を網羅している。

-アレクサンドルポリ	-セファロニア	-パロス
-ハニア	-コルフ	-パトラス
-ヒオス	-コス	-プレバザ
-イオアニア	-コザニ	-ロードス
-ヘラクリオン	-キテラ	-サモス
-カラマタ	-ラリサ	-シチア
-カルパトス	-レロス	-スキアトス
-カリス	-レムノス	-スキロス
-カステロリゾ	-メロス	-テッサロニキ
-カストリア	-ミコノス	-サントリーニ(テラ)
-カバラ	-ミティリニ	-ザキントス

Figure 7.2.1
Domestic Air Network



b) スケジュール

1988年10月現在の国内線スケジュールを参考までに Appendix 7.2Eに添附する。ここに記載されている便以外にも夏のシーズンには臨時の島間便が運航される。

オリンピック・アビエーションは、リクエストがあれば軽飛行機、ヘリコプターのチャーターにも応ずる。

2) 運賃

1988年10月現在の国内航空運賃を Appendix 7.2Fに示す。割引特別運賃としては、路線により寄行便運賃及びA P E X (事前購入回遊) 運賃がある。

現在のギリシャ国内航空運賃は他の諸国のものと比較して決して高くない。
(表7.2.5及び表7.2.6参照)

Table 7.2.5
Distance, Flight Time and Fare from Athens to Major
Domestic Destinations as of October 1988

Destination	Distance (km)	Flight Time (min.)	One Way Fare (DRS)	Unit Fare (¥/km)
Thessaloniki	298	50	7,000	23.49
Corfu	379	50	8,200	21.64
Rhodes	422	55	9,200	21.80
Herakleion	312	50	7,300	23.40

Notes: 1. For distance, IATA standard non-stop sector mileage applied.
2. For currency conversion rate, DRS 1=¥ 1 is applied.

Table 7.2.6
Comparison of Unit Domestic Air Fare
as of May 1987

Country	Sector	Distance (km)	Oneway Fare	Unit Fare (¥/km)
Japan	Tokyo/Osaka	431	JYE14,183	32.90
USA	San Francisco/Los Angeles	547	USD100.93	26.16
	Boston/Philadelphia	451	129.63	40.34
United Kingdom	St. Louis/Chicago	414	175.93	60.24
	London/Manchester	264	UKL 57.00	51.28
Germany	London/Liverpool	286	54.00	44.84
	Hamburg/Munich	624	DMK349.00	44.20
France	Koln/Hamburg	365	240.00	51.96
	Dusseldorf/Munich	499	305.00	48.30
Italy	Paris/Lyon	397	FFR593.00	35.67
	Paris/Mulhouse	405	698.00	41.16
Australia	Rome/Venice	412	LIT135,500	36.97
	Rome/Palermo	407	135,500	37.42
Australia	Melbourne/Canberra	470	AUD126.00	27.26
	Sydney/Canberra	237	90.00	38.61

Note: For conversion rate, USD 1=¥141.75, UKL 1=¥237.50, DMK 1=¥79.02, FFR 1=¥23.88, LIT 100=¥11.24 and AUD 1=¥101.67 have been applied.

Source: Japan Air Lines

3) 空港

(エレニコン空港)

エレニコン空港はアテネの南東に位置しており、ギリシャに入り中心的な窓口となっている。エレニコン空港には東西2つのターミナルがあり、東ターミナルはアテネに発着する51の外国航空会社と中央及び北ヨーロッパから旅客を運んでくる数多くのチャーター会社を使用する一方、西ターミナルは国営のオリンピック航空とその子会社であるオリンピック・アビエーションが使用している。

1986年にはエレニコン空港で110,199便の航空機が発着し、合計9,599,651名の乗客を運んだ。このうち、60,663発着は国際線であった。出発の74.5%は5月から9月の間に行なわれた。7月と8月には一日平均で364便の国際線が発着している。

エレニコン空港には現在長さ3,500m、幅60mの滑走路があるのみである。(Appendix 7.2G参照)滑走路と並行するタクシーウェイ(長さ3,150m、幅45m)は非常時には予備滑走路として使用が可能であるが、通常は使用されていない。現在の滑走路では1時間あたり30~35便が対応の限度であるため、特に夏のピークシーズンにおいてはエレニコン空港はほぼ飽和状態で稼働していると言われている。

最近エレニコン空港はATC(管制)システムの近代化、給油システムの延長、東ターミナルビルの拡張、西ターミナル・ビルの更新を含む改良整備を行った。その結果、東ターミナルは現在、毎時2,000名の出発旅客と、約2,300名の到着旅客を取り扱うことが可能である。ギリシャの民間航空局(CAA)は近付きつつあるエレニコン空港の飽和を極力先送りにすべく、更なる整備改良を行う計画をしているものの、新しい滑走路の建設には時間も金もかかり過ぎるとの結論が政府から出されたところである。

悪化するエレニコンの混雑解消のため、スパタ地区で新しいペニゼロス空港の建設が進行中である。基礎工事は既に開始されており、最初の滑走路、ターミナルビル、管制塔の建設は1989年に着手、1992年に完成の予定である。新空港は当面チャーター便専用となるが、将来は定期便にも使用される可能性がある。新空港の滑走路は1時間あたり40便に対応可能であり、ターミナルは年間300万人の旅客取り扱いが可能である。最終的には新空港は2本の滑走路と4つのターミナルを持つことになっている。

(その他の空港)

ギリシャの残る34民間空港のうち5つが定期国際航空便を取り扱っている。その5つとは、テッサロニキ、コルフ(ケルキラ)、ロードス、ハラクレイオン及びイオニアを指す。旅客取扱量から見ると、第2の空港はハラクレイオンであり、1986年に2,418,720名(出発、到着含め)を取り扱っている。第3位は取り扱い2,018,639名のロードス空港が続き、その後テッサロニキ(1,546,433名)、コルフ(1,472,775名)となっている。

外国からのチャーター便は各地の空港に発着する。1987年のチャーター便到着旅客数は4,070,305名とされている。

旅客取扱量の大きな季節変動と大きなチャーター便の割合がギリシャの主要空港に共通して見られる特徴である。

4) 結論

1ヶ国の滞在時間が限られている日本人団体観光客に関して言えば、地点間の移動は多くの場合航空輸送に頼らざるを得ないというのは当然の帰結のように思える。しかし、日本人観光客に対するアンケート調査の結果では、興味深いことにエーゲ海の島々を訪れる交通手段としてはクルーズ船が最も好ましい(80.9%)とされており、飛行機、水上飛行機と回答した率は両方で5.2%と低いレベルに止まっている。

ギリシャには数多くの島やビーチがあるので、水上飛行機を飛ばすのも面白いアイデアであるが、現在のところ、オリンピック・アビエーション航空も水上機は保有していない。何れにせよ、時間と金の要素を考慮した場合、航空機は例えば好まれなくとも、少くとも現実的な交通手段だと言うことはできる。何故ならギリシャの国内デスティネーションの殆どはアテネから1時間の飛行機範囲に収まるし、ギリシャの国内航空運賃は安く設定されているからである。

実際のところ、ギリシャはその国土の大きさに比較して大変発達した国内航空網を有しているが、航空は国民にとって重要な日常の足としての意味を持っている。

この公共性故にギリシャの国内航空運賃は自由主義世界の中では最低のレベルに抑えられている。そしてこの安い運賃がギリシャの国内線の高いロード・ファクター(オリンピック航空によれば全体平均85%)に結び付いている。

この高いロード・ファクターにも拘らず、航空網維持のための高い運営コストと低い収入故に収益性は極めて悪い。現にオリンピック航空への聴き取りの結果では同社の赤字の2/3は国内部門から発生しているとのことである。

こうして見ると、ギリシャの国内航空は時間の点でも費用の点でも手段で便利ではあるが、日本人団体観光客にとっては、便の予約すら簡単にできない(混んでいるため)という点で必ずしも理想的交通手段とはなり難いというのが現状である。

アテネに比較的近い内陸の観光地を訪れる場合には、バス、鉄道等の輸送手段が考えられるし、近隣の島には hidrofoil が利用可能であるが、クレタ、ロードス等の離れた島を訪れる際には時間の制限のある日本人観光客にとって航空機が殆ど唯一の交通手段であると言ってよい。

従って、国内航空便を自由に利用できない限り、アテネから離れた国内観光地は、例えいかに素晴らしい場所であろうとも、日本人観光客には余り知られることはないし、結果的にポピュラーな目的地とはなり得ない。その場合、日本人観光客は、従来通りアテネで1日、その後1日クルーズというお定まりのコースに従う他はなく、ギリシャ観光の更に良い面は知られることのないまま終ってしまう危険性がある。

もちろん、オリンピック航空は、国内部門の重要性を忘れていた訳ではない。同社によれば収入改善のため運賃値上げを試みてきたが、結果的にはギリシャの高いインフレ率をカバーすることすらできない程度の値上げしか認められなかったということである。

このような状況では、国内線の便数を増やしても赤字が増加するだけのことである。ギリシャの国内航空輸送に関する限り、高いロード・ファクターは高利益を意味していない。

従って、オリンピック航空の財政状況をこれ以上悪化させることなく、便数、座席供給量を増やすような解決法を探ることが今後重要であろう。

7.2.3 海上交通

1) 全般

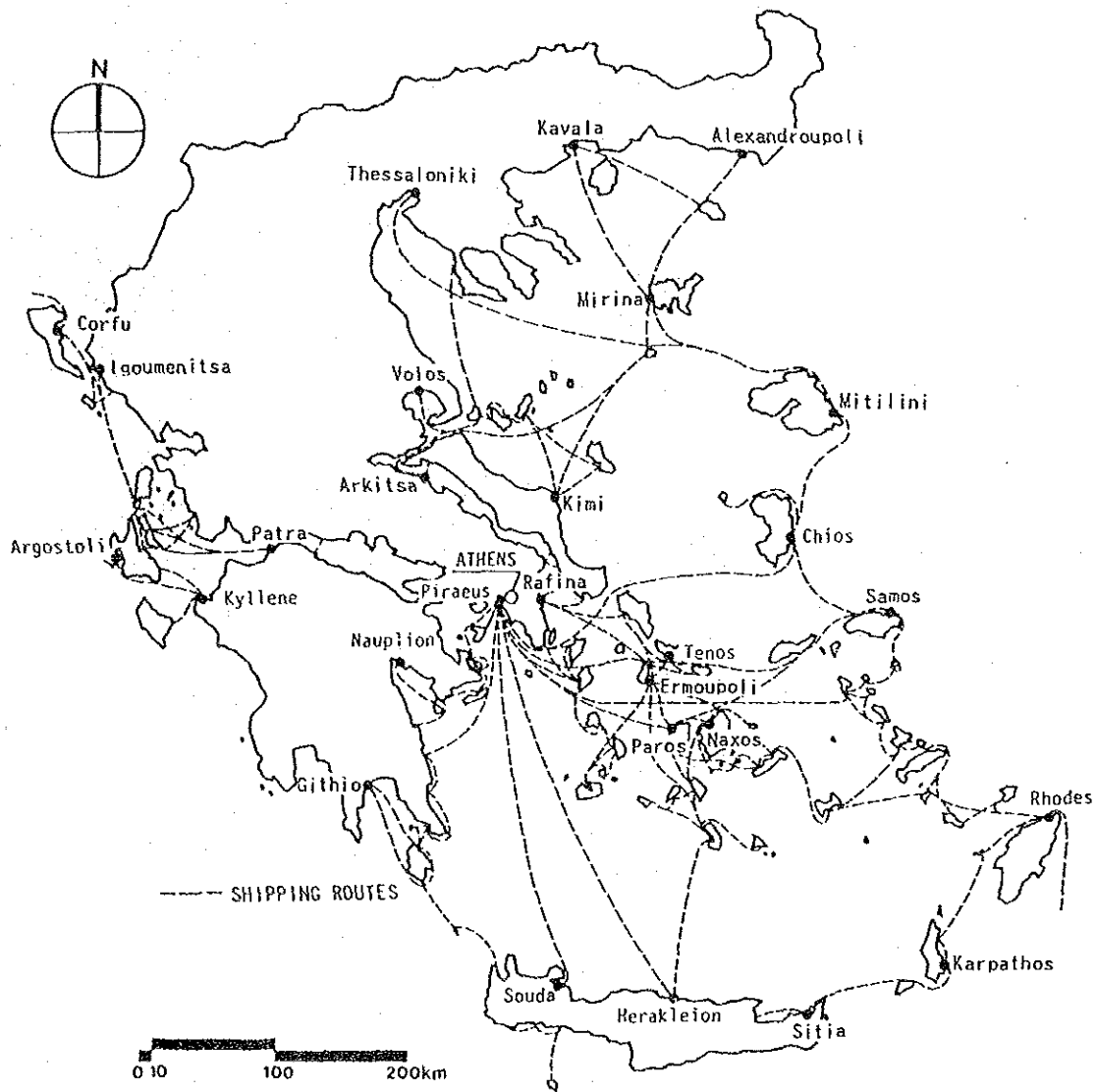
ギリシャの商船群と海運の伝統は世界中によく知られている。改めて言うまでもなく、国土の15%が島であり、その島々に人口の14%が居住しているギリシャにとって海上交通は極めて重要な意味を持っている。図7.2.2はギリシャの船舶が航行する主要な海上交通網を示している。

ギリシャとエジプト、キプロス、イスラエル、イタリア、シリア、トルコ、ソ連、ユーゴスラビアの間には定期的な客船、クルーズ船の航路があるが、日本人観光客がこれらを利用することは極めて稀であると言ってよい。

ギリシャの沿岸海上交通網の中心はピレウス港である。ピレウスとサロニカ湾及びエーゲ海の島々の間には多くのフェリーと20隻の水中翼船（フライング・ドルフィン）が運航している。中でもハイドロfoilは時速36ノットの速度でアテネと近隣の島々、ペロポネソス東岸を短時間に結んでいる。最近では観光客のニーズに合わせて、アテネを経由することなく直接島と島を結ぶ路線もできている。また、イオニア海の島々はギリシャ西部の港と定期航路で結ばれている。更にはギリシャ北東部とペロポネソス地方或いは間接的にアッティカ地方とを結ぶフェリー航路もある。これらの航路にはオープン・デッキ・タイプのフェリーボートが就航し、道路網を補完する役割を果たしている。1985年現在、ギリシャには約340隻の旅客用船舶（フェリーボートを含む）が登録されており、総トン数は、616,000tに及ぶ。

1985年には、685,831名(クルーズ船で立寄りの乗客を除く)の外国人旅行者が海路ギリシャを訪れているが、この数は総外客数の10.4%を占める。クルーズ船の乗客を含めれば1,151,266名の外国人が海路ギリシャを訪れている。沿岸を航行する客船及びフェリーは1985年に総計24,584,388名の旅客と6,870,527台の車両を運送した。フライング・ドルフィンを含む国内船舶のスケジュールと運賃の一部を参考までに Appendix 7.2IIに添附する。

Figure 7.2.2
Shipping Routes



2) クルーズ

ギリシャにおけるクルーズは観光アトラクションの中でも大きな部分を占めているといわれる。30隻以上のギリシャ船が現在ギリシャの海に就航しているといわれる。このうちの一部は古い船であるが、何れも特にクルーズのために建造されたか或いは改造されたものであり、デラックスなスイートから低料金のキャビンに至る様々な宿泊施設を有している。料金の違いは通常キャビンのグレードの差によるものであり、他の世界的に有名な客船とは異なり、その他の共用施設は料金の差に関係なくすべての旅客が公平に利用できるようになっている。

ギリシャのクルーズ船の宿泊施設は上述のように上部甲板のデラックス・スイートから低料金の下部窓なしのキャビンまで、いくつかのカテゴリーに分けられている。クルーズの料金は船内の場所、付帯設備の程度、同室の旅客数等により異なり、(公海上を航行するため)米ドル建てで決められている。料金は航海の日数、季節、船会社によっても異なる。

旅程には様々な選択の余地がある。クルーズの日数は1日から21日まで色々だが、通常は1日から7日間のコースが最もよく利用される。クルーズの典型的なスケジュールを表7.2.7に示す。1日クルーズは年間を通じて利用可能であるが、それ以外のクルーズは季節限定で、通常3月から11月まで利用できる。冬の間はギリシャを訪れる外国人旅行者が減るので、クルーズの利用客も少なくなる。この時期は陽差しも弱く、時に寒い雨が降ったり海が荒れるなど、クルーズの条件にも恵まれてはいない。従って、クルーズも必ずしも楽しめるものではないことがある。しかし、たまたま天候に恵まれればクルーズは十分に楽しいし、このような機会には冬場の上客である日本人観光客も満足するであろう。

寄港地のショア・エクスカーションを利用すれば、クノッソス、リンドス、エギナ、デロスなどの遺跡も容易に訪れることができる。

Table 7.2.2 List of Cruises

Dep. Day	Duration	Available	Vessel	Itinerary
DLY	1 Day	Year Round	AEGIAN GLORY CITY OF HYDRA or CITY OF PIRAEUS	P. Phaleron(0830)-Hydra-Poros-Aigina-P. Phaleron
DLY	1 Day	Year Round	HERMES or APOLLO	P. Phaleron(0830)-Aigina-Hydra-Poros-P. Phaleron
DLY	1 Day	JUN-OCT88	GLARAKI	Marina Alimos(0830)-Hydra-Poros-Aigina-Marina Alimos
	10 Days	26APR, 10MAY, 13SEP	ATALANTE	Piraeus(1300)-Istanbul-Limassol-Ashdod-Alexandria-Katakoln
	9 Days	29MAR, 12APR, 27SEP	ATALANTE	Herakleion(1300)-Alexandria-Haifa-Limassol-Rhodes-Kusadasi-Patmos-Piraeus
	8 Days	24MAY, 07JUN88, 11OCT88	ATALANTE	Piraeus(1200)-Istanbul-Yalta-Odessa-Nessebar-Cannakale-Mykonos-Piraeus
MON	14 Days	03/17OCT88	STELLA MARIS	Herakleion(1300)-Hydra-Corinth Canal-Itea-Nauplion-Gythion-Herakleion-Santorini-Kusadasi-Bodrum-Kos-Rhodes-Dikili-Canakkale-Istanbul-Mt. Athos-Thessaloniki-Volos-Delos-Mykonos-Piraeus
MON	14 Days	08/29AUG88	STELLA SOLARIS	Piraeus(1900)-Constanta-Odessa-Yalta-Volos-Piraeus-Rhodes-Alexandria-Port Said-Ashdod-Samos-Kusadasi-Piraeus
MON	14 Days	01/22AUG88	STELLA SOLARIS	Piraeus(1900)-Dikili-Istanbul-Kusadasi-Rhodes-Herakleion-Santorini-Delos-Mykonos-Piraeus-Constanta-Odessa-Yalta-Volos-Piraeus
MON	14 Days	25APR-17OCT88 Every other Mon.	STELLA SOLARIS	Piraeus(1900)-Dikili-Istanbul-Kusadasi-Rhodes-Herakleion-Santorini-Delos-Mykonos-Piraeus-Rhodes-Alexandria-Port Said-Ashdod-Samos-Kusadasi-Piraeus
MON	7 Days	23MAY-17OCT88	CITY OF MYKONOS	Piraeus(1400)-Port Said-Ashdod-Rhodes-Kusadasi-Mykonos-Piraeus
MON	7 Days	04/11/18APR88	STELLA MARIS	Piraeus(1800)-Dikili-Istanbul-Kusadasi-Rhodes-Herakleion-Santorini-Delos-Mykonos-Piraeus
MON	7 Days	02MAY-17OCT88	STELLA SOLARIS	Piraeus(1900)-Rhodes-Alexandria-Port Said-Ashdod-Samos-Kusadasi-Piraeus
MON	7 Days	Every other Mon. 25APR-24OCT88	STELLA SOLARIS	Piraeus(1900)-Dikili-Istanbul-Kusadasi-Rhodes-Herakleion-Santorini-Delos-Mykonos-Piraeus
MON	7 Days	Every other Mon. 08/29AUG88	STELLA SOLARIS	Piraeus(1900)-Constanta-Odessa-Yalta-Volos-Piraeus
MON	7 Days	23MAY-003OCT88	AEGEAN DOLPHIN	Piraeus(2000)-Herakleion-Santorini-Kusadasi-Mykonos-Corinth-Dubrovnik-Venice-Piraeus
MON	7 Days	23MAY-01OCT88	LA PALMA	Piraeus(2100)-Rhodes-Herakleion-Corfu-Dubrovnik-Venice-Piraeus
MON	4 Days	28MAR-11NOV88	OCEANOS & NEPTUNE	Piraeus(1200)-Mykonos-Santorini-Herakleion-Rhodes-Kusadasi-Patmos-Piraeus
MON	4 Days	28MAR-21NOV88	BETSY ROSS	Piraeus(1230)-Istanbul-Skiathos-Santorini-Herakleion-Piraeus
MON	4 Days	04APR-24OCT88	STELLA OCEANIS	Piraeus(1800)-Hydra-Herakleion-Santorini-Rhodes-Kusadasi-Mykonos-Piraeus
MON	4 Days	18APR-21OCT88	CITY OF RHODOS	Piraeus(1830)-Patmos-Kusadasi-Rhodes-Herakleion-Santorini-Piraeus
MON	3.5 Days	25APR, 09/16/23/30MAY, 29AUG, 05/12/19/26SEP	STELLA MARIS	Piraeus(1100)-Mykonos-Kusadasi-Patmos-Rhodes-Hydra-Piraeus
MON	3 Days	23MAY-03OCT88	AEGIAN DOLPHIN	Piraeus(2000)-Herakleion-Santorini-Kusadasi-Mykonos-Corinth (From Corinth shuttle service to Piraeus)
TUE	4 Days	26APR-25OCT88	VICTORIA	Mykonos(1000)-Naxos-Ios-Santorini-Siphnos-Seriphos-Paros-Mykonos
THU	7 Days	23JUN-01SEP88	ATALANTE	Piraeus(1300)-Ancona-Katakolon-Herakleion-Santorini-Rhodes-Bodrum-Piraeus
THU	3.5 Days	28APR, 12/19/26SEP, 01/08/15/22/29OCT	STELLA MARIS	Piraeus(1900)-Patmos-Kusadasi-Rhodes-Santorini-Mykonos-Piraeus
THU	3 Days	05MAY-20OCT88	VICTORIA	Kos(0730)-Bodrum-Rhodes-Nissyros-Kos
FRI	7 Days	25MAR-18NOV88	BETSY ROSS	Piraeus(1230)-Mykonos-Rhodes-Patmos-Kusadasi-Piraeus-Istanbul-Skiathos-Santorini-Herakleion-Piraeus
FRI	7 Days	13MAY-04NOV88	WORLD RENAISSANCE & PEGASUS	Piraeus(1700)-Rhodes-Alexandria-Port Said-Ashdod-Patmos-Kusadasi-Piraeus
FRI	7 Days	22APR-04NOV88	ATLAS & PEGASUS	Piraeus(1800)-Santorini-Rhodes-Patmos-Kusadasi-Bosphorus-Istanbul-Mykonos-Delos-Piraeus
FRI	3 Days	08APR-28OCT88	STELLA OCEANIS	Piraeus(1100)-Mykonos-Rhodes-Kusadasi-Patmos-Piraeus
FRI	3 Days	01APR-14NOV88	OCEANOS & NEPTUNE	Piraeus(1200)-Mykonos-Rhodes-Patmos-Kusadasi-Piraeus
FRI	3 Days	25MAR-18NOV88	BETSY ROSS	Piraeus(1230)-Mykonos-Rhodes-Patmos-Kusadasi-Piraeus
FRI	3 Days	18APR-21OCT88	CITY OF RHODOS	Piraeus(1830)-Rhodes-Herakleion-Santorini-Piraeus
SAT	7 Days	30APR-29OCT88	VICTORIA	Rhodes(0800)-Nissyros-Kos-Patmos-Kusadasi-Samos-Leros-Kalymnos-Kos-Bodrum-Rhodes
SUN	7 Days	24APR-23OCT88	VICTORIA	Mykonos(0800)-Delos-Tinos-Syros-Paros-Mykonos-Naxos-Ios-Santorini-Siphnos-Seriphos-Paros-Mykonos
SUN	5 Days	01MAY-30OCT88	VICTORIA	Kos(0800)-Patmos-Kusadasi-Samos-Leros-Kalymnos-Kos
SUN	3 Days	24APR-23OCT88	VICTORIA	Mykonos(0800)-Delos-Tinos-Syros-Paros-Mykonos

Source: Greek Travel Page, Aug. 1988

3) エーゲ海クルーズの全般的印象

エーゲ海クルーズは日本人観光客にとっては非常に重要かつポピュラーなギリシャ観光の目玉である(6-16頁参照)にも拘らず、ギリシャを訪れる日本人観光客の殆どは1日クルーズを試すだけの時間しかない(6-15頁参照)。しかも彼らの印象は、必ずしも好ましいものではない。

日本人観光客がしばしば口にする不満は概ね以下のようなものである。

- 1日に3つもの島を巡るのは時間的に無理があり、寄港時間が短くなってしまふ。
- 船内で供される昼食は見た目目も味も余り感心できない。
- 船内の娯楽は魅力に乏しい。

結局のところ、1日クルーズは「通」の好みを満足させるようなものではないし、むしろ初心者向けの「お試しコース」ないしは時間の限られた観光客にクルーズの雰囲気味わってもらうためのダイジェスト版位に考えられるべき性格のものであろう。1日クルーズでは本格的クルーズのように着飾る必要もない(と言ってもエーゲ海クルーズは何れにせよそんなに堅苦しくなることはないのだが)しかも海上で食事(これもデラックスでもフォーマルでもない)を味わうことができる。各々異なる性格と魅力を持つ島が3つも含まれており、それでいて料金は尚低廉である。言葉を換えれば、1日クルーズは本格的クルーズの魅力が少しずつではあるが全て含まれている。言わば妥協の産物とも呼べるものであり、あくまでも本格的クルーズとは異なるものであることを認識すべきである。

日本人観光客の高い要求を満たすためにはデラックスな特別1日クルーズコースを設定するのもよいアイデアであろう。このコースには小型の船を用い、1つか2つの島に寄港し、豪華な昼食を提供する。もちろん料金はそれなりに高価なものとなる。

もしもエーゲ海クルーズを本来の在るべき姿で楽しもうと思うなら、最低限3日間のコースを経験すべきであろう。そしてまた、3日間クルーズは時間と費用に限りのある日本人観光客にとっては、おそらくこれが限度であろう。調査団自身の体験から言うなら、3日間クルーズは大変良い形で旅客に提供されていると言える。

食事はボリュームたっぷりのものである(我々の試した食事は塩分もオリーブ油も過ぎているということはない)し、航海中の服装も、フォーマルな機会でも窮屈なほど堅苦しいということはない(もちろん精一杯ドレス・アップしたいと言うなら、それも構わない)。寄港地での滞在時間は余り長くはないものの、1日クルーズに比べれば遙かに長い。寄港地から寄港地の航海は通常旅客が眠っている夜の間に行われるが、日中の航海でも船上では多くのプログラムが組まれているので旅客が飽きてしまうことはない。飽きるどころか、すべてのプログラムに参加しようと思えば忙し過ぎるほどである。

船内の設備は超デラックスとは言えない（一部の船では超デラックスである）が、機能的で充分適当である。船内には「クルーズ・ディレクター」と呼ばれる乗組員（通常は女性）がいる。彼ら（彼女達）は様々な外国語を話すことができ、各々の言語を母国語とする乗客の世話にあたる。

調査団が体験した3日間クルーズのコースは、上甲板のシャワー、トイレ付きの2人部屋使用で通常1人当り450米ドルで販売されているものである。この額は現在の外国為替レート(1ドル=¥125)で換算すると約56,000円に相当するが、ここには3泊分の宿泊と1日3食の食事、ショーやその他の娯楽等が含まれていることを考えると決して高くはない。

このようなクルーズは特に若い世代の人々や、カップル(老若を問わず)にとっては魅力があるものと思えるが、現在のところ日本人観光客の大多数は辛うじて1日クルーズに参加するだけの時間しかないのは残念なことである。もしもギリシャにおける滞在日数が5～6日であったら、3日間クルーズとアテネの短期滞在との組み合わせだけでもそれなりに楽しめる筈だし、日本人観光客にはいままでとは異なった（良い意味で）印象を与える筈である。

しかしながら、3日間クルーズが利用可能なのは3月から11月(大抵は4月から10月)までであり、しかも夏の間は船も島も満員となる傾向がある。従って、日本人向けのクルーズのプロモーションは春と秋に集中することが現実的であろう。

調査団が体験したクルーズは定員約550名のところ、290名程が乗船していた。(約58%の乗船率である)この程度の乗客だと船内は適当に活気があり、それでいて乗組員のサービスには余裕があり、なおかつ注意が行き届いていたため、この船旅は全体として楽しく満足のゆくものであった。

7.2.4 陸上交通

1) 道路網

1985年現在、ギリシャの国道(図7.2.3参照)は総延長8,915kmを持ち、それに加えて29,042kmの県道がある。国道の約99%と県道の88%は何らかの形で舗装されている。(Appendix 7.2I参照)

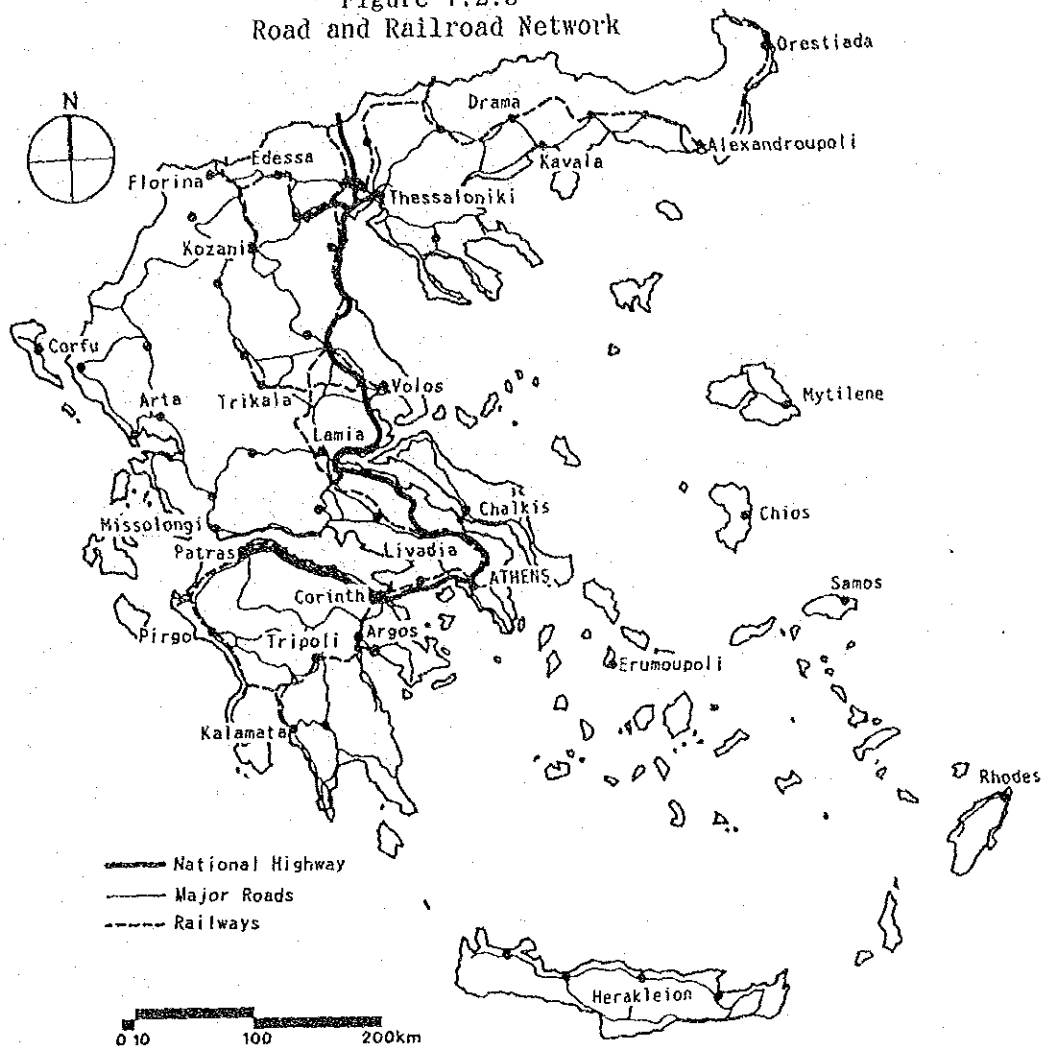
アテネ及びその他の地域で道路が一部狭隘なことと主要道路の路面が雨天時にしばしば滑り易くなっているため、再舗装が必要なことを除いては、道路の状態は全般的に良好であり、旅行者は比較的快適に移動、観光が行えると言える。更に政府は現在基幹道路網を高速道路規格にグレードアップするプロジェクトを進めている。

2) 道路交通

1985年現在、ギリシャの道路は2,050,440台の自動車に利用されている。このうち1,263,366台は乗用車であり(住民7.86人に1台の割合)、787,074台が商用車、バス、オートバイである。全部の自動車のうち、872,144台は大アテネ地域にベースを置いている。(Appendix 7.2J参照)

都市間輸送の大部分は「KTEL」と呼ばれる各地のバス業者協同組合のバスによって行われている。各々の県（「ノモス」）は県内の旅客輸送を行うKTELを持つが、KTELはまた各県を国内大都市と結んでいる。その他、ギリシャ国鉄（OSE）によって運行されるバスもある。1985年に都市間バスは合計164,591千名の乗客を運んでいる。アテネと他の主要都市を結ぶバス便を Appendix 7.2Kに示す。

Figure 7.2.3
Road and Railroad Network



3) 鉄道

(路線網)

ギリシャ鉄道は他のヨーロッパ諸国のレベルまで発展しなかった。ヨーロッパ各国で鉄道建設が全力で進められている頃、ギリシャは今世紀初頭までトルコ帝国の支配下にあった。表7.2.8はギリシャの鉄道の路線長を示す。

単線と複線（全路線の約590）から成る路線網の大部分はアテネ市内及びその周辺部にある。路線は標準軌（1,435mm）と狭軌（1,067mm）の両方から成っている。

ギリシャには多くの国際列車が発着しており、その路線はギリシャとユーゴスラビア、ブルガリア、ルーマニア、オーストリア、トルコ、ドイツ、フランス、イギリス、ベルギー、イタリア、スイスの諸国とを結んでいる。これらの国際列車は鉄道旅行愛好者が好んで利用するところとなっているが、ヨーロッパに在住している日本人を除いては日本人観光客には殆ど利用されることがない。

Table 7.2.8
Length of Operated Lines of the
Organization of Greek Railways by Network
(Greece Total: 1981-85)

	1938	1981	1982	1983	1984	1985
Total length of networks	2557	2479	2479	2479	2479	2479
1. Network of normal line of international width (Athens-Salonica network)	1435	1565	1565	1565	1565	1565
2. Network of metric width (Piraeus-Peloponnese network)	1071	892	892	892	892	892
3. Other lines (0.75-0.60) (Diakofto-Kalavrita)	51	22	22	22	22	22

Source: Statistical Year Book of Greece, 1986

ギリシャの最も重要な鉄道区間はアテネーテッサロニキ線であり、これは2本の延長線を持つ。1本は東のブルガリア及びトルコ国境に通ずる。そしてもう1本は北に延びてユーゴスラビアを經由してギリシャと中央ヨーロッパを結ぶ。この路線はいくつかの支線も持っている。(ラリッサーボロス線、テッサロニキーフロリナ/コザニ線) 標準軌の路線延長は1,565 kmに及ぶ。一方、総路線長892 kmの狭軌路線はペロポネソスの周辺路線(アテネーコリントーパトラーカラマタ線及びカラマタートリポリーコリントーアテネ線)とテッサリア地方のボロスーカランバカ線から成っている。

北部ペロポネソス地方にはデアコットからカラブリタに伸びる22 kmのアプト式鉄道もあり、この路線はヴーライコス川の狭谷の間を運行しているが、これは輸送手段というよりは観光アトラクションの性格が強い。

アテネの電気鉄道(メトロ)を除く全てのギリシャの鉄道はギリシャ国鉄(OSE)に属している。国内の鉄道運賃とスケジュールを Appendix 7.2L に示す。

(輸送量)

1985年にギリシャ国鉄(OSE)は合計11,156千人の乗客を運んだ。1985年に鉄道を使ってギリシャに入った外国人観光客数は164,885名であり、これは総数の僅か2.5%である。鉄道旅行は一部の団体旅行の旅程に含まれているとは言うものの、観光客にとって主要な交通手段とはなっていない。

アテネーテッサロニキ線のみで全鉄道輸送の50%を占めている。

(政府の鉄道整備計画)

ギリシャ政府は鉄道の近代化を進めていると言われる。特に主要幹線区間のパトラスーアテネーテッサロニキ線では全線複線化、近代的な信号制御システム、電化により列車の本数、旅客収容力、効率を改善しつつあるところである。

7.2.5 アテネ地域における都市交通

1) タクシー

現在アテネでは約14,500台のタクシーが登録されている。これらのタクシーは殆ど個人が所有し、経営している。

タクシー運賃は最近(1989年1月15日より)改訂されたが、それでもまだ安い。初乗り料金は25DRS、通常料金(しばしばシングル・タリフと呼ばれる)が1kmあたり34DRS、夜間及び市外料金(ダブル・タリフとも呼ばれる)が1kmあたり58DRS、最低料金が200DRSと決められている。10kgを超える手荷物には1個あたり20DRSが加算される。夜間料金は午前1時から5時の間、市外料金は市域から出て行く場合に各々適用される。午前5時から6時の間は通常料金に30DRSが加算され、待ち時間には1時間あたり420DRSが必要となる。更に空港、港、駅、バス・ターミナル発着の料金には40DRSが加算される。

日本人(或いはその他外国人)観光客がタクシー料金をボラれるという話も聞く。このようなケースはモグリの運転手、古いメーター(余分な桁を表示する)を使っている運転手、メーターが「壊れている」と言う運転手などにより引き起こされている。

幸い最近では余りこのような事件の発生を聞かないが、観光客のイメージを損うこのような事件が起こらぬよう万全の措置が講じられるべきなのは言うまでもない。

アテネでは交通混雑緩和のために、偶数日には偶数ナンバーの車、奇数日には奇数ナンバーの車しか市の中心部へ乗り入れられないという規則があるが、1988年1月よりタクシーもこの規則により規制されている。タクシーは屋根の上に偶数ナンバーを示す「Z」マークまたは奇数ナンバーを示す「M」マークを付けている。

このため、市内では全部のタクシーが稼働している訳ではないし、その低料金故に地元民はしばしば他の公共交通機関よりもタクシーを好んで使う。アテネではタクシーの相乗りはよく眼にする光景である。(但し、相乗りの場合も乗客は各人正規の料金を支払う。)

このような理由で、かなりの台数が登録されているにも拘らず、タクシーの不足は顕著な状況となっている。

尚、ついでに述べると、ギリシャのタクシーがしばしばストライキを行うのはよく知られたことである。1988年には上述のナンバーによる規制の導入に反対して従来よりもストライキの回数が多かった。(1986年20日、1987年35日に比して1988年は60日)この報告書はストライキの正当性を問う筋のものではないが、タクシーのストライキが特に他の交通機関のストライキと同時に重なった場合、観光客の蒙る不便が極めて深刻なのは明らかである。ストライキが不可避の場合、観光客には少なくとも事前にこのことは知らされるべきであり、またその不便を最少限に抑えるよう代替交通機関が確保されるべきである。

2) バス

現在、市内から336路線に約1,800台のブルー・バスが運行している。更にアテネとピレウスの間を運行する約100台のグリーン・バスと17路線を運行する約450台の黄色のトロリー・バスがある。これらのバスはアテネ地区都市交通局(OAS)により運営されている。市内での平均的なバスの頻度は約10分に1台の割合であるが、これはもちろん交通混雑の状況により異なる。大アテネ・エリアにおけるバス料金は1人1回30DRSの均一料金である。午前1時より5時の間には夜間料金50DRSが適用される。午前5時より8時の間、バスは無料である。1ヶ月有効の定期乗車券は1,000DRSとなっている。

アテネ空港及びピレウス港に発着する直行バス(エクスプレス・バスと呼ばれる)も運行されている。エクスプレス・バスの料金は荷物込みで100DRSであるが、真夜中から午前6時の間150DRSの夜間料金が適用される。政府の観光客の利便性充実の方針に即して、この路線には運行あたりの収容力の大きな二階建バスが使用されている。

OASはバスの利用促進のため、週間定期券や回数券の導入を考えている。更に交通混雑緩和のため、1988年1月から16人乗りのミニ・バスを使用した実験的なシステムが市中心部に導入されている。現在のところ、路線は周回路線が一本あるのみで、一周するには約45分かかる。ミニ・バスは市心における自家用車の使用を減らし、代替するための手段として考えられている。

公共バスは運輸省により定期的に車検を受けるが、これらのバスは市民の日常の足として機能するためのものなので、空調などの設備はない。バスは低料金で便利な乗り物だが、行先もバス停もギリシャ語の表示しかないため、外国人観光客(特に日本人)には利用しにくい。英語表示が考慮されるべきであろう。(1989年2月現在、トロリー・バスについては一部英語表示が行われている。)

3) メトロ (地下鉄)

アテネの地下鉄は現在 (総延長27kmの路線が一本あるのみである。この路線はアテネ市内のオモニア広場を通過して南のピレウスと北のキフィシアとを結んでいる。

1985年現在地下鉄には 199台の車両があり、輸送力は一方向一時間あたり 7,500人となっている。

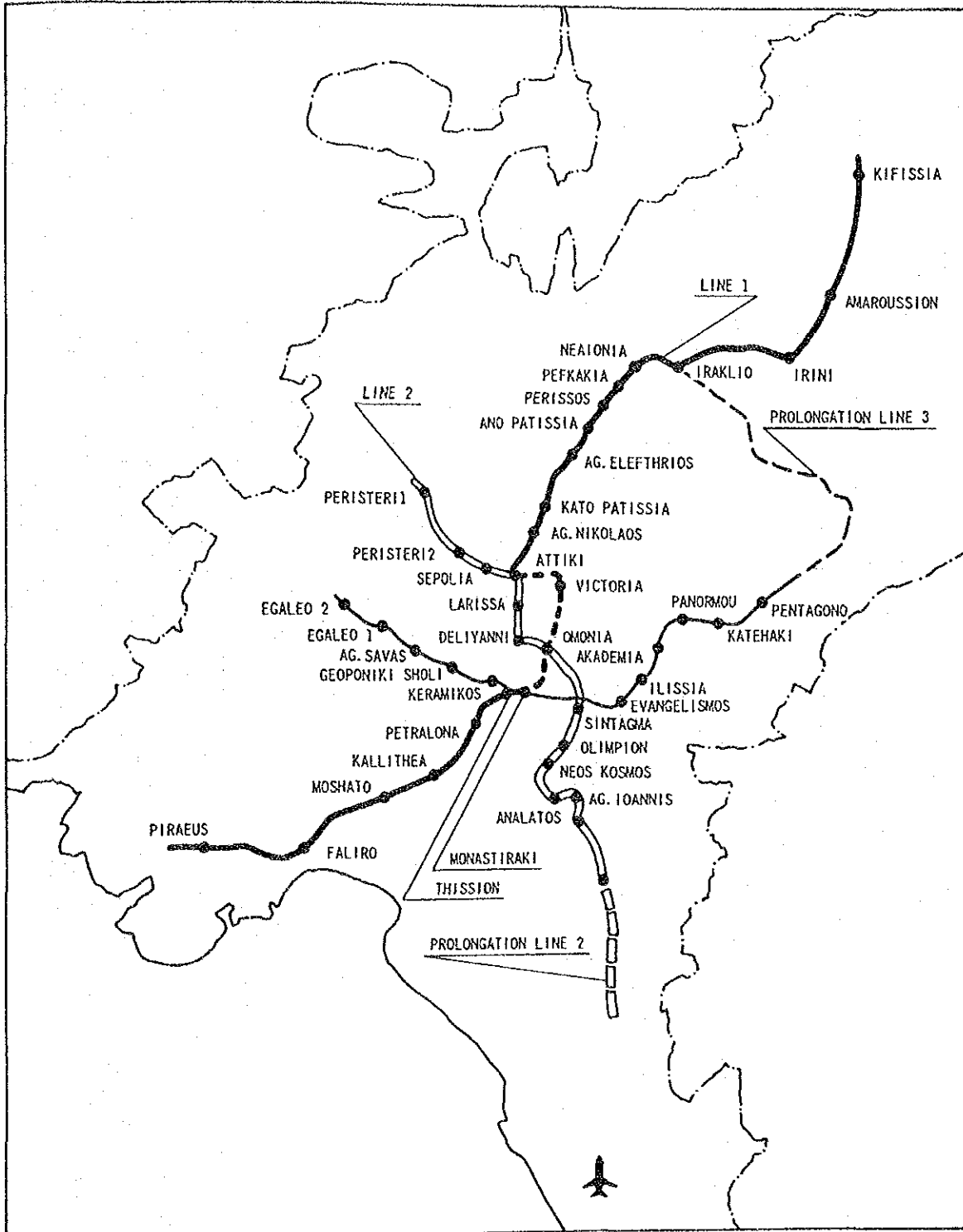
プラットフォームを100m延長して5輛編成の列車を運行することにより輸送力を高める計画がある。また列車の運行間隔を4分から2分半に短縮する新しい信号システムが導入されつつある。近い将来、これにより輸送力は一方向一時間あたり12,000人、一日あたりでは24,000人に増加する見込みである。また2本の新路線が建設予定であり、1996年のゴールドン・オリンピックが実現した暁には旅客輸送に重要な役割を果たすことが期待されている。地下鉄の延長計画は、図7.2.4に示す通りだが、概要は以下のようになっている。

— 工事の第一ステージは路線2と3の19kmをカバーする。(路線ではセボリアからダフニまで、路線3はケラミコスからペンタゴノまで。)この2路線はアテネ市内のパネピスティム、アマリアス、ヴァシリス・ソフィアス、アギオ・コンスタンティヌー、エルムーといった中心の主要道路の下を通る。

— 第2ステージでは、これらの路線をペリステリ、イリウポリ (路線2)、エガレオ、アギア・パラスケビ (路線3) まで各々延長することになる。この結果、これら2路線は合計で約26.3km程の長さになる。

— 第3ステージでは路線2を空港まで、路線3をツァンニオ病院まで延長することになる。1996年のオリンピックが現実のものになれば路線2の空港への延長は優先的に実施されるであろう。

Figure 7.2.4
 Location of Subway System

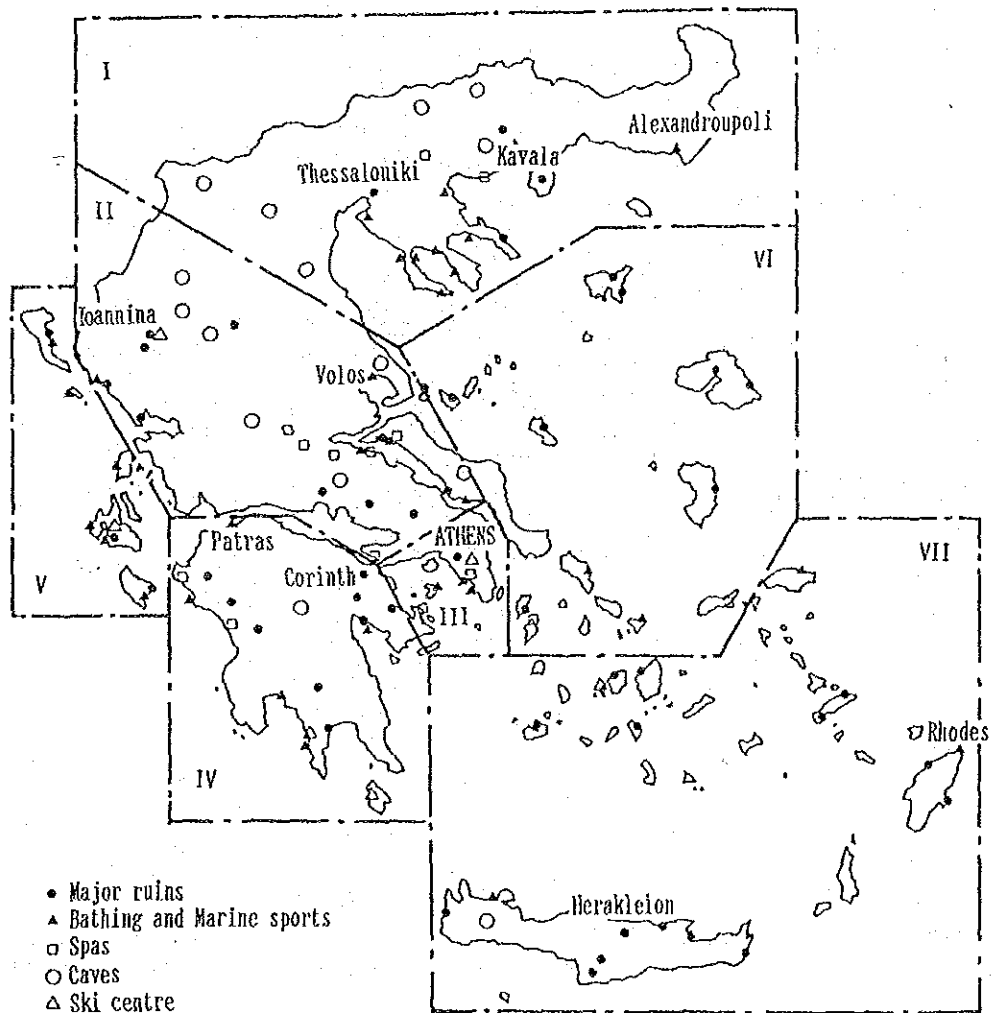


7. 3 地域の特性

この節では、各地域の一般的な特色を述べる。
 地域分類については、GNTOが採用している以下のような観光地域区分に従った。

- I Thessaloniki と北部ギリシャ (Macedonia and Thrace)
- II 中央ギリシャ
- III Athens と Attica 地方
- IV Peloponnese
- V Ionian 諸島
- VI 北部諸島と中央部エーゲ海諸島
- VII Crete と南部エーゲ海諸島

Figure 7.3.1
 The Seven Tourist Regions



7.3.1 Thessaloniki と北部ギリシャ

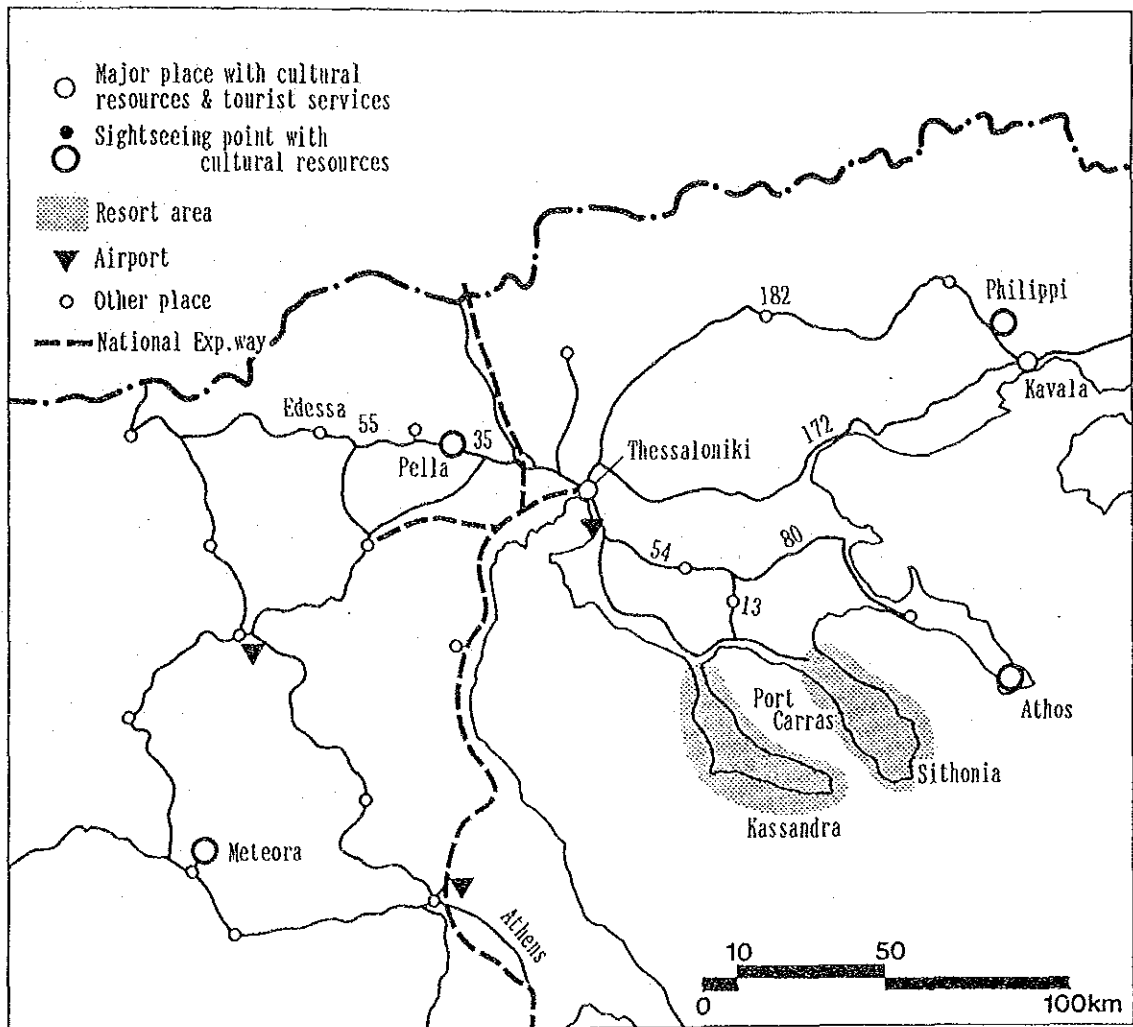
1) 地域の概要

この地域は、北方で、Albania、Yugoslavia、Bulgaria、東方で Turkey と国境を接し、湖、川、山の多い地域である。

近年この地域では、道路交通網は改善され、新しいリゾート地が、Chalkidice 半島地域等で開発されている。

この地域の主要な観光地は、ギリシャ第2の都市である Thessaloniki、リゾート地である Chalkidice、Macedonia の遺跡、Pella、Philippi 等である。

Figure 7.3.2
Thessaloniki and the Northern Greece
Tourist Region



2) 主要観光地の特徴

a) Thessaloniki

Thessalonikiは人口100万人の都市であり、この地域の商工業、観光産業の中心都市である。

現代的な都市であるが、市内各所に歴史文化資源が残されている。

<交通条件>

Thessaloniki と Athens 間には、Olympic Airways がある。1日10便で片道約50分である。

また、Thessaloniki と主要なヨーロッパの都市、たとえばAmsterdam, Brussels, Copenhagen, Frankfurt, London, Paris, Zurich, などの間に国際線が運航している。こうした点でも、Thessaloniki はギリシャの中でも、Athensに次ぐ重要な都市となっている。

Thessaloniki と Athens, Macedonia や Thrace 地方の町との間には、鉄道がある。また、ヨーロッパの都市から Yugoslavia を経山して Thessaloniki に至る国際列車がある。Thessaloniki と Athens 間の鉄道は1日7便である。

夏の期間には、Thessaloniki と Athens, Larissa, Volos, Patras, Aedipsos との間に、長距離バスが運行される。

<観光資源>

Thessaloniki は紀元前315年に築かれ、148 B Cには、Macedonia がローマ属領となった後 Macedoniaの首都となった。中世には、ビザンチン帝国の第2の都市として、数多くの教会が建てられた。都市内にはこうしたヘレニズム、ローマ、ビザンチン時代の歴史を反映して数多くの遺跡、歴史的建築物が残されている。

代表的なものとしては、The Place Galerions (300AD)、Roman Market, Theatre, the Roman Bath, the Arch of Galerions(305AD) Rotonda, the Agios Apostoli 教会があげられる。

Thessaloniki の考古学博物館には Macedonia の墳墓群から発掘された出土品が展示されている。

しかし Thessaloniki はこれら文化資源をもつ都市というよりは商工業都市のイメージが強く、多くの観光客を魅きつけるに至っていない。

<宿泊施設>

Thessaloniki の都市内及び周辺には80軒のホテル(AA-Cクラス)、約8,000ベッドがある。AA-Bクラスのホテルの年間稼働率は、75%といわれ、全ホテルでは50%ほどである。

主要なトレードフェアや博覧会の開催期間中には、AA-Bクラスホテルに、宿泊するのが難しいといわれる。

<その他>

Thessaloniki は数多くの国際的なトレードフェアが開催され、ギリシャ最大のコンベンション都市として、観光案内所、レストラン、みやげもの店などの施設サービスが整っている。

また、Thessaloniki 周辺には観光地も多いこともあり、ツアーオペレーター、ガイド等も揃っている。

Thessaloniki は、商店のディスプレイ、品揃えなどが充実し、ギリシャで最もショッピングが楽しめる都市ともいわれている。主要な商品は宝石、皮製品、毛皮などであるが、他のヨーロッパ・ブランド製品も入手できる。

b) その他の観光地

i) Chalkidice Peninsula

Chalkidice Peninsula は Kassandra, Sithonia, Athos の3つの半島から成る。Kassandra と Sithonia 半島は、美しいビーチと現代的な海浜リゾートで有名であり、その代表的なリゾート地が Porto Carras である。

Athos 半島には、ギリシャ正教教会の聖地である有名な Athos 山がある。

ii) Pella

Pella は、Thessaloniki 西方の約40kmに位置する。

Pella は Macedonia 王国の首都で、アレキサンダー大王誕生の地である。Pella の遺跡の発掘は、第2次世界大戦後に始まり、現在も続いている。

出土品は、Thessaloniki の Archaeological Museum に展示されており、Pella 遺跡自体は多くの観光客を魅きつけるものとはなっていない。

iii) Kavala and Philippi

Kavala は、Thessaloniki の東方170kmに位置する北部ギリシャ第2の都市である（人口150,000）。

Kavala は、東部 Macedonia と Thrace 地方の中核的な工業都市であるとともに、漁港、タバコ等の輸出港としても知られている。

Philippi は Kavala の北西16kmに位置している。

Philippi は、近くのPangaion hills の金鉱を開発するために築かれた町で、その後、マケドニアのフィリップⅡ世によって、征服され、Philippiと呼ばれるようになった。交通の要衝に位置し、ローマ時代になっても栄え、遺跡は、ローマ時代、初期キリスト時代のものが多い。Forum、Basilica、Theatre などが主たる遺跡であるが、Theatre は、1959年、Summer drama festival のために改造された。

年間の入場者は約235千人と比較的少ない。(1985)。

3) 評価

Athens や他のヨーロッパ諸国からこの地域へのアクセスは良好である。

Thessaloniki は、この地域の観光の発展に中心的な役割を果たしている。

この都市は、歴史的な遺産と調和した美しい街並をもち、商業施設、観光施設も充実している。但し、トレードフェアの期間にはホテルの予約が困難なことがある。

Thessaloniki 周辺のマケドニアの遺跡は、近年発掘が進み、ヘレニズム期の出土品が明らかにされてきている。

これらの出土品は Thessaloniki の博物館に展示されている。

しかし、一般の日本人にとっては、ヘレニズム期、ビザンチン期の文化は、古代ギリシャ文化ほどポピュラーになっていないためテッサロニキを始め、北部地域についての知識、関心は極めて少ない。

こうした観点から、次のような改善が必要であると思われる。

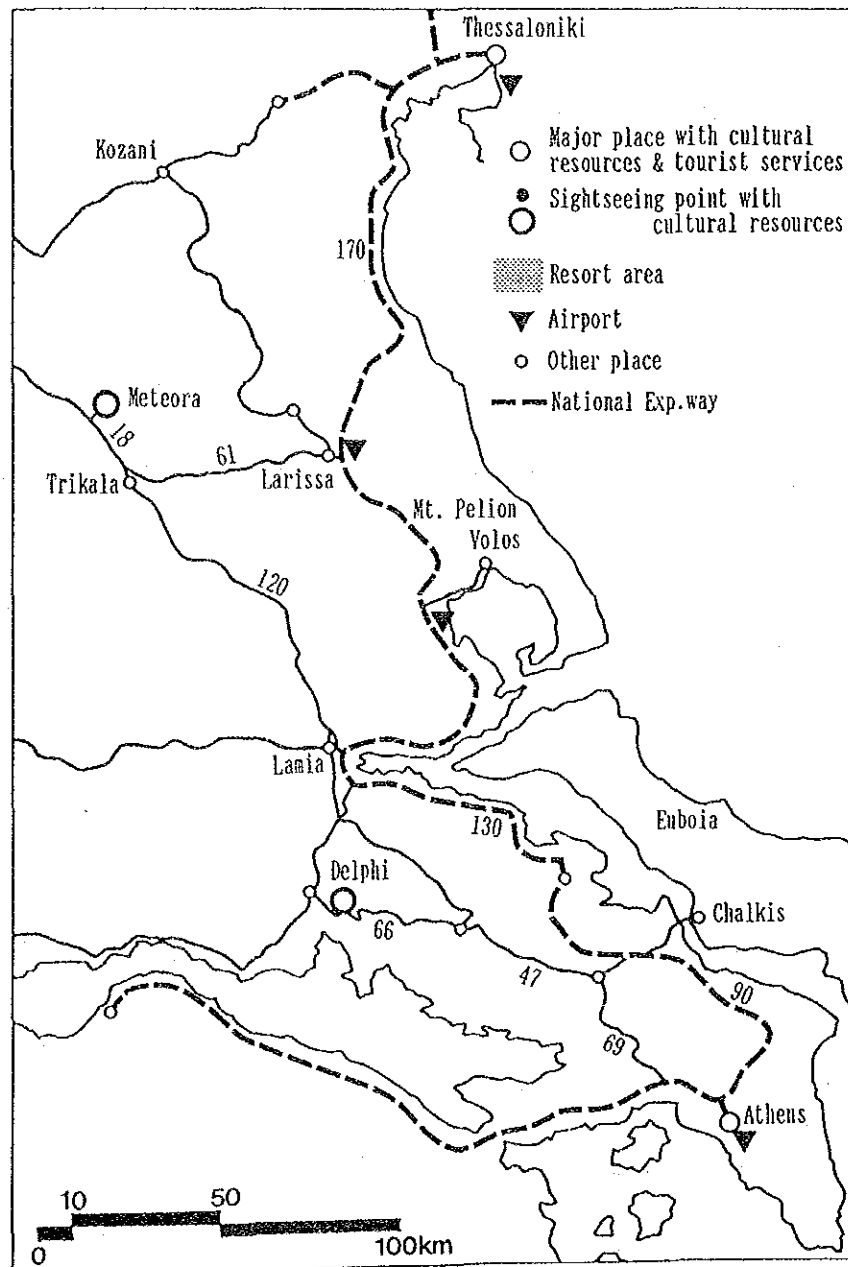
- この地域のイメージを鮮明にし、PR等を行うこと。
- Thessaloniki 周辺の観光地の整備や開発を行うこと。
- この地域の主要な観光地相互間のアクセスをさらに改良すること。

7.3.2 中央ギリシャ

1) 地域の概要

Pindos 山脈は、この地域の中央を北から南に走っている。
このため、この地域の東部と北部では、全く異なった風土をもつ。Pindos 川は、Pindos 山の斜面を下り、東部の Thessaly 地方の平野に流れこむ。
この豊富な水のために東部 Thessaly 平野は、概して肥沃で、ギリシャ最良の農業地域の一つとなっている。同時に、東部 Thessaly の Larissa、Volos 周辺では造船、製練などの重工業が盛んである。
主要な観光地は、Delphi と Meteora があげられる。

Figure 7.3.3
Central Greece Tourist Region



2) 主要観光地の特徴

Delphi は Parnassos 山 (2,457m) の南斜面に位置し、Athens から約170 kmほどのところにある。

Delphi は古代でもっとも有名な神託所であり、アポロの神話は小アジアからシシリーに至るまで、各地から参詣人を集めた。また各地から、財宝が奉納され、BC 6世紀には絶頂をきわめたといわれる。

Delphi では4年毎に楽器演奏、歌、劇、運動競技などを競う祭礼が催され、このPythian Games はオリンピックに並ぶ祭典であったといわれる。

Delphi はローマ時代になっても神託所としての役割を果たしたが、キリスト教の普及とともに、紀元398年に東ローマ皇帝により破壊された。

<交通条件>

アテネから、毎日3時間毎にバスがあり、所要時間は片道3時間半。

また、アテネから、1日バスツアー、2日1間バスツアーがある。

<観光資源>

Delphi は、背後を Phaedriades の断崖に囲まれ4つのよく保全された遺構をもっている。山腹には、下から、The Shrine of Athena Pronaea, Kastalian Spring, Sanctuary of Apollo, Studiumの4つの遺跡が整然と並んでいる。

一般の観光客にとって各遺構は判り易く、参道も良く整備されている。

博物館は、Sanctuary of Apollo から約500mほどに位置し、歩行者専用路で結ばれている。

博物館内の出土品は、各室に分類され展示されており、一般観光客にも理解し易いが、解説はフランス語、ギリシャ語の2ヶ国語のみである。

Delphi の年間訪問者数は650,000人であり、Athens の Acropolis に次いで多い。

<宿泊施設等>

Delphi には23軒のホテル(1,336ベッド)がありそのうちAクラスホテルは3軒(527ベッド)である。

これらほとんどのホテルには、レストランがあるが、その他、タベルナもあり、地方料理も楽しめる。

また、デルフィには約40軒ほどのみやげもの屋があり、陶器、山羊の毛皮や敷物、ウールのカーペットなどが売られている。

Athens からの1日バスツアーではAクラスのレストランで昼食となる。これらホテルでの昼食は塩味がきつくない、温かい料理でありかつ景色も素晴らしいことから、日本人旅行者の間で評判が良い。

b) その他の観光地

i) Meteora

Meteora は Thessaly 平野の西端に位置する。

Meteora は、巨大な岩壁が、空に峻立しその巨岩の頂にはおよそ600年ほど前に、ビザンチン修道僧により、築かれた修道院がある。当初24の修道院があったが、そのうちの5つは、現在でも修道院として利用されている。

いくつかの修道院には、巡礼者のための宿泊施設が附属されている。

ii) その他

中央ギリシャには、Delphi、Meteora 等の観光地の他に、以下のような観光地がある。

Mt.Olympos (2,917m) : ギリシャの最高峰で Macedonia と Thessaly 地方の境界に位置する。

古代ゼウスの家として信仰を集めた山であるが、現代は登山、ハイキングの場所となっている。

Mt.Pilio (1,551m) : Volos の北東に位置する山脈で避暑地として著名で、Volos Athens の市民が訪れるリゾート地となっている。

Thermopylae: ペルシャに対抗し、スパルタ兵を率いた Leonidas が戦い、全滅した古戦場。現在 Leonidas の碑がある。

Ioannina : Epirus 地方の首都で、Ioannia 湖に面した美しい町である。トルコ支配時代の雰囲気を残す旧市街地がある。

Dodona : Ioannina の南西18kmに位置し、古代ギリシャの代表的な神託所の一つとして信仰を集めた聖地である。

これらの観光地は、主要な観光地から離れており、かつ単独では諸外国からの一般観光客を魅きつけるポテンシャルは小さいなどの課題がある。

3) 評価

この地域には Delphi、Meteora などの古代ギリシャ、ビザンチン時代の代表的な聖地がある。

Delphi は現在、最も人気のある観光地の一つであり、文化資源としての価値、景観の美しさはもとより、宿泊地の魅力もあり、またアテネからのアクセスも良いことから、今後とも有力な観光地であると考えられる。

その他の観光地としては、Meteora などの歴史的文化的に興味深いものがあるが、Athens からのアクセスの利便性に問題がある。

将来、この地域全体の観光開発のためには、現在比較的整備されている Athens-Volos, Athens-Delphi の観光ルート周辺の観光地の開発、及びその間のルート整備が必要となろう。

7.3.3 Athens と Attica 地方

1) 地域の概要

Attica は中央ギリシャの東端に位置し、3,808km²の面積をもつ。アテネは Attica の一部である。

この地域の主要な観光地は、Athens、Apollo Coast、Sounion 岬、Piraeus 港、および Saronikos 諸島である。

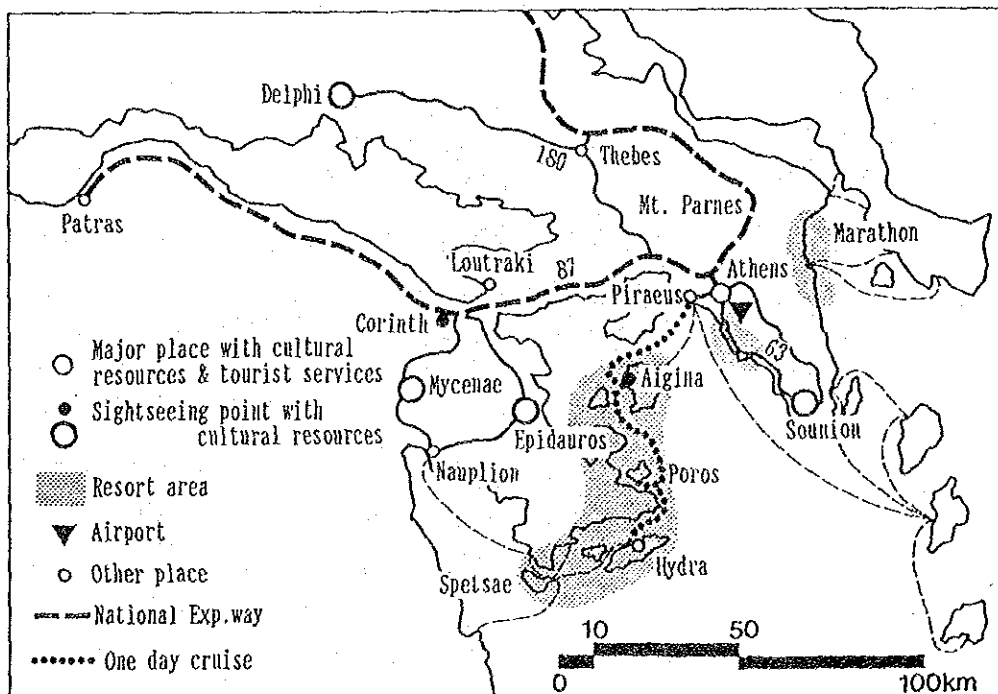
2) 主要観光地の特徴

a) アテネ

アテネは、ギリシャ独立後、1834年にギリシャの首都となった。アテネが発展するにつれ、その市域は拡大し、Greater Athens は、ギリシャで最も発達した人口密度の高い地域になっている。Greater Athens の面積は427km²と、国土のわずか0.3%であるのに対し、人口は全国の31%を占め、3,027,311人である（1981年統計）。

アテネは、行政上、経済上の中心地であるとともに文化の中心地であり、世界的に有名な Acropolis、Agora などの遺跡、またギリシャ全土にわたる出土品を収蔵する多様な博物館が随所にみられ、ギリシャ内で、外国人観光客が最も多く訪れる観光地となっている。

Figure 7.3.4
Athens and Attica Tourist Region



<交通条件>

アテネは、この地域の玄関口であるとともに、ギリシャの玄関口でもある。アテネは航空路線で世界の主要都市と結ばれている他、ヨーロッパの都市と鉄道、船で結ばれている。国内的には、全ての交通サービスのターミナルとして機能している。

<観光資源>

・Athens

Athensには、数多くの遺跡と博物館がある。

Acropolis、Agora、Temple of Zeusなどの遺跡は、アクロポリスの丘の周辺に集中している。

Acropolis、Agoraの年間入場者数はそれぞれ、約160万人、21万人である(1985年)。

アテネの国立考古学博物館は、ギリシャ全土からの数多くの出土品を収蔵しており、年間80万人の見学者がある(1985)。

その他の博物館、美術館では、National Picture Gallery、Benaki Museum、Byzantine Museumなどがあるが、他のヨーロッパ諸国の大都市美術館に比べ、小規模であり、入場者は少ない。

National Picture Gallery、Benaki Museum、Byzantine Museumの年間入場者数はそれぞれ約10万、6万、4万である(1985年)。

アテネの都市的の魅力としては、アクロポリスの丘に隣接したPlaka地区があげられる。ここにはレストラン、タベルナ、ギフトショップなどが軒を並べ、日曜日には「のみの市」が開かれ、国内外の訪問客でにぎわっている。また近年、ダウンタウンの中心Omonia広場と、Plaka地区を結ぶ地域が商業地域として開発されショッピングモールが整備され、アテネの新しい顔が形成されてきている。

・Piraeus

ピレウスはアテネから10kmの西方にあり、古くからアテネの外港の役割を果たしてきた港町である。ピレウスは、ヨーロッパと中東とを結ぶ、貨客船、国内の島々と連絡する客船が発着する他、多数のヨットが係留される国際港である。ピレウスには、客船の発着するMain HarbourとヨットハーバーであるPasalimani、Mikrolimanoの3つの港がある。

Mikrolimanoは、入江に面して、シーフードレストランが建ち並び、日本人観光客がよく訪れる場所の一つとなっている。

・Mt. Parnes

Mt. Parnesはアテネの北方に位置した、標高1,413mの山で、かつて大理石が産出された山である。

この山の中腹にCasino Mont Parnisがあり、48室の客室、水泳プール、ナイトクラブ、カフェテリアが併設されている。

<宿泊施設>

アテネには、800以上ものホテルがあり、約70,000ベッドを持つ。最高級ホテルは、Syntagma 広場、Kolonaki 広場、Vasilisis Sophias 通りの周辺に多い。これら高級ホテルは日本人観光客が良く利用するホテルで、市内観光に極めて利便である。アテネ市内の13のAAクラスホテルのうちほとんどのホテルには、Convention のための施設があり、年間を通じて、催し物、会議が開かれている。冬期のオフシーズンには、市民のパーティー、結婚式などの利用も多い。

主要なコンベンション開催期間やハイシーズンにはホテルがしばしば満室になることがある。

<その他>

・ショッピング

アテネには、以下のようなショッピングエリアがある。

Syntagma 広場周辺には、宝石、毛皮、皮革製品、衣料品、靴などの比較的高級な店が集積している。

Monastiraki Square 周辺には、民芸品、銅器、陶器、皮革製品、骨とう品などの、おみやげもの品店が数多く集まっている。

Kolonaki 広場周辺には、ヨーロッパのブランド品を扱うブティックが比較的多く、アテネ市民の人気の高い商業地域である。

また、Omonia 広場と、Monastiraki 広場を結ぶ Athena 通りは日用品を中心にあらゆる種類の商店が集積している。

比較的手頃なみやげものは、民芸品、陶器であるが、外国人観光客にとって、人気の高いものは、毛皮、宝石、金銀細工である。毛皮は縫製技術、質などヨーロッパでも定評があり、国際的なデザイナーの手により、各種の製品がつくられており、価格も欧米に比して安い。冬期シーズンには、セールが行なわれている。

宝石、金銀細工などのアクセサリでは、ギリシャの伝統的なものからモダンなデザインまで各種つくられている。伝統的なブランドでは、Zolotas、Lalaounis などが、欧米では有名である。また、モダンなデザインのものの一部は、他のヨーロッパ諸国のブランド店が買いつけ、販売しているものがある。

・イベント/エンターテインメント

ヘロデス・アッティカ劇場ではアテネフェスティバルが開催される。Plaka では、民族舞踊などが行なわれる多数のレストラン（タベルナ）がある。

・コンベンション

アテネにはホテルのコンベンション施設の他に、5つのコンベンション施設があるが、規模は小さい。現在、77,000㎡の大規模なコンベンションセンターの建設・計画が進められている。

b) その他の観光地

i) Saronikos諸島

Saronikos湾には、Salamis、Aigina、Poros、Hydra、Spetsaiの5つの島を含め、小さな島々がある。

中でも、Aigina、Poros、Hydraは、美しい景観に恵まれ民宿、レストラン、おみやげ物店などが充実しており、観光客、リゾート客が多い。1日クルーズは、Piraeus湾からAigina、Poros、Hydraを寄港するツアーで、日本人観光客の代表的な観光コースとなっており冬期の利用も多い。

しかし、冬期には海が荒れる日が多く、このシーズンの利用客にとって、1日クルーズの印象は良くない。

最近、ギリシャのトラベル・エージェントにより、クルーズの体験と、Peloponnese半島の史跡めぐりを、同時に行なえる観光コースの開発が、検討され始めている。そのルートはPiraeus - Poros - Epidauros - Argolis - Corinth - Athensである。

ii) その他のAttica地方

アテネとSounion岬の間の海岸線には、多数の海岸リゾートがある。この海岸は別名Apollo Coastと呼ばれ、美しいビーチをもつリゾートホテルも多い。中でも、VouliagmeniとLagonissiは、現代的なリゾート地となっている。

近年、日本のパッケージ・ツアーの中に、Apollo Coastのデラックスなリゾートホテルに滞在する商品も出てきている。

Sounion岬は、Attica地方の東端に位置し、アテネから70kmほどのところにあり、岬に立つTemple of Poseidonは、有名である。

Sounion岬は、夕陽の景色の美しさで知られ、日没時にSounion岬を訪ね、Athensに戻るというコースが一般的である。

アテネからの、観光ツアーとしては、Sounion半日ツアーがある。

3) 評価

アテネは、文化観光地、リゾート地 (Apollo Coast)、観光コースの基点 (Athens-Sounion, Athens-Delphi, Athens-Peloponnese, Athens/Piraeus-Cruise) およびコンベンション都市という、多様な機能をもつ。

アテネは、ほとんどの外国人観光客にとって、ギリシャにおける最初の訪問先であり、玄関口である。したがって、ギリシャの観光振興のためには、アテネのイメージを魅力あるものにする必要がある。文化観光地としてのアテネのイメージを高めめるためには、以下のような諸点についての改善が必要である。

— 遺跡と博物館の開業時間は、場所により、まちまちである。たとえば、Agora は、Acropolis に比べ、開業時間が非常に短い。

(日本人の間では、両者ともに有名であり、ほとんどの日本人が両者を見学したいと思っている。)

— Acropolis および、南側の、Odeon Herodou Atticas 周囲の歩道、参道は、良好に整備されているのに比べ、Acropolis の北側にある Agora 周囲の参道は、未整備であり、また周囲のフェンスも仮設のものであるため荒廃した印象を与える。

これらの歩道の整備、修景改善が必要であるとともに Acropolis/Agora 地域の案内標式の改善が求められる。

— 日本人観光客にとって、個人で観光する際、都市のガイドマップや博物館の案内板などが判りづらい。

リゾート地としてのアテネの改善事項

Apollo Coast には日本人観光客の好むようなリゾートホテルがあるが、一般の日本人観光客には、よく知られていない。日本人にこれが知られれば、文化観光地として、またリゾート地として総合的な魅力をもった都市として Athens のイメージが改善されるとともに、こうした観点から Apollo Coast について広報宣伝を強化する必要がある。

— Apollo Coast は、アテネ中心部からタクシーで30分ほどかかる。

現在、Apollo Coast に宿泊する日本人、観光客の全てが アテネ市内観光を行っていることから、宿泊客の増加に応じて、Apollo Coast とアテネを結ぶ送迎バスなどの交通手段の確保が必要である。

観光コースの基点としてのアテネの改善事項

- アテネからは、市内観光ツアー、Sounion 半日ツアー、1日クルーズツアー、デルフィ1日ツアーなど多数の観光ツアーが各観光会社により運行されている。その中にはホテルまでの送迎サービスがあるものもある。予約はAA又はAクラスのホテルや各旅行会社で行なえ、利便である。しかし、一般の日本人にとって、バス停や適切なバスを見出すことは困難であるため、発着所の表示、バスの行先の表示を色分けにするなどの工夫、改善が望まれる。
また、パンフレットの発着所案内をより詳細に判り易いものにすべきである。

コンベンション都市としてのアテネの改善事項

- アテネには、各AAクラスホテルのほとんどに会議室が整備されており、また、近い将来、大規模なコンベンションセンターが建設される予定である。また、アフターコンベンションとして様々な観光ツアーが組めるなどコンベンション都市としてのポテンシャルは高い。
ただし、日本から直接にコンベンションの誘致という点では、時間・距離がかかるため、その実現性は困難と思われる。在欧日本企業などのコンベンション会場として、PRや誘致を検討すべきであろう。

その他の改善事項

- 現在、アテネには、様々なショッピング街が市内各地に形成されつつあり、中には日本人観光客が興味をもつショッピング街や各種専門店もある。現在のガイドブックや市街地図ではこれらの情報が把握し難く、判り易いガイドマップを作成し、ホテルや案内所を通じ観光客に配布する必要がある。
- アテネには、ギリシャ料理店、シーフードレストラン、日本料理店などさまざまなレストランがある。しかしながら、日本人観光客は短期滞在のため、これらの様々のレストランを発見することが難しい。
評価の高いレストランを外国人に紹介する方策を講じることが期待される。(パンフレット、ホテルでの紹介等)
- Greater Athens に経済活動が集中したことにより、交通混雑と、大気汚染という公害問題が起きている。
この公害問題は、外国人観光客にも良く知られており、アテネの魅力を向上するためには、これらの改善が求められる。

7.3.4 Peloponnese

1) 地域の概要

Peloponnese は、Balkan 半島の最南端に位置している。この半島は、ギリシャ本土と Corinth 地峡で結ばれている。

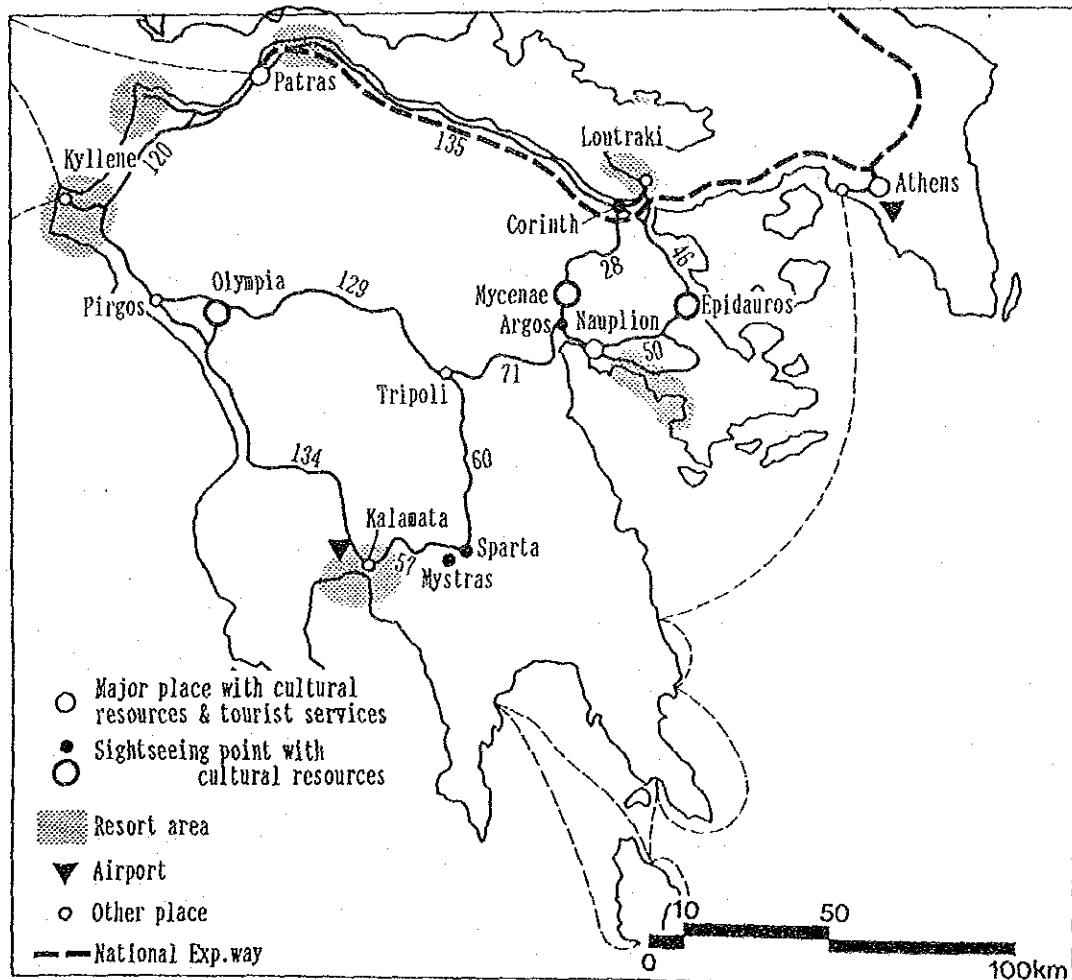
Corinth 地峡は長さ6.3km、巾23mである。この半島の総面積は21,000km²、人口は100万人（1981）である。

現在の半島は、Argolis の広大な野菜畑、Laconia、Messenia、の果樹園などを中心に農業が盛んである。特にブドウとオリーブは、古代からの代表的な農産物である。

また、この半島は、紀元前13世紀のミケーネ文明の発祥の地であり、五輪競技発祥の地 Olympia、アテネと覇を競った Sparta、ギリシャ最大の古代円形劇場をもつ Epidauros、中世のポンペイといわれる Mystras、18世紀初頭400年間のオスマントルコの支配に対し、ギリシャ独立戦争の口火を切った Kalavryta など、ギリシャの歴史を表わす歴史資源に恵まれている。これら遺跡が地域の観光サービス業に果たす役割は大きい。

Peloponnese 半島の主要な観光地は、図に示すとおりである。

Figure 7.3.5
Peloponnese Tourist Region



2) 主要観光地域の特徴

a) Corinthia Argolis 地域

この地域には、数多くの著名な観光地がある。

最も有名な観光地としては、Corinth、Epidaurus、Mycenae などが挙げられる。これらの観光地は、Athens から82km～150kmほどに位置している。

<交通条件>

アテネから Corinth、Mycenae 等を経由する鉄道がある。夏期シーズンには Athens から Nauplion まで水中翼船が運航する。またアテネから主要観光地まで定期バスがある。しかし、これらの交通手段は、一般観光客が観光地を巡るためには、便利でない。観光客にとっては、アテネから主要観光地を巡るツアーバスを利用することが最も利便である。

<観光資源>

この地域には3つのタイプの観光資源がある。

第1のタイプは、古代ギリシャの遺跡で、Corinth、Epidaurus、Mycenae、など、第2はベニス支配下の歴史的建築物の残る Nauplion、そして第3は Loutraki などの海浜リゾート地である。これらの観光地の特色を要約すると以下のとおりである。

i) Corinth

Corinth には、Ancient Corinth と Akrocorinth の2つの遺跡が残されている。

Ancient Corinth は、古くから戦略上の重要拠点として栄えた都市で BC 6世紀頃に最盛期をむかえたといわれる。その後、BC 146年にローマ軍に破壊され、再建されたものである。

Akrocorinth は、始めはギリシャのアクロポリスとして利用されその後、ローマの城として、ビザンチンの砦として改変されて行ったものである。

Ancient Corinth は、アテネから約80kmとペロポネソス半島の遺跡の中で最も利便な位置にあるため訪問客は、約33万と比較的多い(1985年)。

ii) Mycenae

Mycenae は、Mycenaean 文明を代表する遺跡として考古学上重要な遺跡である。Mycenae はアテネから131kmの Argolis 平野の北東部に位置し、小高い山に囲まれた丘の上に築かれた城塞である。

遺跡は、Treasury of Atrus と Acropolis の 2 箇所が 500m ほど離れて残されている。巨石造りの Treasury of Atrus や Lion Gate は往時の繁栄をしのばせるものであるが、Acropolis の頂上にある王宮などは礎石のみで一般観光客には判りにくい。Mycenae の出土品は現在アテネの Archaeological Museum に展示されているが、近い将来、遺跡脇の博物館（現在は未利用）に移される予定である。

年間の訪問客数は、約 61 万人である（1985 年）。

iii) Epidaurus

Epidaurus は アテネ から約 150km の緑豊かな山々に囲まれた谷間に形成された聖地である。古代ギリシャにおいては、Apollo の息子である Asklepios の睡眠療法があらゆる病気に最も効果があるとされ、Asklepios の埋葬された Epidaurus が療養地として信仰を集め、ホテル、公園、公衆浴場、体育館、競馬場、および劇場などが築かれ、今日でもその概要を知ることができる。

遺跡は、Theatre と Sanctuary of Asklepios の 2ヶ所あるが、特に、約 14,000 の客席をもつ 円形劇場 は紀元前 4 C につくられた当時のまま、ほとんど完全な姿で残っている。

この Theatre を舞台にして、6 月 15 日から 9 月はじめまで毎週末には、ギリシャ古典劇の上演がある。この古典劇は、ギリシャ神話を素材とし人間模様を巧みに表現するものとして、その名声は高く、また Epidaurus での上演は古代ギリシャさながらの雰囲気をかもしだすため、外国人観光客の人気は高い。そのため、開催時期には、世界各国から多数の観客が訪れている。

こうした観光客に対応して、この期間には、入場チケットと往復バスとを組み合わせた、日帰りまたは 1 泊ツアーがアテネから出ている。

年間の訪問客数は約 60 万人である（1985 年）。

iv) その他の観光地

上記 3ヶ所が、この地域の主要な観光地であるが、その他の観光地として、次のようなものがあげられる。

—Nauplion—

Nauplion は、人口約 1 万 1 千人。かつてトルコから独立直後、ギリシャの首都であった町で、現在は Argolis 地方の首都となっている。

Nauplion は、Argolis 湾に面した港町で、背後にはベニス支配時代に築かれた砦やか古代アクロポリスの丘などがある。湾に面して旧市街地があり、13～18世紀の様々な時代の教会や歴史的建築物が残されているとともに、レストラン、おみやげもの店、ペンションなどがある。また Nauplion の周辺には、Portoheli のような大規模リゾート地がある。

Nauplion は、小規模の町ながら、Argolis 地域の観光の拠点として、多くの観光客を魅きついでている。

したがって、ここを訪れた日本人観光客からも高い評価を得ている。

—Tiryns—

Tiryns は、Mycenae から約20km、Nauplion から5kmの位置にある。Tiryns の丘にたつミケーネ時代の遺跡は巨石造の城塞として名高い。

—Loutraki—

Loutraki は、Corinth 湾をはさみ、Corinth の対岸にある。

Loutraki は、温泉療法のセンターとして、ギリシャ人のみならずヨーロッパの人々に知られている。

<宿泊施設>

Corinth および Argolis 地域には、約170軒のホテル（19,000ベッド）がある。

宿泊施設の多い観光地は、海浜リゾート地の Loutraki、Portoheli および Nauplion で、Bクラス以上のホテルでは、それぞれ31軒（1,946ベッド）、7軒（1,668ベッド）、5軒（462ベッド）のホテルがある。

b) Olympia

Olympia は Peloponnese 半島の西地域に位置している。Olympia は古代オリンピックの発祥の地として著名であり、また遺跡も良好に保全されている。

このため、Olympia は アテネ からのアクセスはさほど利便ではないが、年間40万人もの観光客が訪れている。

<交通条件>

アテネから長距離バスがあり、片道約6時間ほどかかる。

アテネから Olympia 観光を含む4日間のバスツアーがある。

<観光資源>

Ancient Olympia には、オリンピック競技の舞台となった Stadium、競技者のための練習場 (Palestra)、宿舎 (Leonidaion) など古代ギリシャ人の競技をしのぼせる施設や、Temple of Hera、Temple of Zeus などの神殿が広大な敷地に整然と残されている。また、遺跡周囲は松林におおわれ、観光客はゆったりとした散策道をくつろぎながら見て回ることができる。

遺跡入口付近の林の中には、オリンピアの発掘品を展示する博物館がある。それらの展示品は、古代オリンピック競技やオリンピアでの生活を伝える、陶器、彫刻などで、日本人観光客にとっても展示方法も良く、判り易い。

特に春には、アーモンドや桃などの花々が咲きみだれ、オリンピアが最も美しい季節となる。

<宿泊施設等>

現在の Olympia の町は遺跡入口から 1 km ほどのところに位置している。人口は、1,100 人と小さな町であるが、17 軒のホテル (1,304 ベッド)、ペンション、レストラン、タベルナ、キャンプ場など、観光サービス施設は充実している。

B クラス以上のホテルは 10 軒 (1,049 ベッド) で比較的高級な宿泊施設を備えている。

オリンピアを訪れる客のほとんどが日帰り観光客であるため、この町では歴史に興味のある観光客 (研究者、学生) などの誘致を図ろうとしている。

c) その他の観光地

Sparta は Peloponnese 半島の中でも特にその知名度では日本人に有名な観光地である。

Sparta は現在 Laconia の首都で、人口は 12,000 人である。

Sparta は Acropolis と Archaeological Museum の 2 つの観光資源があるが、その他の代表的な遺跡に比し、往時を想起させるものは少なく、訪問者も少ない。博物館の入場者数は年間 1 万 5 千人ほどである (1985 年)。

Sparta から 6 km 西方の Tygetos 山の斜面には、中世に栄えた。

Mystra の遺跡がある。この遺跡にはビザンチン時代の数多くの教会が残されている。年間の訪問客は約 17 万人と多い (1985 年)。

3) 評価

Peloponnese 半島には、様々な文化観光地が広く分布している。とりわけ Olympia や Mycenae は、日本人が、アテネやクレタに次いで行きたいと思っている観光地である。

これらの観光地を巡るためには、Mycenae、Epidaurus 等では、ほぼ1日必要であり、また、Olympia では最低1泊が必要である。

現在、最も利便な交通手段は、ツアーバスで、アテネを起点として1日から6日間までの様々なツアーがある。

時間の制約のある一般の観光客にとって Corinth, Mycenae, Epidaurus 等の遺跡を巡る1日ツアーは、利便であるが3カ所の遺跡をめぐるため、特に遺跡に興味のある人以外はツアー途中で退屈してしまう。2ヶ所位の遺跡にとどめ、Nauplion などでの休憩、観光時間を多くとり、ツアーに変化をもたせるなどの工夫が必要と思われる。

また、日本人観光客にとっては、往路、復路のどちらかにクルーズを組みこんだ2日間ツアーなども考えられよう。

Peloponnese 半島の観光地は、遺跡めぐりがほとんどであり、これらに興味を示す観光客は限られると思われる。

ペロポネソス半島のナフプリオン、エピダウロス、オリンピアの観光地では、特に日本人観光客誘致の一環として、それぞれ、学生セミナーの誘致、姉妹都市提携による日本との交流事業の推進、歴史に興味をもつ研究者の誘致などを熱心に検討している。こうした活動を継続して行くことが望まれる。

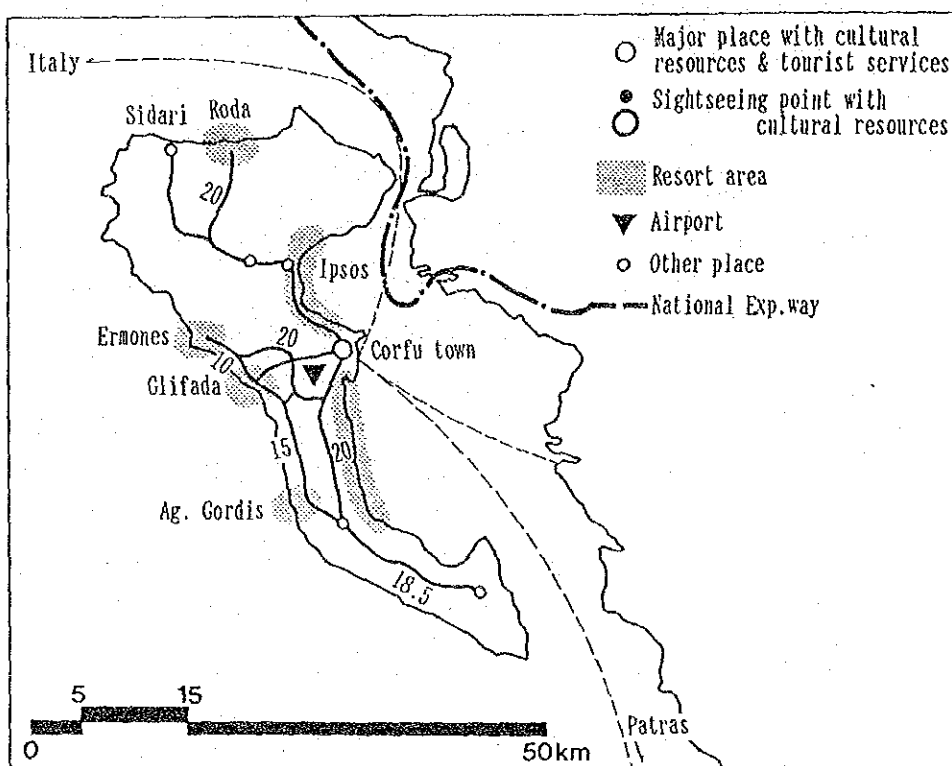
また、Peloponnese 半島の出入口である Corinth 地峡では週末や観光シーズンには自動車交通は非常に混雑するため、新しい架橋の建設が長期計画の一つとして検討されているが、地域の観光振興のためにも早期の実現が望まれる。

7.3.5 Ionian 諸島

1) 地域の概要

Ionian 諸島は、ギリシャの西海岸に浮ぶ7つの島々から成る。Corfu 島はこの諸島の北部にあり、行政の中心地であるとともに、温暖な気候、美しい風景、良好なビーチに恵まれ、観光施設も整っている。このため、Corfu は、ギリシャの最も重要な観光地の一つとなっている。Corfu の面積は592km²、海岸線は217kmである。島内人口は99,477人で、Corfu Town では約34,000人である(1981年)。

Figure 7.3.6
Ionian Islands Tourist Region (Corfu)



2) 主要観光地の特徴

Corfu 島は中世以来、ベネチア、フランス、イギリスに次々と占領されてきた歴史を反映し、Corfu Town をはじめ、各所に各時代の建築物が残されている。また、島内のいたるところにリゾートホテルが整備され、夏期には、ヨーロッパ諸国からリゾート客が訪れるギリシャの代表的なリゾート観光地となっている。

コルフ島の外国人の総宿泊数は3,692,748におよんでいる(1986年)。観光シーズンは4月1日から10月30日までの期間である。

<交通条件>

Athens から航空便があり、夏には毎日6便ほどある。

国際便としては、ロンドンからの定期航空便があるほか、夏には、ヨーロッパの諸都市からチャーター便がある。

フェリーは Igoumenitsaz と Patras からある他、イタリアのベニス等の港からも船便がある。春から夏にかけて、アテネから4日間のエアー・ツアーがある。

島内には、バスサービスの他、約200台のタクシーがある。

<観光資源>

主要な観光資源は、Corfu Town と島内の海岸線に分布している数多くの海浜リゾート地である。

Corfe Town は、中世から16世紀にかけて築かれた砦と16世紀以降につくられた砦の間に形成された町で、ベネチア、フランス、イギリスの支配下につくられた教会、館および数多くの建築物が残されている。

また、街の一画には、ベネチア配下に築かれたイタリア風の街並をもつ旧市街地があり、細い街路には店舗、レストラン、カフェが連なり、観光シーズンには多くの観光客でにぎわう。

この町の代表的な文化資源としては、Archaeological Museum と Museum of Asian Art がある。

Archaeological Museum は地元の遺跡で発掘された出土品を展示している。Museum of Asian Art はかつてオーストリア大使であった Manos 氏とインド大使であった Chatzivasileion 氏が寄贈したコレクションが展示されている。このコレクションは、中国、日本、インド等の芸術品、約10,000点から成るもので、新石器時代から紀元後19世紀のものまでである。

これらの博物館の入場者は、それぞれ2万人、4万5千人である(1985年)。

<宿泊施設等>

Corfu 島は入りくんだ海岸線と、複雑な地形のため、島内の各地に、大小さまざまなビーチがある。それらの大部分は、パブリックであるが、近年開発された大規模なリゾートホテルにはプライベートビーチをもつものもある。

Corfu は、1864年まで他のヨーロッパ諸国に支配され、文化的には、ヨーロッパ諸国との関係が強いこともあり、ヨーロッパ各国からの観光客が多い。

レジャー施設としては、マリナーをはじめテニス、ゴルフ、クリケット、乗馬など国際色豊かな多様なスポーツ施設がある。

19世紀末には、避寒地、避暑地としてヨーロッパ王家等の館が建設された。その一つが、現在カジノとして利用されている。カジノは、広大な庭園をもつ風格のある建物で海を見下す丘の上に建っている。夏には庭園でもゲームが催され、その雰囲気の良いさは観光客に人気がある。

現在、ホテルのベッド数は、3万でBクラス以上が大半を占める(AA:2,000、A:8,500、B:7,400)。ホテルの多くは、東海岸線に集中しているが、大規模なリゾートホテルが、西、北の海岸部に整備されてきている。近年島内各地域のリゾートホテルは大規模化し、ビーチ、プール、フィットネス施設、マリンスパ施設の完備したものとなっている。

AA、A、Bクラスのホテルの年間稼働率は、それぞれ71%、83%、78%と高く(1980年)、夏期シーズン中のごく短期の宿泊は困難であるかもしれない。

3) 評価

Corfu 島は、ギリシャの他の島々に比し、歴史的にヨーロッパ諸国との関係が強く、またヨーロッパ諸国やギリシャではまれな温暖で適度な湿度のある気候をもつため、ヨーロッパ人、ギリシャ人にも人気の高いリゾート地となっている。

夏には、数多くのヨーロッパのリゾート客がチャーター便で訪れ、各国の団体客は気に入りのリゾート地域に宿泊するため、各リゾート地域は、イギリス人村、イタリア人村という様相を呈する。

現在、少数の在欧日本人が、Corfu を訪れ、バカンスを過ごしているものの、一般の日本人は、Corfu をほとんど知らない。

一般の日本人の間では、ギリシャのリゾート地への旅行は一般化しておらず、ハワイ、グアムなどの日本に近いリゾート地と比べ、時間、費用の面で一般観光客がコルフ島までに行くのは当分のところ無理であろう。

また、観光地としての Corfu 島は、様々な文化資源に恵まれているが、島のみでは、一般観光客をひきつけるものとはいえない。また、Corfu Town のシンボルであり、主要な観光資源である2つの砦については、一つは一部分入場可能で、夏にはライトアンドサウンドのようなイベントが催されているが、もう一つの砦は公開されていない。観光資源としての活用が期待される。

7.3.6 北部諸島と中央部エーゲ海諸島

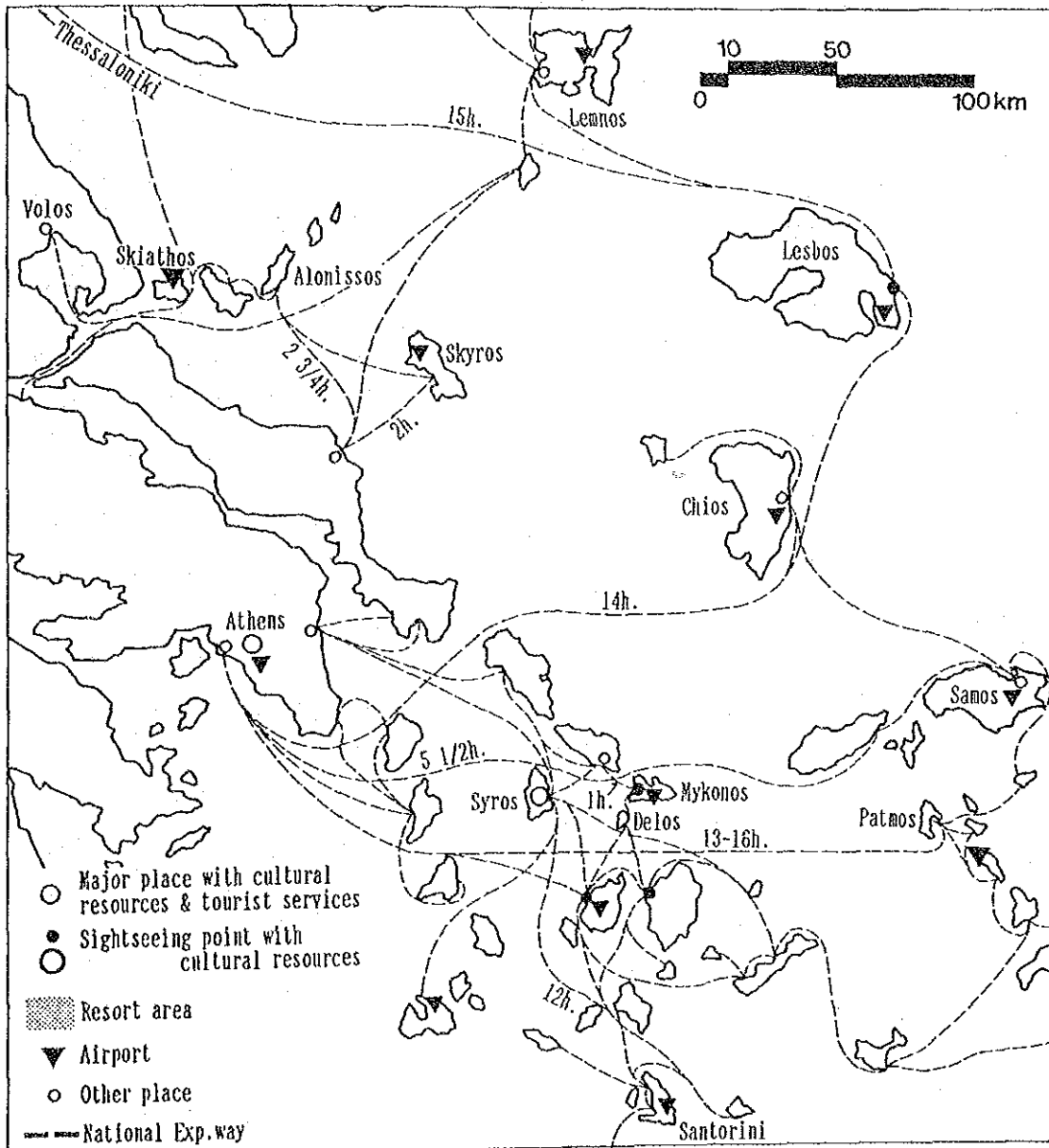
1) 地域の概要

Sporades 諸島及び Cyclades 諸島の数多くの島々がこの地域に属する。

この地域は、紺碧の海と白い集落で構成された島々から成る。

これら島々は夏になるとリゾート地として、クルーズ船の寄港地として、多くの観光客でにぎわう。

Figure 7.3.7
The Islands of the Northern and Central Aegean Tourist Region



2) 主要観光地域の特徴

a) The Cyclades

Cyclades の名は「環」という意味をもつギリシャ語「Kyklos」に由来する。その名の示す通り、Cyclades 諸島はエーゲ海中央部に環状に浮ぶ39の島々から成る。Cyclades 諸島は、Mykonos、Santorini (Thera)、Delos、Melos、Naxos、Paros などの島から成る。

主要な観光地は以下のとおりである。

・ Mykonos

Mykonos は Cyclades 諸島の中で最も人気の高い島である。面積は85 km²、海岸線は81km、人口は約5,500人(1981年)である。

主要な観光資源は、Mykonos Town と島内の数々のビーチである。

Mykonos Town は港を囲む白い伝統的な家々、300を越えるといわれる教会、風車などにより構成された、エーゲ海の典型的な集落景観をもち、港に面して、カフェテラス、タベルナ、ディスコ、スーベニールショップなどのサービス施設を有する観光地である。

Mykonos には約50軒以上のホテルがあるが、Aクラスホテルは2軒ほどで、小規模ホテルがほとんどを占める。夏期には若者を中心とした欧米各国のリゾート客で混み合うため、団体客が宿泊することは困難である。なお、観光シーズンは春から秋までの期間で、冬期にはほとんどのサービス施設が閉業する。

Mykonos Town は約2時間半で見て回られる大きさで、観光シーズンにはほとんどのクルーズ船が寄港する。また、ピレウス港から定期船が週に25便ほどある他、アテネからは航空便(夏には毎日10便)がある。

・ Delos

Delos 島は、Mykonos 島から約20kmほど西方に位置した、3.5km²の小さな島である。

デロス島は古代エーゲ海の世界では、宗教、政治の中心地として栄え、BC 5世紀にはデロス同盟の宝庫として、イオニア諸都市から多くの富が集まったが、その後、海賊などの略奪などでBC 66年に至り廃墟と化したといわれる。この島には、Terrace of Lion, Sanctuary of Apollo など繁栄した当時の遺跡とともに、Archaic Sculptures などの出土品を展示した Museum がある。考古学的には重要な島で、現在も発掘が続けられている。

デロス島には、Xenia Hotel(7ベッド)が一軒のみで、また、Mykonos からの定期船しかなく、一般の観光地としてよりも学術上の遺跡という雰囲気強い。年間約9万人の観光客が訪れている。

・ Santorini (Thera)

Santorini は Cyclades 諸島の南端に位置し、面積は76km²、69kmの海岸線をもつ。人口は約7,000人である。

島は、火山活動による荒々しい地形で、島の東側と西側では、全く異なった風景が展開する。東は、見わたす限りの平野で、西は、急峻な崖となる。

Thera Town は島の中心地で、標高300mの崖上にある。

町は白い教会、白い家が建ち並び、Mykonos と同様の美しい景観をもっている。

夏になると、各国から若い芸術家達が集まり、彼等の手による民芸品、絵画、アクセサリーが売られている。

古代遺跡は、Ancient Thera と Akrotiri の2ヶ所がある。

Ancient Theraは、BC9世紀に築かれローマ時代に衰退し、13世紀に廃墟になった町である。この遺跡には市場、浴場、劇場、アルカイック期・古典期の神殿、初期キリスト教時代の遺構などがある。

Akrotiri は、1967年以来現在も発掘が続けられている遺跡である。

この発掘によって、ミノア文明の都市が明らかにされ始めている。出土品には、有名なフレコス画があり、アテネの考古学博物館に展示されている。

アテネからの空の便（夏には毎日4便）、ピレウスからの定期船がある他、ほとんどのクルーズ船も寄港する。

b) The Sporades

「Sporades」とは、ギリシャ語で「分散する島々」という意味で、この諸島には Skiathos、Skopelos、Alonissos、Skiras などの島々や、その他トルコ海岸に近い島々(Limnos、Lesvos、Hios、Ikaria、Samos)がある。

これらの島々の魅力は、歴史的、文化的な遺産というよりは、自然の美しさにある。また、これらの島々は他の有名な島に比べ、緑豊かで、観光客も少なく、落ち着いた雰囲気をもっている。

静かなやすらぎを求める保養客の間では、これらの島々の人気は急激に高まっている。しかし、日本人にはほとんど知られていない。

3) 評価

日本人のギリシャ観光に対するイメージは、2つのタイプがある。

一つは、古代遺跡の探訪、もう一つはエーゲ海巡りであるが、若者や女性の間では後者の人気が高い。

中でも Mykonos と Santorini の2島は、日本の雑誌、テレビで広く紹介されており、若い日本女性のあこがれの地となっている。

これらの島は、観光客の期待を充分満足させるだけの美しい風景をもっている。また、夏には、欧米各国から若い観光客が集うため、様々な国際的コミュニケーションを体験できることも魅力の一つである。これらの島々の魅力を充分満喫するためには、気候も良く、観光客も多い夏期シーズンが最も良い。

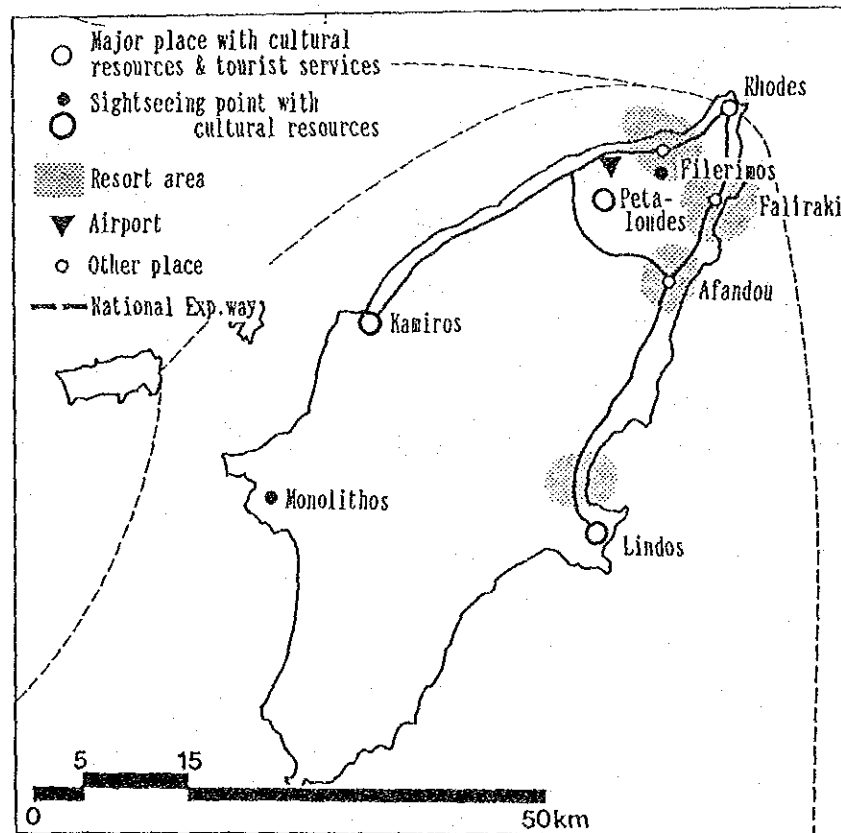
しかしながら、グループ・ツアーを特徴とする日本人観光客にとって両島は日本人のグループ・ツアー客を受け入れるに充分な宿泊施設規模を有するホテルは少ない。特に夏には混み合う両島へのアクセスは空の便が最も便利ではあるが、夏期シーズンは混み合うため、予約がとりづらい。又、海路訪れるということも可能であるが、クルーズ船の出港日が限られていることから、ツアーのスケジュールが限定されるなどの制約がある。

7.3.7 Creteと南部エーゲ海諸島

1) 地域の概要

この地域には Crete、Rhodes、Kos、Samos など多くの観光地がある。中でも Crete と Rhodes の2つの島は、外国人の総宿泊数で Athens を上まわり、ギリシャの代表的な観光地となっている。

Figure 7.3.8
Profile of Rhodes Island



2) 主要観光地域の概要

a) Rhodes

Rhodes 島は、Dodecanese 諸島の最大の島で、ギリシャでは、第4番目に大きな島である。この島は、エーゲ海の北東に位置し、面積は1,398km²、海岸線は220km、人口は約9万人である。

Rhodes の外国人の年間の総宿泊数は6,000人で、日本人観光客にとっては、アテネに次ぐ観光地である（1986年）。

<交通条件>

Rhodes 島には国際空港があり、アテネ（夏期には毎日10便）やギリシャの他都市、ヨーロッパの主要都市から航空便がある。又夏期には欧州各地から数多くのチャーター便がある。

Rhodes と Pireaus (Athens) 間に定期船があり他の島との間にはフェリーがある。3月中旬から11月中旬までのシーズンには、多くのクルーズ船が寄港する。

<観光資源>

Rhodes 島の主要な観光地として Rhodes Town と Lindos があげられるが、その他 Kanilos、Ialissos などの古代遺跡、修道院などが全島に分布している。

Rhodes Town は島の北端にある人口約4万の町で中世の十字軍により築かれた城壁に囲まれた旧市街と、20世紀初頭イタリア占領下に築かれた新市街地から成る。

旧市街地には The Knight's Palace, Knights Hospital (Archaeological Museum) を始めとし、中世時代の館、教会などが数多く残されているとともに、旧市街地の古い民家はレストラン、店舗などのサービス施設として現在も利用され、歴史と生活が調和した観光地となっている。また、これらの歴史的建築物については、文化団体の手により、保全・修復計画が推進されており、街並に調和した案内板や照明の整備も行なわれている。

The Knights Palace と Archaeological Museum はこの町の主な見どころでそれぞれ約23万、14万の年間入場者がある（1985年）。

新市街地は、20世紀初頭イタリアの支配のもと、Mandraki 港（ヨットハーバー）沿いに形成された町で、Kathedral、Government House などのイタリア風の建築物や Town Hall、劇場などの公共施設が集積しており、その周囲には、ファッション、貴金属などのハイグレードな専門店街、ホテルなどが建ち並んでいる。

旧市街、新市街地は2、3時間ほどで見回ることができ、リゾート客はもとより、短期滞在客、クルーズ客すべてにとって充分満足できる規模と多様な観光資源を有している。

Lindos は Rhodes Town から南へ65kmほどに位置し、古代アクロポリスのふもとに形成された人口700人の小さな村である。

古代アクロポリスは Temple of Athena のある聖城であったが、中世には城塞として増改築され、古代から中世までの遺跡が残されている。

村は、ビーチとアクロポリスの丘の間に形成され、レストラン、ペンション、みやげの店、伝統的な教会などがある。

Lindos は古代遺跡と白い集落で構成したギリシャらしい美しい景観をもっていることから、多くの観光客が訪れるとともに、リゾート地としても人気が高い。

アクロポリスの入場者は年間50万とギリシャで6番目に多い遺跡となっている(1985年)。

<宿泊施設等>

Rhodes 島においては、いくつかの地域に、リゾートホテル群がたまって形成されている。特にリゾート地として開発されてきた地域は、Rhodes Town と空港を結ぶ北西地域であったが、近年、東北の Faliraki 地域にプライベート、ビーチ・プール、レジャー諸施設をもつ大規模なリゾートホテルが10軒以上立地し、リゾート基地の様相を呈している。

ホテルは約230軒(37,000ベット)でそのうちAA、Aクラスのホテルは、約70軒(23,000ベット)を占め、宿泊施設の大部分は大規模でハイグレードなホテルである。

AA、A、Bクラスのホテルの稼働率はそれぞれ76%、90%、80%と極めて高い。これらのほとんどのホテルは冬には閉業する。

ロードス島ではホテルの建設ラッシュが今日でも続いており1989年にはさらに20軒ほどのホテルが建設される予定と聞いている。

また、これまで、未開発であった島南部には巨大なリゾート・コンプレックスの建設が計画されている。

Rhodes Town には約3,000のレストラン、ショッピングの店がある。Dodecanese 諸島では、輸入品が免税扱いとなっているため、酒、貴金属、衣料品などのヨーロッパ諸国の輸入品が安い。

ロードス特産のものとしては陶器があり、Rhodes Town の郊外には製造直売店がいくつかある。また、ロードス島は、古代より、小アジアとギリシャの交易路にあったため、アクセサリーについては、トルコ石、象牙など周辺諸国の素材を使った地元デザイナーの手によるハンドメイド品が多い。

これらは比較的日本人の好む、ハイグレードなものである。

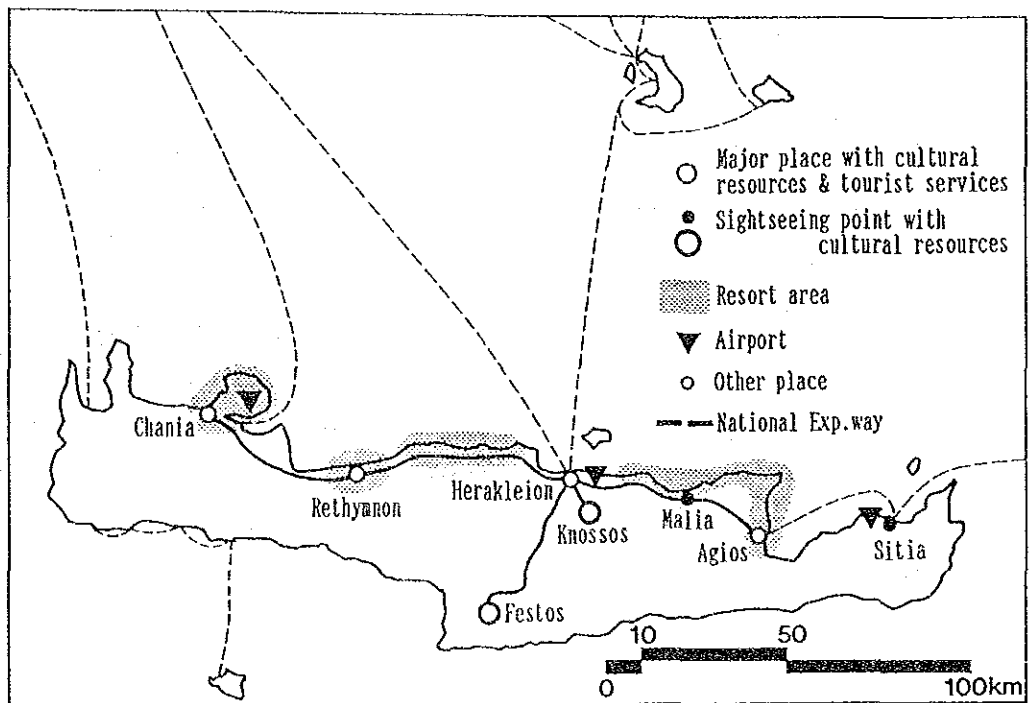
b) Crete

Crete 島は、ギリシャ最大の島で、地中海では第4番目に大きい島である。面積は8,336㎢、海岸線は1,046kmである。人口は1981年では502,165人。

Crete は、4つの県に分かれ、中央部にはHerakleion、(首都Herakleion)、Rethymnon県(首都 Rethymnon)、東部には Lassithi 県(首都 Agios Nikolaos)、西部には Chania 県、(首都 Chania)がある。

Crete 島の外国人の総宿泊数は680万で Rhodes に次いで、人気の高い観光地となっている。(日本人の総宿泊数は約4,000である。)

Figure 7.3.9
Profile of Crete Island



<交通条件>

空路については Athens から Herakleion, Chanea に、定期便が多数ある。(夏期にはそれぞれ毎日14便、8便ほど)

また、Rhodes、Mykonos、Santorini と Herakleion 間に本数は少ないが、航空サービスがある。

海路については、Piraeus から Herakleion, Chanea 間にフェリーがある他、Dodecanese 島、Cyclades 諸島と Crete 間に、定期船がある。4月から10月にかけて Mykonos, Rhodes, Santorini と Crete (Herakleion) を結ぶ3日間クルーズが毎週出航している。

<観光資源>

Crete は、ヨーロッパにおける最古のミノア文明の数々の遺跡が残る著名な島であるとともに、温暖な気候と、自然景観に恵まれリゾート地としても人気の高い島である。クレタ島は巨大な島であり数多くの観光地を有しているが、その中でも比較的著名で、アクセスも良いものには次のようなものがあげられる。

i) Herakleion

Herakleion は人口10万人のクレタ島の首都、商工業の中心地であるとともに、クレタ観光の玄関口に当る。この都市の観光資源としては、考古学博物館と都市郊外にある Knossos の遺跡であり、町自体としては見どころは少ない。

考古学博物館は、クレタ全土からの出土品を集めたギリシャ有数の博物館で、年間の訪問者は約47万人を数える（1985年）。膨大な出土品は新石器時代から、ミノア文明、アルカイック時代のものまで15室に時代区分されて展示され、考古学的に貴重であるとともに、一般観光客にも、ミノア文明の魅力を味わうことができる。

Knossos は、Herakleion の南方5kmのオリーブ畑に囲まれた小高い丘の上にある。この地は新石器時代からの住居が幾重にも重なっており、その上に王宮が築かれたといわれる。

Knossos は、ミノア文明を代表する遺跡で各部屋が迷路のような細い通路でつながれこのことが迷宮伝説を生んだが、現在は、屋根、柱などがコンクリートで修復され、一般の人には他の遺跡に比べ判り易い。（しかし、一方で、その修復が過度であるとの声もある。）年間の入場者は約64万と、Athens の Acropolis、Delphi に次いで多い。

Herakleion 県内にある、その他のミノア文明遺跡として、Faestos, Malia の遺跡があるが、Knossos に比べ観光客は少ない。（Faestos：年間 170,000人）

ii) Agios Nikolaos

Agios Nikolaos は Herakleion の東69kmに位置した人口8,000人の町である。

この町は Mirabello Bay の中央部にあり、かつてはトルコ、ベネチアなどに支配され、砦として用いられてきたもので、1905年より Lasithi の県都となった。

1960年代には、Walt Disney や BBCの映画で紹介され、世界に知られるようになり、この町や周辺地域に数多くのリゾートコンプレックスがつくられ、高級リゾート地として欧米人やギリシャ人に人気が高い。

町の中心部には、海とつながった小さな湖があり、この周囲には、レストラン、ディスコ、カフェ、ホテル、店舗などがコンパクトにまとまって形成され、この町や周辺地域に滞在する観光客でにぎわっている。

iii) Chania

Chania は Herakleion の西140kmに位置した。人口5万人の都市で、1971年まではクレタの首都であったが、現在は Chania の県都である。

Chania は、13世紀以来ベネチアの支配下であり、16～17世紀にかけて城壁をもつ都市が建設され、今日でもそのおもかげを残す美しい旧市街がある。

Chania 周辺の観光地としては、ヨーロッパで最長（18km）の溪谷 Samaria Gorge があり、リゾート客に人気の高いツアーコースになっている。

iv) Rethymnon

Rethymnon は Herakleion と Chania の間に位置した人口18,000の町である。この町はトルコやベネチアに支配下にあったため、その影響が港に面して建て並ぶ砦、回教寺院、民家などに随所に見られる。これらの町並と、美しい浜辺が Rethymnon の観光資源で、この町周辺の浜辺に面して、リゾートホテルが建設されている。

<宿泊施設等>

1985年の統計では Crete におけるホテルは697軒（48,420ベッド）である。これらのほとんどは、クレタの北部海岸地域にある。

ホテルのベッド数では、Herakleion 県が、25,805ベッドと過半を占め、次いで Lessithi 県（10,871）、Rethymnon 県（6,545）、Chania 県（5,196）である。

AA、Aクラスのホテルは、65軒（20,000ベッド）である、これらが集積しているのは、Herakleion と Agios Nikolaos 間の海岸 Agios Nikolaos、Rethymnon、Chania の周辺の海岸地域で、ハイグレードホテルは、1960年代から建設が始まり、今日においても整備されつつあるため、その大部分は、最新設備をもつものである。これらのホテルは、海岸に面した広大な敷地の中に、バンガロー群や、多種多様の屋内外のレジャー施設をもつものであり、各種のマリンスポーツのスクールがある。

最近のリゾートホテルには、子供連れのリゾート客に対応して、外国人の育児専門スタッフを置くものもある。

また、Crete は、ミモザ、アネモネ、ランなどの花々が咲く島として著名で、各リゾートホテルの屋外もこうした花によって美しく飾られているなど、クレタ人のホスピタリティが感じられる。Crete 島の特産品としては、手織物、木彫品、などの伝統的工艺品があげられる。

3) 評価

・Rhodes

Rhodes 島には、中世都市 Rhodes Town、古代アクロポリスと白い民家集落の景観が美しい Lindos をはじめ島内各地には質の高いリゾート地域があり、一般の観光客、クルーズ客、リゾート客など多様な観光客が楽しめる観光地である。また、その位置条件のため、エーゲ海諸島、トルコなどと関連させて、旅程を組むことも可能である。

宿泊施設については、大規模ホテルが数多くあり、ショッピングについては、ヨーロッパのブランド品も手頃で(輸入品が免税扱い)、日本人の好むアクセサリーはハイグレードなハンドメイド品が多い。また、ロードス島は、日本人によく知られており、訪れた人の評価も高い。

こうした観点から、ロードス島はギリシャの観光地の中でも日本人観光客を魅きつける条件を備えたものの一つであると思われる。今後日本人に対する様々なPR、旅行代理店に対する積極的なプロモーションを進めて行くことが期待される。

・Crete

Crete 島は、Knossos をはじめ数多くのミノア文明の遺跡の残る島として著名である。

また、近年、島内各地に質の高いリゾートホテルが数多く建設され客をもてなすクレタ人の気質も関与して、ヨーロッパ人、ギリシャ本土の人々の間では、人気の高いリゾート地となっている。

クレタ島には、こうした文化資源、リゾート地あるいは、美しい民家集落などが全島に分布しており、島の魅力を十分に味わうためには1週間以上を要すると思われる。

短期の観光客にとっては、Herakleion の考古学博物館と近郊の

Knossos が主要なものであるが、両者を見て回るだけで最低1日が必要である。また、Herakleion は、商工業都市として成長してきたため、雑然とした雰囲気、Herakleion と Knossos の観光ルート沿いでは、Crete の良さを味わうことは難しい。観光ルート沿いの修景が今後の課題となろう。

日本人にとって Crete は有名であるが多くは、名前のみでその実態を知る人は極めて少ないと思われる。Crete の魅力を伝えるPR等が期待される。

7.4 プロモーション活動

7.4.1 ギリシャ政府観光局のプロモーション活動

1) 組織・予算

(1) 組織

ギリシャ政府観光局（GNTO）は、国家経済省の直接指導の下、1951年に独立した組織として設立され、同国の観光開発のための計画策定、実施およびプロモーションを担当している。GNTOの主な活動は次の通り。

1. 国家レベルの、観光開発上必要な主要インフラ施設の計画づくり
2. 公的部門と民間部門との間の調整
3. 民間部門の指導・管理

GNTOはアテネの本部とギリシャ国内の各地方事務所ならびに海外事務所から成っている。そのうち本部は図7.4.1にもあるように、12の部から構成されている。

一方、地方事務所はギリシャ国内の主要都市に21カ所、また海外事務所は18カ国25都市に設けられている。海外事務所の詳細は表7.4.1の通り。

GNTOの組織のうち、外人観光客誘致に直接携わっているのは、次にあげる部である。

A部：調査・開発

- A1課／調査・マーケティング

D-E部：広報-宣伝

・広報グループ

- D1課／広報（6人）
- D2課／旅行情報（17人）
- D3課／会議・展覧会（5人）

・宣伝グループ

- E1課／宣伝計画（6人）
- E2課／旅行情報製作（16人）
- E3課／視聴覚媒体製作（3人）
- E4課／旅行関連刊行物管理（1人）
- E5課／宣伝物配送（1人）

GNTO地方事務所・海外事務所管理部

- 海外サービス課

Figure 7.4.1
Organization Chart of GNTO

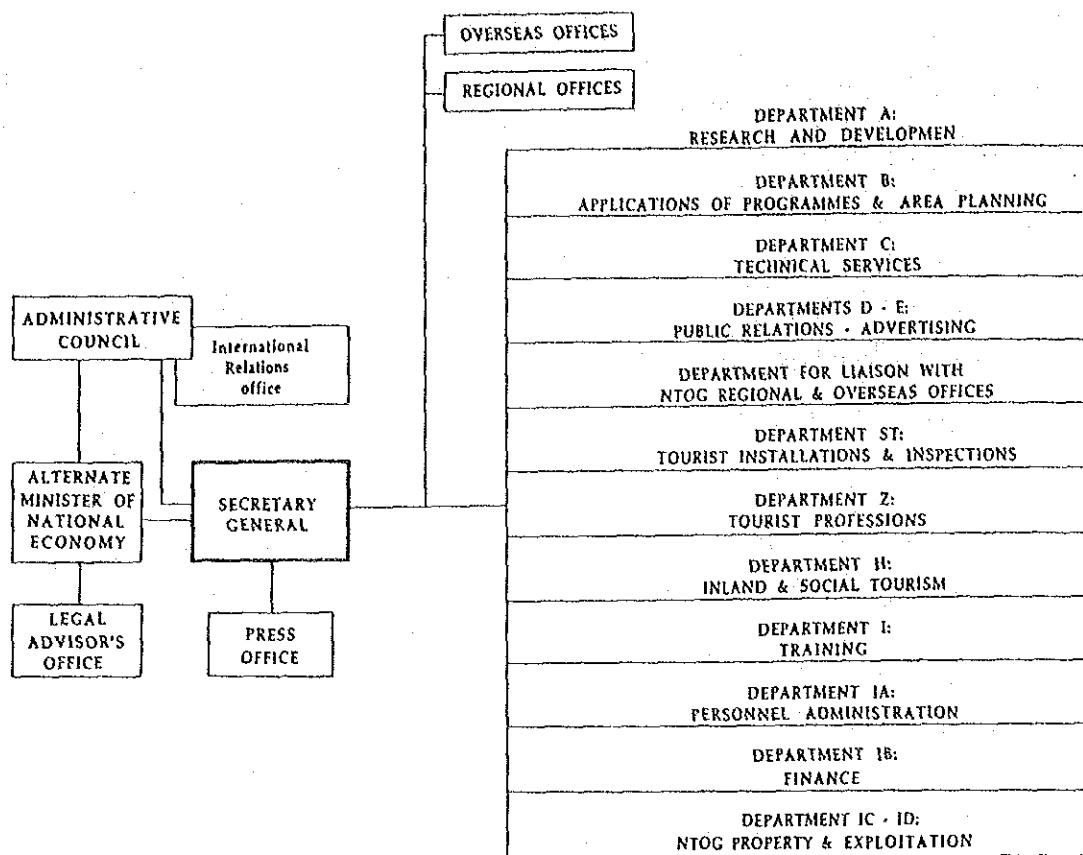


Table 7.4.1
GNTO Overseas Offices

Country	City
1. Argentina	Buenos Aires
2. Australia and New Zealand	Sydney
3. Austria	Vienna
4. Belgium	Brussels
5. Canada	Montreal, Toronto
6. Denmark	Copenhagen*
7. Finland	Helsinki*
8. France	Paris
9. W. Germany (FRG)	Frankfurt, Munich, Hamburg*
10. Italy	Rome, Milano
11. Japan	Tokyo
12. Netherlands	Amsterdam
13. Norway	Oslo
14. Spain	Madrid
15. Sweden	Stockholm
16. Switzerland	Zurich
17. United Kingdom and Ireland	London, Ascot**
18. U.S.A.	New York, Chicago, Los Angeles

Note: * Information offices
 ** Convention Bureau
 Source: GNTO

(2) 予算

GNTOの総予算が1980年の41億ドラクマから1988年には164億ドラクマに増加する一方で、プロモーション関連の予算も4億3,200万ドラクマから12億ドラクマにまで増えた。

しかしながら、予算全体に占めるプロモーション関連予算の割合は、11% (1980年) から7% (1988年) に低下している。

Table 7.4.2
GNTO's Budget, 1980-1988

Sector	1980		1982		1984		1986		1988	
	Drs mil	%	Drs mil	%	Drs mil	%	Drs mil	%	Drs mil	%
Administration	2,079	51.1	2,950	50.4	4,407	57.4	8,785	70.9	11,014	67.1
Promotion	432	10.6	444	8.5	890	11.6	990	8.0	1,200	7.3
Investment	1,502	37.3	1,795	34.3	2,276	30.0	2,523	20.4	4,000	24.4
Others	40	1.0	38	0.7	101	1.3	91	0.7	195	1.2
Total	4,071	100.0	5,226	100.0	7,574	100.0	12,388	100.0	16,409	100.0

Source: GNTO

GNTOの宣伝・広報予算の詳細は表7.4.3に示す通りである。それによると、1983年から87年の間、予算額は年によってかなり上下しているが、これは政府の財政緊縮策によるところが大きい。しかしながら、ギリシャへの外客総数に関するかぎり、同時期のプロモーション関連予算の増減によってそれほど深刻な影響は受けていないようにみえる。1988年からギリシャは、海外でのプロモーション活動を新たに強化し始めた。そのための宣伝・広報予算（米国を除く）も前年と比べると2倍以上に増やされている。

とりわけ「広告代理店」と「広報計画」（いずれも米国を除く）の費目の増加が著しい。海外におけるギリシャ観光振興3カ年計画の初年度にあたる1989年には、前年に続いて積極予算が組まれるものと思われる。

- 長期的な視点にたって効果的な宣伝・広報活動を実施していくには、毎年、そのための予算が安定的に割り振られることが重要であり、予算額の大幅な変動は極力避けることが望ましい。

Table 7.4.3
Advertising and Public Relations Budget
of GNTO (Total)

(in Million Drachmas)

Sector/ Item	1983		1984		1985		1986		1987		1988		1988/1983	
	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Drs	Rate
A. (Advertising)														
1. Advertising Companies	297.1	41.9	454.0	37.6	165.5	27.7	100.0	9.9	46.1	4.2	273.7	14.4	-23.4	0.92
2. Coop Advertising Shell Folders, etc. ^{1/}	12.0	1.7	77.5	6.4	24.0	4.0	15.0	1.5	20.7	1.9	70.0	3.7	58.0	5.84
3. Extra Insertions in Media	13.6	1.9	23.5	1.9	15.0	2.5	15.0	1.5	15.0	1.4	30.0	1.6	16.4	2.21
4. Posters, Brochures, Leaflets, etc.	108.1	15.2	200.0	16.5	49.0	8.2	167.0	16.4	271.0	24.9	330.0	17.3	221.9	3.05
5. Audio-visual Materials	18.8	2.7	31.2	2.6	7.0	1.2	7.0	0.7	13.0	1.2	60.0	3.2	41.2	3.19
6. Transport of Materials, Post, etc.	8.0	1.1	13.0	1.1	11.5	1.9	8.0	0.8	13.5	1.2	25.0	1.3	17.0	3.14
7. Parity Fluctuations ^{2/}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	2.6	50.0	0.00
8. Seminars for Tourist Conscience ^{3/}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	1.1	20.0	0.00
9. Programme for Winter Tourists	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	5.2	100.0	0.00
Sub-Total	457.5	64.4	799.2	66.1	272.0	45.6	312.0	30.7	379.3	34.8	958.7	50.3	501.2	1.10
B. (Public Relations)														
1. Programmes of Public Relations (except the U.S.) ^{4/}	67.5	9.5	100.0	8.3	124.0	20.8	147.0	14.5	116.0	10.6	262.0	13.7	194.6	3.88
2. Philoxenia (hospitality)	8.0	1.1	18.0	1.5	15.5	2.6	10.0	1.0	20.0	1.8	40.0	2.1	32.0	5.09
3. Congresses	11.0	1.6	15.0	1.2	22.0	3.7	20.0	2.0	30.0	2.8	80.0	4.2	69.0	7.27
4. International Relations ^{5/}	3.0	0.4	10.0	0.8	13.5	2.3	20.0	2.0	14.2	1.3	35.0	1.8	32.0	11.67
5. Extra Manifestations	6.5	0.9	6.0	0.5	1.5	0.3	1.0	0.1	4.0	0.4	6.0	0.3	- 0.5	0.92
6. Expenses in Greece - Subsidies ^{6/}	4.5	0.6	1.5	0.1	3.4	0.6	-	-	3.0	0.3	19.0	1.0	14.5	4.22
7. Philoxenia (exhibition in Thessaloniki)	-	-	-	-	40.0	6.7	32.0	3.2	32.5	3.0	40.0	2.1	40.0	0.00
8. Subscription	0.5	0.1	-	-	1.9	0.3	2.0	0.2	2.0	0.2	4.0	0.2	3.5	8.00
9. Parity Fluctuations	1.5	0.2	10.0	0.8	14.0	2.4	20.0	2.0	-	-	40.0	2.1	38.5	26.67
10. Expenses for Receiving Guests	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0	0.2	4.0	0.00
Sub-Total	102.5	14.4	160.5	13.3	235.8	39.5	252.0	24.8	221.7	20.4	530.0	27.8	427.6	5.17
C. (The United States)														
1. Advertising	120.0	16.9	203.0	17.0	24.0	4.0	375.5	37.0	410.0	37.6	320.0	16.8	200.0	2.67
2. Public Relations	30.0	4.2	46.2	3.8	65.0	10.9	75.5	7.4	80.0	7.3	99.0	5.2	69.0	3.30
Sub-Total	150.0	21.2	249.2	20.6	69.0	14.9	451.0	44.4	490.0	44.9	419.0	22.0	269.0	2.79
GRAND TOTAL	710.0	100.0	1208.9	100.0	596.8	100.0	1015.0	100.0	1091.0	100.0	1907.7	100.0	1197.7	2.69

(Reference)

Foreign Tourists Arrivals (000)	5,258	6,027	7,039	7,339	8,004	8,231	2,973	1.56
---------------------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

Source: GNTO

Details of each item are as follows:

- 1/ Financial aid to the advertising activities of travel agencies.
- 2/ Budget to cope with the fluctuation of the Greek currency in the world market.
- 3/ Seminars for the better understanding of persons concerned.
- 4/ Budgets for events.
- 5/ Budget to promote international relations between Greece and other countries.
- 6/ Help extended to people who organize conferences.

Table 7.4.4
Advertising and Public Relations Budget
of GNTO Offices Abroad (Direct Expenses)

(In Million)

Sector/ Item	1984		1985		1986		1987		1988		1988/1984		
	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Drs	%	Increase Drs	Rate	
Scandinavia	Advertising	21.0	3.4	22.0	11.2	11.0	2.2	0.0	0.0	20.0	3.1	-1.0	0.95
	Public Relations	7.0	5.2	17.5	8.4	15.2	6.9	15.3	6.6	22.0	7.3	15.0	3.14
	Total	28.0	3.7	39.5	9.8	26.2	3.7	15.3	2.1	42.0	4.4	14.0	1.50
U.K. & Ireland	Advertising	69.5	11.1	3.5	1.8	5.0	1.0	5.0	1.0	52.3	8.1	-17.2	0.75
	Public Relations	9.0	6.6	12.0	5.8	15.3	7.0	16.5	7.1	22.0	7.3	13.0	2.44
	Total	78.5	10.3	15.5	3.8	20.3	2.9	21.5	3.0	74.3	7.8	-4.2	0.95
France	Advertising	49.0	7.8	0.7	0.4	11.0	2.2	10.0	2.1	25.3	3.9	-23.7	0.52
	Public Relations	6.3	4.6	6.9	3.4	10.4	4.8	9.5	4.1	13.5	4.5	7.2	2.14
	Total	55.3	7.3	7.6	1.9	21.4	3.0	19.5	2.7	38.8	4.1	-16.5	0.70
W.Germany	Advertising	60.3	9.6	54.0	27.5	6.0	1.2	2.5	0.5	50.0	7.7	-10.3	0.83
	Public Relations	19.2	14.2	26.0	12.6	30.0	13.7	28.5	12.4	36.5	12.1	17.3	1.90
	Total	79.5	10.4	80.0	19.8	36.0	5.1	31.0	4.4	86.5	9.1	7.0	1.09
Belgium	Advertising	15.0	2.4	0.8	0.4	1.5	0.3	6.0	1.3	16.5	2.6	1.5	1.10
	Public Relations	3.5	2.6	2.5	1.2	4.2	1.9	5.2	2.3	7.0	2.3	3.5	2.00
	Total	18.5	2.4	3.3	0.8	5.7	0.8	11.2	1.6	23.5	2.5	5.0	1.27
Netherlands	Advertising	12.5	2.0	11.5	5.9	3.5	0.7	2.0	0.4	15.0	2.3	2.5	1.20
	Public Relations	3.5	2.6	5.1	2.5	7.0	3.2	7.5	3.3	10.0	3.3	6.5	2.86
	Total	16.0	2.1	16.6	4.1	10.5	1.5	9.5	1.3	25.0	2.6	9.0	1.56
Switzerland	Advertising	27.3	4.4	0.0	0.0	7.5	1.5	3.0	0.6	27.6	4.3	0.3	1.01
	Public Relations	9.5	7.0	11.6	5.6	15.0	6.9	17.6	7.6	23.0	7.6	13.5	2.42
	Total	36.8	4.8	11.6	2.9	22.5	3.2	20.6	2.9	50.6	5.3	13.8	1.38
Austria	Advertising	16.7	2.7	25.5	13.0	2.0	0.4	18.0	3.8	25.0	3.9	8.3	1.50
	Public Relations	4.3	3.2	3.8	1.8	4.5	2.1	4.0	1.7	7.0	2.3	2.7	1.63
	Total	21.0	2.8	29.3	7.3	6.5	0.9	22.0	3.1	32.0	3.4	11.0	1.52
Italy	Advertising	30.6	4.9	28.0	14.2	5.0	1.0	1.5	0.3	19.0	2.9	-11.6	0.62
	Public Relations	5.5	4.1	7.6	3.7	9.5	4.3	10.2	4.4	11.0	3.7	5.5	2.00
	Total	36.1	4.7	35.6	8.9	14.5	2.0	11.7	1.7	30.0	3.2	-6.1	0.83
Spain	Advertising	11.5	1.8	0.0	0.0	5.0	1.0	6.6	1.4	9.1	1.4	-2.4	0.79
	Public Relations	3.2	2.4	19.0	9.2	3.5	1.6	3.5	1.5	8.0	2.6	4.8	2.50
	Total	14.7	1.9	19.0	4.7	8.5	1.2	10.1	1.4	17.1	1.8	2.4	1.16
U.S.A	Advertising	203.0	32.5	24.0	12.2	375.5	76.3	410.0	85.4	305.4	47.2	102.4	1.50
	Public Relations	46.2	34.1	65.0	31.5	72.5	33.1	80.0	34.7	99.0	32.8	52.8	2.14
	Total	249.2	32.7	89.0	22.1	448.0	63.0	490.0	68.9	404.4	42.6	155.2	1.62
Canada	Advertising	32.6	5.2	18.8	9.5	20.0	4.1	6.5	1.4	50.9	7.9	18.3	1.56
	Public Relations	6.8	5.0	12.0	5.8	13.6	6.2	14.0	6.1	16.0	5.3	9.2	2.35
	Total	39.4	5.2	30.8	7.7	33.6	4.7	20.5	2.8	66.9	7.1	27.5	1.70
Australia & New Zealand	Advertising	34.0	5.4	6.3	3.2	10.0	2.0	6.3	1.3	25.0	3.9	-9.0	0.74
	Public Relations	5.7	4.2	8.7	4.2	8.2	3.8	7.0	3.0	9.0	2.9	53.6	1.58
	Total	39.7	5.2	15.0	3.7	18.2	2.6	13.3	1.8	34.0	3.6	-5.7	0.86
Japan	Advertising	42.5	6.8	1.0	0.5	29.0	5.9	2.5	0.5	6.2	1.0	-36.3	0.15
	Public Relations	6.0	4.4	8.5	4.1	10.6	4.8	12.0	5.2	17.0	5.6	11.0	2.83
	Total	48.5	6.4	9.5	2.4	39.6	5.5	14.5	2.0	23.2	2.5	-25.3	0.48
Total	Advertising	625.5	100.0	196.1	100.0	492.0	100.0	479.9	100.0	647.3	100.0	21.8	1.03
	Public Relations	135.7	100.0	206.2	100.0	218.9	100.0	230.7	100.0	301.0	100.0	165.3	2.22
	Total	761.2	100.0	402.3	100.0	710.9	100.0	710.6	100.0	948.3	100.0	187.1	1.25

Source: GNTO

2) 活動内容

(1) ギリシャ政府観光局による宣伝

ギリシャ観光振興のための宣伝は、その多くが海外事務所によって行われており、表7.4.4からも明らかのように、1988年にはそうした海外事務所の直接費（宣伝及び広報）として9億4800万ドラクマが予算化されている。

- ギリシャへの国別来訪客数及び予算額から判断して、従来は米国、英国、西ドイツ、フランス等が重視されてきており、1985年には、これら4カ国だけで外客総数の46.7%を占めた。しかしながら、米国の場合、ギリシャへの来訪者数に比して宣伝予算の配分割合が著しく高い。GNTOが実施している宣伝活動は次の通り。

—マス媒体による宣伝

例) 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画等

—パンフレット、ポスター等による宣伝

パンフレットはGNTO本部ならびに各海外事務所双方によって製作されている。約30種類ほどのパンフレットがGNTO本部によって製作されており、1987年の発行部数は895万部に上る。そのうち同年に海外事務所へ配布されたのは、約420万部であり、ニューヨーク(619,000部)、フランクフルト(535,400部)、ブリュッセル(452,600部)、ウィーン(355,200部)、シドニー(358,100部)が上位5位までを占めている。しかしながら、国別にみたギリシャへの来訪外客数とパンフレット配布部数の間に有意な相関関係は認められない。

- 各国の海外事務所にGNTO本部からパンフレットを配送するにあたっては、ギリシャへの来訪客数だけが唯一の目安とはならないが、各海外事務所で製作されているパンフレットの部数も考慮に入れて配布部数を再検討する必要がある。

観光地別にみると、『クレタ島』(399,090部)がいちばん多く、次いで『アテネ・アッティカ地方』(364,600部)、『アルゴリス・コリント』(332,100部)、『デルフィ』(291,000部)、『ロードス島』(271,900部)と続いている。観光地別の延宿泊数とパンフレット部数の間の相関係数は0.6617になる。

GNTO本部から東京事務所に配送されたパンフレットの中では、『デルフィ』(8,000部)、『アテネ・アッティカ地方』(6,400部)、『アルゴリス・コリント』(6,400部)、『スラス・サモスラス』(6,400部)、『ギリシャ地図』(5,400部)といったところが多い。

Table 7.4.5
Number of Copies of Brochures Distributed
by GNTO Head Office and Tourist Arrivals (1987)

Name of Country	Number of Copies of Brochures	Number of Tourist Arrivals
Austria	366,200	305,000
Denmark	75,300	210,000
United Kingdom	31,200	1,980,000
France	330,200	510,000
West Germany	535,400	1,180,000
Italy	368,500	465,000
Spain	98,200	50,000
Sweden	146,800	239,000
Switzerland	158,730	172,000
Japan	61,640	92,000
USA	619,100	260,000
Canada	257,940	91,000

Source: GNTO

(2) 広報

GNTOの海外事務所が現在行っている広報活動は概略次のような内容である。

- (a) 他のギリシャ政府関係機関及び民間組織がギリシャ観光振興のために海外で行うプロモーション活動への援助。
- (b) ギリシャの観光関連部門が行う観光ミッションへの援助。
- (c) 貿易見本市への参加
- (d) 新聞、雑誌記者、旅行作家、写真家等がギリシャに関して行う情報収集活動への援助
- (e) マス・コミ各社がギリシャを訪問するさいの協力・援助
- (f) 旅行会社を対象に行う研修旅行の実施
- (g) 旅行関連産業を対象としたセミナー、ワークショップの開催
- (h) 旅行会社のプロモーション活動に対する資金面での援助
- (i) 旅行博覧会への参加

GNTOはヨーロッパと米国で毎年開催される数多くの旅行博覧会に参加している。1989年には、GNTOとヘレクスポ（注）の主催のもとテッサロニキで開催されるフィロクセニアの他に、37の旅行博覧会に参加する予定である。そのうち、ロンドンとベルリンでの旅行博がその規模からして、重要といえる。

広報活動を展開するうえで主な対象国となるのは、宣伝活動のそれと基本的に変わらない。

（注）7 - 頁参照

(3) イベント

ギリシャ観光の振興に役立つようなイベントは以下に述べる通りである。これらのイベントは、GNTOが直接主催するか、あるいは他の組織と共同の形で行われている。図7.4.2は1988年におけるギリシャ国内でのイベント・カレンダーである。

アテネ・フェスティバル

アテネ・フェスティバルは34年前に開始され、現在ではギリシャで最も有名なイベントといえる。GNTOの事務局長が直轄するアテネ・フェスティバル部がこれを担当しており、1988年には3億6,100万ドラクマの予算がつけられている。同年には47回にわたって様々な催し物が行われ、チケットの売上は172,323枚、2億1,600万ドラクマに上った。

アテネ・フェスティバルについては、パンフレットの選配やチケット販売窓口の数の不足等、いくつかの問題点が指摘されている。しかし、催し物そのものもさることながら、ヘドロ・アティコス劇場の醸し出す雰囲気がいへん素晴らしいため、外国人観光客にアピールする要素を多々含んでいるといえる。

- このアテネ・フェスティバルの、観光客誘致のための活用方について検討することが、日本人観光客を誘致するうえで、有益と考えられる。

他のフェスティバル

アテネ・フェスティバルと同じようなフェスティバルとしては他にエピダウロス・フェスティバルとリカベトス・フェスティバルがあるが、規模はアテネ・フェスティバルに比して小さい。これら2つのフェスティバルの実績結果は表7.4.6に示す通りである。図7.4.2に示されるように、音楽、文化関係のフェスティバル、ワイン・フェスティバル、アート・フェスティバル等も夏季を中心にギリシャの致る所で開催されている。

これらのフェスティバルはいずれも外国では知られておらず、それだけで外国人観光客を誘致し得る可能性は極めて少ない。

- ギリシャがもつ魅力を外国人観光客にもっとよく理解してもらうためには、こうしたフェスティバルに接する機会をもっと提供していくことが重要であろう。

Figure 7.4.2
Calendar of Events in Greece, 1988

	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
Throughout Greece	1: Feast of Saint Basil 6: Epiphany	Carnival Season 22: Shrove Monday	25: Independence Day Annunciation	8: Good Friday 9: Holy Saturday 10: Easter Sunday	1: Labor Day and Flower Festival	Navy Week	15: Portrayal of the Virgin Mary		28: Oh! Day National Anniversary			24: Christmas Eve 25: Christmas 31: New Year's Eve
Athens						Sound and Light Performances Dora Stratos Greek Folk Dancers Athens Festival Lycabettus Theatre 25th Aegean Sailing Week			1st week Athens Open European Sailing Championship International Marathon Exhibition of Photography			
Thessaloniki	Textilia		Infacos, B. Parnidec	Philosofia	Narain 21-23: Anastasmarin Detroit	Textilia			Trade Fair Greek Song Festival	Greek Film Festival Dessafis Festival	Koskiso Women's Greek Exhibition Info-system	Jazz Festival
Rhodes						Sound and Light Performances Relly Dionision Greek Folk Dances						
Corfu						Sound and Light Performances						
Crete						Tradition Revivals						
Lesbos								Aegean Symposium				
Paros								Pinaco. e. Raid				
Lefkas								Work and Art Festival				
Katerini								Olympus Festival Hippokratelia Festival				
Kos				20: Feast of Saint George								
Epidauros								Epidaurus Festival				
Patras								Patras Festival				
Mystra						Palamoxia Festival						
Daphne								Ripe Festivals				
Ionio								Epidauros Cultural Public Square				
Ithaca								Music Festival				
Preveza								Cultural Festival				
Philippi, Thassos								Philippi and Thassos Festival				
Lemnos, Arhoyd and Assi Gonia				21: Feast of Saint George								
Attica								Aeschylis Performance				

Table 7.4.6
Results of Epidauros and Lycabettus
Festivals, 1988

Festival	Number of Performances	Number of Sales Tickets	Fees Collected in Drachmas
Epidauros Festival	13	33,205	27,451,200
Lycabettus Festival	38	31,366	34,045,600

Source: Department of Athens Festival

スポーツ・イベント

ロードス・マラソンやシチズン・ゴールデン・マラソン等が近年、日本企業をスポンサーに行われており、その概略は表7.4.7、表7.4.8に示す通りである。

Table 7.4.7
Outline of Rhodes Marathon

Month/Year	: October 1983
Name of Sponsor	: Mizuno, one of the largest companies in the field of sports articles, which has special interests in Greece, the birth-place of the Olympics.
Cooperative Companies:	Japan Air Lines Nippon Television Network Corporation (NTV) Sankei Sports (Newspaper) Magazine House (Magazine)
Purpose	: Advertising of Mizuno's articles, particularly the training wear
Contents of Event	: Marathon race of 10-kilometers in which 180 Japanese and 100 runners from other countries participated. A short concert of a Japanese singer, Hideki Saijo was organized.
Expenditure of Mizuno:	About 25 million yen
Result	: The scene of Rhodes Marathon was broadcasted on television on newspaper and magazine by Sankei Sports and Magazine House respectively.

Source: Mizuno

Table 7.4.8
Outline of Citizen Golden Marathon

Month/Year	: March 1982
Name of Organizer	: International Amateur Athletic Federation (IAAF)
Name of Sponsor	: Citizen Watch Co., Ltd.
Cooperative Companies:	None
Purpose	: Image lifting of Citizen's corporate identity
Contents of Event	: Formal marathon race using the same historical marathon course between the ancient battle field of the 1st Olympic Game of 1896. About 100 leading runners invited by IAAF participated in this race. Gomez, Mexico won. Kunimitsu Ito of Japan abstained from race after he ran about 30 kilometers.
Expenditure of Mizuno:	300 - 400 million yen
Result	: The scene of Citizen Golden Marathon was broadcast on television nationwide in Japan a few days later by Tokyo Broadcasting System (TBS).

Source: Citizen Watch

- アテネ・ゴールデン・オリンピック（1996年）が正式に決まれば、日本の企業は間違いなくギリシャに目を向けるようになる。そして日本企業がギリシャで主催する何らかのイベントの様子が、日本国内のテレビで放映されるなり、新聞・雑誌等に掲載することになれば、それは結果として、ギリシャ観光の振興に役立つものと考えられる。その場合、GNTOの協力が必要なことは言うまでもない。

(4) 会議・見本市

会議・見本市誘致の分野では、4つの公的機関ないし半ば公的な機関が積極的な活動を展開している。

(a) GNTOのD-E部D3課/会議・見本市

ギリシャ観光の振興に役立ちそうな会議・見本市のギリシャ国内及び海外におけるプロモーション活動を担当している。具体的には、会議・見本市の主催者に対する資金面での援助、マス媒体宣伝、会議実施のためのマニュアル刊行等々の活動を行っている。

(b) GNTOコンベンション・ビューロー

1989年に創設されたばかりであり、英国のアスコットに事務所が置かれている。ヨーロッパのインセンティブ市場にギリシャを紹介することを主要な業務としている。